
遊戯王 伝説の刃

ノウレッジ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王 伝説の刃

【Nコード】

N1881T

【作者名】

ノウレッジ

【あらすじ】

あるマンシヨンに第2回バトルシティ優勝者がいた。

平和な学生生活を送っていたはずが、幼馴染と共にとんでもない結社の標的にされてしまう。

彼らは友人と共に、悪の結社に立ち向かう。

0 話：プロローグ（前書き）

どうも、ノウレッジです。

遊戯王の方にも手を出してみました（と言うか、最初からポケモンと遊戯王の2本柱で行く予定だったのだけれども、事情があつてこちが遅れた）。カード知識はあまりありませんが、頑張ります。

では、スタートです。

0 話：プロローグ

夕焼けの差し込む部屋で、1人の少年が棚にトロフィーを置く。磨かれた後だからか、ピカピカだ。

『第2回バトルシティ 準優勝者：雷条 淳』
じゅうじょう じゅん

トロフィーにはそう刻まれていた。

童実野町で2年に1回開催される“決闘王―デュエルキング―”を決定する大会、『バトルシティ』。

そこで使用されるデュエルモンスターズというカードを用いる戦い“決闘―デュエル―”において、前回の大会2位の者がこの部屋に住んでいる。

彼の名前は雷条 淳。

数年前に両親に他界され、2人の持っていたマンションの一室に一人で住む彼は、しかし独りでは無い。

サラサラとした短髪を揺らしつつ、後ろを振り返ると、幼馴染と目が合う。

「明日は頼むぞ、菖蒲。1人のデュエリストとして全力で行かせてもらう。」

「OK、手加減はしないからね！」

不敵に笑う淳に対し、闘志を燃やしてポニーテールの少女が答える。

彼女の名前は美種 菖蒲。
みたね あやめ

子の出来ない美種家に引き取られた養子。そして淳のライバル。2人の間に激しく火花が散る。何故戦うのかは不明だが、2人は幼い頃から家族同然の付き合いだった。所謂気の置けない間柄だ。

そして同時に、互いに誇り高きデュエリストでもある。手加減は失礼というモノだ。

菖蒲も相当な腕前なのか、淳と共に溢れ出している闘志がぶつかり合い、部屋の窓がビリビリと震えている。

しかし、フツ、と唐突に消え失せる。

菖蒲がニコニコしながら言う。淳が言うには彼女にはどんな表情よりも笑顔が一番似合うそうだ。

「でもまず晩御飯ね？ 手伝って」
「分かった」

夕飯の支度の時間なのだ。

毎度毎度、実は美種家のご相伴に預かっている淳。家庭科が酷く苦手な彼は、今回も隣的美種家へ。

代わりに部屋代を無しにしているのだから、発案者の菖蒲の父親も豪気な人と言うべきか。

それはともかく、ガチャリとドアに鍵をかけ、淳と菖蒲はこの部屋を後にした。

鍵がかかっている部屋の中、どこからともなく1人の女性が現れた。何故か半透明で向こう側が透けている。

『そろそろ…、目覚めの時ですね…』

そう言うと、ミステリアスな雰囲気を残して、その女性は光となつて消えた。

t o b e c o n t i n u e d

0 話：プロローグ（後書き）

次回、淳と菖蒲の校内の立ち位置なんかが明らかに。

次回も頑張ります。

1話：『それが男だ!!』『アホどもが…』（前書き）

ちよつとアホな第2話です。

少しでもお楽しみ頂ければ幸いです。

では、スタート！

1話：『それが男だ!!』『アホどもが…』

淳と菖蒲が通う高校、都立綿倉^{わたくら}高校。その専用デュエルフィールドに2人は向かい合っていた。周りにはクラスメイト達が観戦に、教師が審判に来ている。

「菖蒲！」

ディスクを構えた淳が叫ぶ。

「あんなモノには微塵も興味は無え。だが、1人の決闘者^{デュエリスト}としてデュエルフィールドに立った今、全力を尽くさせてもらおう？」

菖蒲はそれに不敵に笑う。

「もっちゃん！ クラスの女子のためにも、あんたのライバルとしても遠慮は一切しないよ？」

互いから発せられる闘気が会場に満ちる。今、二人のデュエリストがお互いの全てをぶつけ合おうとしていた。

デッキから5枚のカードを引く音が静かに鳴り響く。

——実はこの2人、私情で戦う訳では無い。ならば何故か。
事の始まりは三日前に遡る。

——三日前

放課後、クラス委員である菖蒲と一緒に淳は文化祭の出し物につ

いて検討していた。

「喫茶店、と言われてもね。店の勝手はさておき、もう少しインパクトが欲しいよね」

「正論。喫茶店を開くクラスは他にもあるだろうから、何か一つ欲しいな。どうせなら賞も欲しいし」

文化祭では集まったお客の投票で、様々な賞が貰える。もちろん商品付きだ。

ホームルームで決まった2人のクラスの出し物は喫茶店。しかし、それはあまりにも普通。このままでは賞はおろか、客まで来ないかも知れない。

「むう……」

「ぬう……」

淳の頭はほぼ平均、菖蒲はそれより若干上といったところ。無い頭、ではないが捻ったところですねなり妙案が浮かぶ訳でもない。と、そこで助け舟が出た。否、出たと思ってしまった。

「そーんなに悩んでんなら、おれがアイデアだしてやるよーん？」

クラスメイトの一人、藤木だ。どんな奴かと問われれば10人が10人とも『マンガなんかで出て来るお調子悪役キャラ』と答えるだろう。

正直、こいつのアイデアはいらないと2人は思ったが、アイデアが無いのも事実。聞くだけ聞くことにした。

「聞くだけ聞く。言ってみろ」

「ふっふっふ……」

何やら怪しい笑みを浮かべた藤木は懷から大きめの紙を取り出す。そこには何やら無駄に巧い絵が描かれていた。実は美術の成績が優秀なのだ。

「じゃっじゃ〜んっ？ メイドk「「帰れ」」全部言わせてよ!？」

聞いたただけ無駄だった。聞いたこっちがバカだった。2人の心はシンクロした。

「そんなんまかり通るわきゃねエだろ。ほら行った行った」

「ゴメンね、忙しいから今すぐ帰って」

「冷てえっ!!!」

オーマイガッ！　と言わんばかりの藤木だが、実際その心境なのは淳と菖蒲だ。なんせアイデアが全く纏まらない。このままではまともな出し物にならない。

ハア、と溜息を吐き、作業に再び取り掛かるうと構えた。

しかし、藤木はしつこかった。是が非でもこの計画を成功させたかったらしく、とんでもない事を仕出かしていたのだ。

「ふっふっふ、お2人さ「だから帰れっつーの」「着る人の身にもなれない人は帰って」だから最後まで言わせてよ!？」

涙目で必死にアピールする藤木。流石に2人も鬼では無いので、聞いてやる事にした。

「続きがあるのか？　ならさっさと話せ」

後にこれが間違이었다と淳は語る。下手な同情を掛けたのは失

敗だったのだ、と。

「へっへっ。実はこの企画、もう了承が取れたも同然なんだよね」

「何……？」

「どういう事……？」

ニヤリと笑う藤木。悪寒が背に走るのは気のせいでは無いだろう。この男、愛すべき小悪党みたいな奴だが行動力が凄まじく高い。一体どこにそんなエネルギーがあるのか、聞いてみたいと淳は常々思っている。

「な、なんと！ 実はこのクラスの淳以外の男子から、メイド喫茶の賛成の署名を頂いたのだ」！！

「何い——ッ！？」

正しく仰天した。行動力のある奴とは思っていたが、ここまでとは。

なるほど確かに彼の手の中には署名があるし、そこには淳以外の男子の名前が記名されていた。

淳のクラスの人数は40人。その内男子が23人。淳以外、という事は22人の賛成票が集まっている事になる。明らかに過半数オーバーだ。

つまり、このまま行けばメイド喫茶がまかり通ってしまう可能性が高い。そんな事になればクラス委員の菖蒲と手伝いをした淳に避難の目が向くのは明白だ。

「だったらここでそいつを握り潰すまでだ！」

「覚悟！」

最早パワーで潰すしか無い。2人は腕づくでメイド喫茶を揉み消

しにかかった。淳が右、菖蒲が左から藤木に飛び掛かる。
しかし、藤木は2人の攻撃を掻い潜ると距離をとった。

「ふっふっふ。ちなみにこいつは担任に既に見せた。明日のLHR
で話し合うつてよ」

「「あんのマダオがあ

——ッ！——！！——！！」

2人の叫びが夕焼けの校舎の中で木霊した。

余談だが、22人中17人が賄賂や脅迫、更には説明なしの署名
だったらしい。

——再び現在

翌日のLHRでは菖蒲や淳を始め、男子生徒の殆どが大バツシングされた。

それを事情を知らなかった男子生徒達が説明すると、主犯格である藤木とその友人が叩かれた。ここまでは淳と菖蒲の想像通りだった。

しかし、この後に予想外の事が起きた。

なんと、女子がメイド服に興味を持ったのだ。

なんでも、1度着てみたかった、どうせだったら派手に、お客さんが呼び込めるなら、と賛成票が浮き上がり、ノリと興味で数名の女子と男子が賛成したのだ。

結果、賛成17人、反対19人、欠席4人。

たった一部だが、女子の賛成があった。その事で下心を出した男子がいた。それがこの結果を招いたのだ。

喧々諤々と話しても全く決着が付かなく、最終的に風で誰かのカードが飛んだ事から、デュエルで決着を付ける事にした。

まさにデュエル万能説、だ。

そして、放課後になった今、男子代表の淳と女子代表の菖蒲がデュエルで勝負を始めようとしている。

無論、淳はメイド喫茶反対派。しかし、賛成者は14人が男子。済し崩しだ。

「勝てえ、淳！ 勝っておれ達の夢を！」

「（ウザ……）」

流石にウザい。淳はメイドに興味は無い。

というより、淳は1つ気がかりな事を尋ねた。

「つーか、主催者俺達だろ？ 自分でやって楽しいのか？」

『何を言うか！！』

藤木だけでなく、元々の賛成者の男子からも怒鳴られた。

「例え店内やメイドさんの正体があつていても、メイド服に詰まつたロマンが分からんのか貴様はア！」

「『お帰り』ではなく『お帰りにさいませ』という言葉！」

「『ご主人様』と呼んでくれるあの瞬間！」

「あの服の黒と白のマツチング！」

「家政婦ではなくメイドさん！」

（流石に引くぞ、ありや……）

他の奴らを見ている「キモい」とか、「同じ男としてハズい」とか、「なんでオレ賛成したんだろ……」とか、「今からでも反対にできない？」とか色々言われている。

きつと将来彼女できないか、できてもアレ（メイド服）強要するのだろう。

「あー、要するに、メイドさんがいるから問題無い、と？」
「その通り！」

藤木が自信満々に言い放つ。

「メイドさんのためなら何だってやる！」
『それが男だ？』

これはもう呆れるを通り越して、空しいの領域だ。

「アホどもが……」

思わず脱力する淳。哀れに思ったのか菖蒲が慰めようと声をかける。

「淳、ドンマイ」

「……不戦敗に出来ねえか？」

思わず本音が漏れる。

そこに大ブーイングが入るが、無視。

「……………」

「菖蒲？」

何か悲しそうに顔を伏せる菖蒲に気付く、淳が怪訝な顔をする。
そして顔を上げる。涙目で、しかも上目使いだ。

「……淳は私とデュエルするのは、イヤ？」
「あぐうっ！！！？」

昔から菖蒲の涙目の顔には勝てない。罪悪感にコンマ1秒で押し潰された。

メイド喫茶云々の他、彼女は淳とデュエルするという目的もあったらしい。

クラスのマドンナ（表現古い b y 淳）と呼ばれる彼女は可愛い系。最初から勝率は無い。

「いや、そういう訳じゃ……」
「ならやろう！」

嘘泣きだったらしい。嵌められたと思いつつも、ディスクを改めて構える。

「じゃあねえ。やるか！」
意を決した淳と、菖蒲が叫ぶ。

『デュエル！！』

t o b e c o n t i n u e d

1話：『それが男だ!!』『アホどもが…』（後書き）

いかがでしたでしょうか？

次回はようやく初デュエルです。
お楽しみに

2話：激闘！！ 淳VS菖蒲！！（前書き）

淳「俺の菖蒲のデュエル回だな」

菖蒲「アンタはバトルシティ準優勝。私はそもそも参加してない…」

淳「き、気落ちするなよ……！ 第一、俺も運で行ったみたいなモンだぜ？ 決勝で前回優勝の遊戯さんとぶつかったから負けたんだ。それ以外は運だよ！」

菖蒲「自慢？ 余計自信無くす……」

淳「だあああああああつ、チクショウ！ 女の子って難しいなあオイ！」

ハイ、3話目投稿です。スタート！
あ、オリカも大募集です。

淳「ほっとかないで!？」

2話：激闘！！ 淳VS菖蒲！！

SIDE：菖蒲

とうとう私と淳のデュエルが始まった。
淳の実力はかなり高い。でも、淳は前に言っていた。

『人の思いを背負った戦いは、負けない』

そう、私はクラスの女子の思いを背負っている。
対して淳は男子の思いを投げ捨てている。
きっと、好い感じのハンデになってくれている！
さあ、私のデッキよ、皆の思いに答えて？

「先行は私！ ドロー？」

引いたカードは罠カードの『トラップ・ジャマー』。『ポリノシス』が欲しかったな。

ポリノシス（カウンター罠）

自分フィールド上に存在する植物族モンスター1体をリリースして発動する。

魔法・罠カードの発動、モンスターの召喚・特殊召喚のどれか1つを無効にし破壊する。

手札は……

『超栄養太陽』

デュアルサモン

『二重召喚』

『イービル・ソーン』

ソーン・ウォール

『棘の壁』

『ギガプラント』

見ての通り、私のデッキは植物族を主軸にした【植物デッキ】。
この手札で出来る最善の手段は……

「カードを1枚セット！更に永續魔法『超栄養太陽』、通常魔法『

デュアルサモン

二重召喚』を發動？」

デュアルサモン
二重召喚

【通常魔法】

このターン自分は通常召喚を2回まで行う事ができる。

これを見ても淳は眉1つ動かさない。先の展開が読めない訳でも無いだろうに。

「『イービル・ソーン』を召喚？」

イービル・ソーン：ATK 100

「先手はお前か……」

淳が静かに言う。何をやるか、完全に見切られている！
でも、先行1ターン目。何もできないはず！！

「『イービル・ソーン』のモンスター効果発動！ このカードを墓地に送り、相手に300ダメージ！ “イービル・バースト”？」

イービル・ソーンが突如起爆。飛び散った棘が淳を襲った。

「っく？」

淳：LP 4000 ↓ 3700

「更に同名モンスターを2体、デッキから特殊召喚？」

イービル・ソーンはダメージと同時にモンスターの増殖にも使える。展開力を売りにする植物族デッキには相性バツグン！

イービル・ソーン：ATK 100

イービル・ソーン（効果モンスター）

星1

闇属性/植物族

ATK 1000 / DEF 300

このカードをリリースして発動する。

相手ライフに300ポイントダメージを与え、自分のデッキから「イービル・ソーン」を

2体まで表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚した「イービル・ソーン」は効果を発動する事ができない

……攻撃表示つてのが欠点だけど。おまけにこのイービル・ソーン達は効果が使えない。

だからこうする！

「『二重召喚』の効果で、イービル・ソーンの片方を生け贄に『ギガプラント』を攻撃表示で召喚？」

ギガプラント：ATK 2400

ギガプラント（デュアルモンスター）

星6

地属性/植物族

ATK 2400 / DEF 1200

このカードは墓地またはフィールド上に表側表示で存在する場合、通常モンスターとして扱う。

フィールド上に表側表示で存在するこのカードを通常召喚扱いとして再度召喚する事で、このカードは効果モンスター扱いとなり以下の効果を得る。

- 自分の手札または墓地に存在する昆虫族または植物族モンスター1体を特殊召喚する。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

出てきたのはレベル6、赤い花(?)の頭に植物の体を持つデュアルモンスター。

「続いて『超栄養太陽』の効果発動? 場のレベル2以下の植物族モンスター1体を生け贄に、そのレベル+3以下の植物族モンスターを1体、デッキまたは手札から特殊召喚?」

イービル・ソーン: 1

「デッキからレベル3の『ボタニティ・ガール』を特殊召喚?」

ボタニティ・ガール（効果モンスター）

星3

水属性/植物族

ATK 1300 / DEF 1100

このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、自分のデッキから守備力1000以下の植物族モンスター1体を手札に加える事ができる。

この子はリクルーターの1体だ。

ボタニティ・ガール：ATK 1300

「ターンエンド？」

菖蒲：LP 4000

手札：1枚

フィールド

：ギガプラント（ATK 2400）、ボタニティ・ガール（ATK 1300）

：『超栄養太陽』（永続魔法）、伏せカード1枚

これが今できる最善の一手。なんとかして勝たないと！

SIDE：淳

菖蒲の奴、やるようになったな。昔は素人感丸出しだったつーのに。

こりゃ手え抜いたら負けるな。

元より勝つつもりは無えが、手抜きで負けたらあいつ絶対怒るかな……。

また夕飯にイナゴの佃煮は勘弁だっつの？

「俺のターン、ドロー？」

こつ来たか。なら……

「魔法カード『^{マジック}強欲な壺』を発動し、『マンジュ・ゴッド』を召喚する？」

マンジュ・ゴッド（効果モンスター）

星4

光属性／天使族

ATK 1400 / DEF 1000

効果

このカードが召喚・反転召喚に成功した時、自分のデッキから儀式モンスターまたは

儀式魔法カード1枚を手札に加える事ができる。

この1枚でバレバレかも知れないが、俺のデッキは儀式モンスターを中心にしている。ただし、儀式モンスターだけでは回らないので、あくまで主軸だ。

「効果でデッキから『高等儀式術』を手札に加え、発動？」

高等儀式術【儀式魔法】

手札の儀式モンスター1体を選択し、そのカードとレベルの合計が同じになるように自分のデッキから通常モンスターを墓地へ送る。
選択した儀式モンスター1体を特殊召喚する。

「デッキから『サファイアドラゴン』と『チェミナイ・エルフ』墓地に送り、手札の『破滅の女神ルイン』を儀式召喚？」

サファイアドラゴン： 4

チェミナイ・エルフ： 4

破滅の女神ルイン： 8 A T K 2 3 0 0

『サファイアドラゴン』と『チェミナイ・エルフ』が半透明の姿でフィールドに出現したかと思うと、青い炎に包まれて消えた。

炎が消えた時、そこには銀髪の魔術師の女性がいた。眼つきが鋭いが、充分美人にカテゴライズされるだろう。

「でも、それじゃ『ボタニティ・ガール』は倒せても『ギガプラント』は倒せないよ?」

分かっている。それに『ボタニティ・ガール』は破壊された時に守備力1000以下の植物族モンスターをリクルートする。迂闊に攻撃すれば菖蒲の手を増やすだけだ。

なら、こうするまでだ!

「手札から魔法装備カード『^{マジック}黒いペンダント』を『ルイン』に装備!
! 攻撃力が500ポイントアップ!」

破滅の女神ルイン： A T K 2 3 0 0 ↓ 2 8 0 0

「『ギガプラント』を上回った……!」

「そして、『ルイン』のモンスター効果!! 相手モンスターを戦闘破壊した時、2回目のバトルを行える!! 『バイオレット・ウィッチ』と『ギガプラント』に攻撃!!」

攻撃の指示と共にルインが手にしている赤い錫杖の先端にエネルギーを充填し始めた。

「破壊の閃光”、“滅亡の幻影”――！」

振りかぶった杖から白いエネルギー弾を『バイオレット・ウィッチ』に飛ばす。その後すかさず黒いエネルギーを充填し始めた。あれが『ギガプラント』用の2発目だろう。

リクルートされるんだったら、される事を前提に、攻撃を仕掛けるまでだ！ ダメージを多く与えて、勝率を少しでも高くする！

「甘いよ！ 罠カードオープン『ソーン・ウォール棘の壁』――！ 自分の場の植物族モンスターが戦闘対象になった時、相手の場の攻撃表示モンスターを全て破壊する？」

「――！？ しまった、迂闊……？」

菖蒲の場のモンスターの前にイバラの壁が現れたかと思うと、エネルギー弾が弾き返り、ルインに直撃した。

「ルイン？」

くそっ、主戦力の内の一体がやられた……！
だが、甘いのはお互い様だぜ、菖蒲――！！

「装備カード『黒いペンダント』の効果発動！ このカードがフィールドから墓地に送られた時、相手プレイヤーに500ポイントのダメージを与える？」

「つくあ？」

菖蒲：LP 4000 ↓ 3500

「カードを2枚伏せて、ターン終了だ」

淳：LP 3700

手札：2枚

フィールド

・マジュ・ゴッド(DEF 1000)

・伏せカード2枚

SIDE：菖蒲

淳の主戦力の1体、『破滅の女神ルイン』の破壊には成功した。でも、流石と言うべきか、守備力は低いものの、しっかりと壁モンスターを残している。

でも、アレなら突破できる！

「私のターン、ドロー？」

引いたカードは『超栄養太陽』。キーカードじゃ無かった。でも、上手く行けばこのターンで決められる！

「『ギガプラント』を再度召喚！」

これで、『ギガプラント』は効果モンスター。一気に行くよ！

「『ギガプラント』のモンスター効果発動！ 1ターンに1度、自分の手札が墓地の、植物族か昆虫族モンスターを1体特殊召喚出来る！ 来て、『イービル・ソーン』？」

『ギガプラント』が雄叫びを上げると、地面がヒビ割れ、『イービル・ソーン』が顔を出した。

ノーコストでモンスター1体を特殊召喚できるんだから、『ギガプラント』は便利だ。

イービル・ソーン：ATK 100

「続いて2枚目の『超栄養太陽』を発動！ 効果で『イービル・ソーン』を墓地に送り、デッキまたは手札からレベル4以下の植物族モンスターを特殊召喚する？ 『キラ・トマト』を特殊召喚？」

キラ・トマト：ATK 1400

『イービル・ソーン』が光となって消え、代わりにハロウィンのジャック・オ・ランタンのようなトマトが出現した。どうでも良いけどこれ、英語版じゃ大分絵柄が違っただよね。アメリカのB級映画が元ネタだからかな？

「『ボタニティ・ガール』を攻撃表示に変更して、バトル！
『ボタニティ・ガール』で『マンジュ・ゴッド』を攻撃？
“グ
リン・シヨック”？」

ボタニティ・ガール：ATK 1300
マンジュ・ゴッド：DEF 1000

『ボタニティ・ガール』が緑色のエネルギー弾を手の先から撃ち出し、直撃した『マンジュ・ゴッド』は木端微塵に砕け散った。
どうでも良いけど、何かエネルギー弾って表現、多くない？ 駄作者とか言われちゃうよ？（ごめんなさい by 作者）

「これで、淳の場にモンスターはいない！ リバースカードが気になるけど……、バトル続行！ 『ギガプラント』でダイレクトアタック？」

『ガオオオオオオオオオオオオオオオオ！』
「ぐあっ??」

淳：LP 3700 ↓ 1300

「これでお終い！ 『キラ・トマト』で直接攻撃？
『ギジャアアアアアアアッ！』

「うわああああ！ メイド喫茶ああああっ？」

「行っけえ、菖蒲え！」

「淳、なんとかしやがれえ??」

「キモイ男子の企画をぶっ潰せえっ！」

「通るのかい!？」

やった、これが通れば私の勝ち！ 淳に勝った！

SIDE：淳

……成長したな、菖蒲。

俺がバトルシティで戦っている間、こいつも修行したんだろうな。

だが、簡単に負けちゃあ、俺に負けた奴に面目立たねえんだよ！

「通さねえよ！ リバースカード、オープン？」

あいつがモンスターをハイスピードで展開し、ダイレクトアタックに持ち込むくらい読んでいた。なら俺はそれを利用するまでだ！

「^{トラップ}罠カード『コンフュージョン・チャフ』？ 2回目のダイレクトアタックを行うモンスターは、1回目にダイレクトアタックを仕掛けたモンスターと強制的にバトルする！ 更にダメージ計算のおまけ付きだ？」

「え、ウソッ？」

銀色に輝く破片が『キラ・トマト』に纏わり付き、目を塞ぐ。そして何故か方向転換をすると、『ギガプラント』に突進し、逆に吹き飛ばされた。

莒蒲：LP 3500↓2500

チャフ、というのは戦闘機などに搭載されている金属片だ。相手のレーダーを狂わせたり、ミサイルの狙いを外させるのに使用される。おそらく、『キラ・トマト』の方向感覚を狂わせたのだろう。

「『超栄養太陽』の効果で、特殊召喚されたモンスターが場から離れた時、『超栄養太陽』は破壊される」

『『おおー』』

「く、うつ！ この瞬間『キラ・トマト』のモンスター効果発動？ 戦闘破壊された時、デッキから攻撃力1500以下の閥属性モンスター1体を攻撃表示で特殊召喚できる！ 2体目の『キラ・トマト』を特殊召喚？」

キラ・トマト：ATK 1400

キラ・トマトはリクルター。だが、攻撃表示という欠点がある。相手がラッシュを仕掛けているタイミングだと中々メリットと
は言い難い。

「ダイレクトアタック！」

「おっと、もう1枚の伏せカードオープン！ 『くず鉄のかかし』
！ 1ターンに1度、相手モンスターの攻撃を無効にする！」

ボロイ金属を固めて作った案山子が、『キラ・トマト』の攻撃

を受け止めた。傷1つついて無い所が、きつと再び罠として利用で
きるポイントなのだろう。

くず鉄のかかし

【通常罠】

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

相手モンスター1体の攻撃を無効にする。

発動後このカードは墓地に送らず、そのままセットする。

「ターンエンド？」

菖蒲：LP 2500

手札：1枚

フィールド

：ギガプラント（ATK 2400）、ボタニティ・ガール（AT
K 1300）、クリア・トマト（ATK 1400）

：『超栄養太陽』（永続魔法）

「俺のターン？」

引いたカードは『サイクロン』。オッケー、次は俺の番だ！

「『マジカル・コンダクター』を攻撃表示で召喚？」

マジカル・コンダクター：ATK 1700

「速攻魔法『サイクロン』を発動！ 『超栄養太陽』を破壊し、連動して『ボタニティ・ガール』を破壊！」

超栄養太陽

【永續魔法】

自分フィールド上に存在するレベル2以下の植物族モンスター1体をリリースして発動する。

リリースしたモンスターのレベル+3以下の植物族モンスター1体を、手札またはデッキから特殊召喚する。

このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。

そのモンスターがフィールド上から離れた時、このカードを破壊する。

これで、菖蒲のモンスターは『ギガプラント』と『キラー・トマト』の2体。

更に……

「魔法カードが発動した事で『マジカル・コンダクター』に魔力カウンターが2つ乗る」

マジカル・コンダクター：魔力カウンター 0 ↓ 2

「まだまだ行くぜ！ 魔法カード『収縮』を発動！ 『ギガプラン
ト』の元々の攻撃力を半分にし、更に『マジカル・コンダクター』
に魔力カウンターを2つ追加！」

マジカル・コンダクター：魔力カウンター 2 ↓ 4

『収縮』で多い勘違いなんだが、あくまで“元々の”攻撃力が半分になる、という事をお忘れなく。装備カードなんかでのパワーアップはそのままだから、それがプレイングミスに繋がる人が意外と多い。

「『マジカル・コンダクター』の効果発動！ 1ターンに1度、自身の魔力カウンターを任意の数取り除き、その個数と同じレベルの魔法使い族を1体手札か墓地より特殊召喚できる。俺は4つ取り除き、墓地の『チェミナイ・エルフ』を特殊召喚？」

現れるのは双子のエルフ。低級モンスターの中では優秀なアタッカーだ。

チェミナイ・エルフ：ATK 1900

「そして『死者蘇生』で、『サファイアドラゴン』を復活させる」

サファイアドラゴン：ATK1900

マジカル・コンダクター：魔力カウンター 0↓2

「最後だ。魔法カード『デモンション・マジック』を発動？ 自分フィールド上のモンスター1体を生け贄に相手の場のモンスター1体を破壊！ 『マジカル・コンダクター』を生け贄に消滅せよ、『キラー・トマト』！ そして手札の『マジシャンズ・ヴァルキリア』を特殊召喚？」

マジシャンズ・ヴァルキリア：ATK 1600

俺の場のモンスターは攻撃力1900の『チェミナイ・エルフ』と『サファイアドラゴン』に、1600の『マジシャンズ・ヴァルキリア』の3体。菖蒲の場にカードは攻撃力の半減した『ギガプラント』。残りライフは2500。

「『マジシャンズ・ヴァルキリア』で『ギガプラント』を攻撃！」「きゃあっ！」

菖蒲：LP 2500↓2100

「……ふう、私の負けかあ」

「いや、ナイスデュエルだったぜ。腕上げたな！」

「へへ、ありがと♪ またデュエルやろう？」

「ああ！ 止めた！ 『チェミナイ・エルフ』と『サファイアドラゴン』でダイレクトアタック？ “マジック・ブレス・シュート”
？」

放たれたエネルギー弾と青い息吹が菖蒲を直撃し、小さい爆発を引き起こす。煙が晴れた時……

菖蒲：LP 2100↓0

淳：WIN

菖蒲：LOSE

——俺の勝利が決まった。

SIDE：菖蒲

あーあ、負けちゃった。やっぱり強いな、淳は。

私も修行積んで少しは強くなったつもりだったんだけどな。まだまだだったよ。

「よっしゃあああつ！ メイド喫茶なあ？」

「「あ……」」

そー言えばメイド喫茶を賭けて戦っていたんだっけ。忘れてた。

t o b e c o n t i n u e d

2話：激闘！！ 淳VS菖蒲！！（後書き）

淳「淳です！」

菖蒲「菖蒲です！ 負けちゃいました……」

淳「あはは、ドンマイ。十分強くなったって！」

淳「今日のキーカードは『マジカル・コンダクター』！ 魔法カードが発動する度に魔力カウンターを2つ乗せられるぞ！」

菖蒲「『魔力掌握』と相性が良いね。更に任意の数力カウンターを取り除けば同じレベルの魔法使い族を特殊召喚できる！」

淳「コイツは展開を広げてくれるぜ！」

次回、更なるキャラの登場です。

3話：一件落着（前書き）

デュエルが終わり、しかし出し物が「メイド喫茶」になってしまった淳と菖蒲のクラス。

さあ、どうなる！ では、スタート！

3話：一件落着

SIDE：淳

『メ・イ・ド！ メ・イ・ド！ メ・イ・ド！ メ・イ・ド！
メ・イ・ド！ メ・イ・ド！ メ・イ・ド！ メ・イ・ド！
メ・イ・ド！ メ・イ・ド！ メ・イ・ド！ メ・イ・ド！
メ・イ・ド！』

結局俺が勝ったデュエル。俺と菖蒲の間には何の蟠りも無く終わったが、忘れてた。俺が勝ったら『メイド喫茶』が出し物になるんだった……。

「うあああああ、どーしよ……………」

「女子の視線が痛いよう……………」

藤木を中心にメイドメイド煩い5人余りの男子。それらと俺、菖蒲を冷たい目で見る女子の大半。

つかマジでウルセえ。メイドの3文字で何行も取ってんじゃねえよ。

「どーすんの！ 菖蒲が負けたからメイド喫茶になっちゃったじゃん？」

「あうう、ごめんなさい……………」

とうとう菖蒲に責任を負わそうとする女子も出てきた。

「おい！ 戦ってない奴が責任押しつけんな？」

思わず怒って怒鳴るが、その女子は全く気にも留めず、どころか
矛先を俺にも向けて来た。

「雷条も、何で態と負けてくれなかったの!? アンタはメイド喫
茶反対派なんでしょ!!?」

「ぬう、すまない……………」

んな事言っても、全力でやるって言っちゃったし、熱くなっちゃ
ったし……………」

結局、他の女子が押さえてくれたが、状況は何一つ好転していな
い。

「さあ、寸法測るぞおおおおおおおおおおおおおおおお??」

『おおおおおおおおおおおおおおおおおお??』

マズイ。本気でマズイ。

このままじゃクラスの破滅以外の道が待ってない。

担任はクラスの意思を尊重するとか言ってたから、絶対に止めて
くれないだろうし。

「じゅうん……………」

「どうしよう、あやめえ……………」

泣きそうな顔でこっちを見る菖蒲。助けが欲しいのは俺も一緒だ
よ……………」

「助け、いるかい？」
「手エ、貸そうか？」

聞き慣れた友人の声に振り向く。何か方法があるのなら、藁でもダイナマイトでもしがみ付きたい気分だ。

「菊池！」
「田中くん！」

後ろにいたのは短髪と、スポーツ刈りの2人の男子。
俺の友人、菊池きくち 孝輔こうすけと田中たなか 陽弘あきひろだった。

SIDE：菖蒲

このままじゃメイド喫茶がまかり通ってしまっ、そんな大ピンチな状況に救いの手を差し伸べてくれたのは、淳の友人の菊池くんと田中くんだった。

「何か良い案があるの？」

「なあに、任せない！」

明るく、語尾に「〜い」をつけるのが口癖の菊池くん。

「オレ達に任せろ」

寡黙で、ぶっきらぼうだけど、拒絶の意は示さない田中くん。
自分で状況を打破できないのは悔しいけど、この2人は信用に足る男子。きっと良い方向で纏めてくれるはず！

期待してるよ、2人とも！

「あー、藤木藤木？」

「何だ？ 寸法、手伝うのか？」

「アホ、違うよい」

ルンルン気分でメジャーを取り出していた藤木の肩を叩く菊池くん。
……改めて思ったけど、藤木ってホントに救い難い男子！

「おれの話の聞けって事だい。クラスメイト達、注目！」

ニイと笑っている菊池くん。田中くんも薄く笑っている。

「勝負でメイド喫茶は決まっちゃった。今更それを騒ぎ立てたってどうしようも無い。だが、藤木は企画書に1つ、ミスを犯してしまっただけ。それは……」

『それは……？』

それは……？

菊池くんがス、と後ろに下がって代わりに田中くんが前に出た。
あまり喋らない彼が提案……。
どうか、このクラスを救える案でありますように！

「そこでオレは、メイド服を取り止め、様々な衣装やコスチューム
を制服として取り入れる事を提案したい」

……、つまりそれって……………

「コスプレ喫茶……？」

淳、正解。

「あんま变わんないじゃない！」

「ウエイトレスよりメイドさんだ馬鹿野郎！」

「変態！」

罵声が飛び交う中、田中くんは冷静だ。
比較的低くもよく通る声が響き渡る。

「まあ落ち着け。何もオレはコスプレを強要しているワケではない。
男子が白い手袋をすれば執事に見える。ブレザーとネクタイをベス
トと蝶ネクタイに変えればバーテンダーに早変わりだ。獣の耳を取
り付け、その動物柄の服を着れば獣っ子となる。1つ2つアクセッ
トを添えるだけで大分違う。大きく姿を変える必要は全く無いんだ」

意外と長く喋ったね……。

ま、それは兎に角、女子も男子も納得し始めている。
被害も無いし、楽しめる。お客さんも来る。一石何鳥なのは判
らないけど、丸く収まりそうで良かった良かった。

さて、私は何を着よっかな？

[illegible]

うわっ！　ビックリしたあ！？

当然声をあらん限り張り上げたのは藤木一味。

何が何でもメイド服を押し通したいらしく、頑なにメイド服を取り入れる事を主張している。

「メイド服を制服に！」

「ウェイトレスでは客は来ない！」

「男のロマン、メイド服を！」

メイド服！ メイド服！ メイド服！ メイド服！ メイド服！

メイド服！ メイド服！ メイド服！ メイド服！ メイド服！

メイド服！ メイド服！ メイド服！
 ♪

なんか段々イライラしてきた。そんなにメイドが良いのか、こいつらは。

頬がひくついているのが解る。一喝して黙らせ

「黙れ……！」

ようと思った時、淳の低く、怒りに満ちた声が轟いた。響いた、じゃない。轟いた、だ。

「じゅ、淳……？」

驚いた。

ひたすら驚いた。

あいつがこんな怨嗟に満ちた声を発するなんて……。

「菊池、田中。手伝ってくれ……」

「お、おう」

「む」

「え、あ、ちよ、雷条くん？」

「離せ菊池イ！」

「田中、てめっ」

淳は菊池くんと田中くんと一緒に藤木一味を廊下へ引きずって行った。

ギヤアアアアアアアアアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア
ああああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああああ
あああああああああッ????????????????
『

！？ 何事っ！？

悲鳴から暫くして、淳達が帰って来た。

「ちよつと“オハナシ”して解決してきた」

ああ、O H A N A S H I ね。納得。

それで悲鳴がしたのね。

という訳で、凄い紆余曲折を経て、私達のクラスの出し物は『コ
スプレ喫茶』に決まりました。

t o b e c o n t i n u e d

3話：一件落着（後書き）

淳「次回、ギャグ要素と共に物語の核心に触れる」

菖蒲「遊戯王 伝説の刃」4話：刺客』お楽しみに！」

P3様、ご感想、ありがとうございます。

4話：刺客（前書き）

今回もギャグがちよいちよいとあります。

淳「そして物語の核心に触れる！」

菖蒲「どうでもいいけど二次創作って敵組織は大体1つだよね」

淳「言うなよ、これがメシのタネじゃ無いんだから……」

え、えーと、スタート！↑ごまかした

4話：刺客

SIDE：淳

今日も爽やかな朝が来た。

朝日を浴びながらの登校は俺の1日の活力作りだ。つまり雨や曇りの日なんかはちよつと元気が無くなる俺です。

いつもこうやって太陽からエネルギーを貰いながら学校まで菖蒲と一緒に電車で行く。

……誰だ、今俺の事植物とか言つた奴？

今日も元気一杯で高校へ行って文化祭の準備をする、予定だったんだが……。

「コレ、どう思つよ、菖蒲」

「私も分かんないよ」

朝、俺達の家のポストの中に入っていた分厚い封筒。中身は真っ白な、丁度カードと同じサイズの厚紙の束。ちなみに40枚を超えたところで数えるのは止めた。

怪しい。怪しすぎる。正体不明の物を送られればこんな反応は普通だと思つが、本当に失礼な程までに怪しい。

何より俺と菖蒲の名前以外、宛名も、住所も、送り主の名前も書いてない。何なんだ、コレ？

「淳、電車遅れるよー？」

「ああ、悪い、今行く！」

ま、考えていても仕方無いし、文化祭も近いし、気にすんのは止めっか！

SIDE：孝輔こうすけ

よう、おれの事、覚えているかい？

菊池だ。前回メイド喫茶を回避するのに一役買った奴だ！

今、2時限目のLHRを使って自分のコスを考えているトコさ。

「で、陽弘あきひろ。オメエそのカツコカッコの案は何だい」

「分らんか？ 塗り壁だ」

確かに、どう見ても妖怪の塗り壁なんだが……。

「違う違う。おれは何で塗り壁なのかって事を聞いてるんだい」
「む？ コスプレ喫茶とはコスプレで接客をするモノでは無いのか？」

こいつは……。

おれか淳と喋る時だけ冗舌になるんだが、それは置いておこうかい。

問題は、こいつあバカじゃねえんだが、頭のネジ何本か間違った所に締めてあるトコなんだよない。

こーゆー時は率直に言ってやるのが1番だい。

「アホウ。ンなんで客が呼べるかい」

「ぬう、ならば一つ目鬼か火車かしゃか」

「もつとアホウ！ 妖怪から離れろい！」

ちなみに火車ってのは文字通り燃えてる木の車輪か馬車の事だい。

「ならば、ミイラかゾンビか？」

「西洋東洋の問題じゃねえよい！ 人の着る服にしろい？」

「ならば甚平じんぺいか？」

「……、もう勝手にしろい」

ゼエ、ゼエ……。

一回ボケるとどこまでもボケるからない、こいつは。

「……陽弘の相手も大変だな、孝輔」

「そう思っならちつとはおれを慮おもんってくれい」

後ろから淳が話しかけて来る。

ちなみに別にこいつは美種みたねといつも一緒じゃ無い。年頃の男女が
常々同席つてのも色々マジイだろうよい。

「お、騎士の礼服がモチーフか？」

「オメエは……、袴かい」

「シンプルな奴しか思いつかなかったんだ。悪い」

「おれに謝ってもらっても困る」

こいつ女子に結構人気あるからもつと狙ったヤツも行けそうなん
だが……、自覚は無いらしい。ま、2代目のバトルシティ準優勝者
つてのが切欠だから、女つてのは現金なモンだい。

この世界でデュエル強いってのは一種のアドバンテージだからな。
プロで生計立てられるのはほんの一握りらしいし。嫁ぎ先としては
問題無いだらうい。

……、おれは何の話をしてるんだい？

「えー？ 淳は王子様コスとかの方が似合……ブフウッ！」

「菖蒲。吹き出した時点でお前が面白がって言ったって事がモロバ
レだからな？」

ボケとツツコミのタイミングがぴったりだい。

まったく、息の合った夫婦だよい。

ん？ 幼馴染かい。どっちでも良つかい。

「で、菖蒲は……。ウエイトレス？」

「ヒモのビキニの方が良かった？」

「逆にお客が引くだろ！／＼／」

「あー！ 淳、顔真っ赤ー！」

「うつせえ！／＼／」

まあ、確かに。いくらスタイル良い美種でもヒモビキニで接客されたら客は来ねえな。逆に苦情が来そうだい。

こういう夫婦漫才を少々羨ましいと思うちまうおれも、年頃なのかねい？

「甚平……、こんな感じが、孝輔？」

真面目に描いていたと思っていた陽弘は、絵をおれに見せた。

「……これは何だい」

「甚平だ」

「（ブチッ！）オメエの甚平はシャツと変わらねえのかい！」

明らかに下手糞な絵で描かれた甚平は、Ｔシャツと変わり映えしなかった。

——放課後

SIDE：淳

ははは、孝輔はホントに面倒見が良いよな。何だかんだ言っても結局は陽弘の案を練ってあげている。

夕焼けが差す中、俺と菖蒲は駅の傍のスーパーに立ち寄った。今晚のメニューの材料を買いらしい。

菖蒲が1つの商品を手に取り……、げ！

「イナゴの佃煮」「やめてえっ!」

アレだけは苦手なんだあっ! 勘弁してえ……!」

「淳……、冗談だからそんな泣かないで?」

「うう……」

一回食べた事があるんだが、味よりも食感がダメ。とてもじゃないが食えたモンじゃあ無かった。食える奴の気が知れねえ……。

「あ、挽き肉安い」

「レタス特売だつてさ」

気を取り直して買い物再開。メニューに無くても安い物は買っておく。買い置きがあるとメニューの幅が広がるんだつてさ。

大方買い物カゴに入れた後、もう1度チラシを見る。お、牛乳の安売り日だっけか。

「じゃ、牛乳で最後にしましょう!」

「イエス・レディ!」

なあって、フザけた遣り取りをしつつも牛乳をカゴに入れた。後は角を曲がってレジに行くだけ。

角を曲がった先には、誰もいなかった。

「「え？」」

俺と菖蒲の声が綺麗にハモった。

SIDE：菖蒲

何、何なのコレ！？ ドッキリ！？ なわきや無いか。

急いで角を戻ってみると、やっぱり誰もいない。

思わずギョツと淳の服を掴む。幼馴染でカッコいいと思った事は無いけど、こういう時は頼りになる。

「じゅ、淳……………っ」

「菖蒲、離れるなよ……………」

気持ち悪い。

私は素直にそう思った。

私達以外に誰もここにいない。

そう、まるで…………

「閉じ込められたみたい…………」

『ご名答』

「「ッ！……！！……」」

どこからともなく響いた声。人間の物とは思えない声質。

「淳、私…………、怖い……………っ」

怖い。

恐い。

いきなりこんなトコにぽつぽり出されて、訳の解らない事態に巻き込まれた。恐くないと思う方が異常だと思う。

「誰だ…………、何故、俺達をこんな目に会わせる……………っ」

私がガタガタ震えているのに対し、淳は怒りすら含めた声で相手を威嚇する様に言う。こういうのを肝が据わってるって言うのかな。頼もしいなあ。

「我が名、ルシファー。主らを狩りに参った」

いきなり現れたのは黒マントの大男。額には目玉のアクセ？がある。

「ってかアレって『暗黒の眠りを誘うルシファー』じゃない？ コスプレ？」

暗黒の眠りを誘うルシファー

星5

闇属性 / 魔法使い族

ATK 1500 / DEF 1800

効果

このカードが召喚・反転召喚した時、相手モンスター1体を選択する。そのモンスターはこのカードがフィールド上で表側表示でいる限り、攻撃できなくなる。

でも、イタズラにしては規模が大きすぎるし……。何なの？ 一体何なの？

ああ、頭こんがらがって来た！ 頭良くないんだから止めてよね、こっぴうの！

「デュエルモンスターの、精霊か？」

「左様」

は？ デュエルモンスターの、精霊？

「淳、頭打った？」

「サラッとし礼な事言っんだな、お前」

いやだって、精霊とか言われてもねえ。私オカルト信じないし。

「高位のデュエリストなら1度は聞いた事ある噂だよ。モンスターのモデルは精霊の世界に住む精霊だってな。デュエルモンスターの成り立ちぐらいは知ってるだろ？」

えーと、E2（インダストリアル・イリュージョン）社の会長、ペガサス・J・クロフォードさんが、エジプトとかで見つけた石板の絵をカードデザインしたんだっけ？

というか淳。暗に私が高位のデュエリストじゃ無いって言ってるんですけど？

「石板が元、という事はその石板も何かをモデルにして作ったと考えられる。この間授業でやったろ？」

ム、バカにして！

通知表の4、私より1つ少ないクセに！

「まあ、百歩譲ってあの人が精霊としましょう」

「おう」

「何で私達が狙われているの、ルシファーさん？」

そこで私は気が付いた。いつの間にか、恐怖心が消えている。淳と会話しているウチに解れたのかな？　ありがとう、淳。

「主らに恨みは無い。しかし、首領の命なのじゃ」

「「メイ？」」

「うむ。首領の目的を阻む因子は殲滅せよ、との事。逆らえば、我が命もまた危険なのだ」

……、とんでもない悪党みたいね、コイツの親玉は。淳も反吐が出るって顔してる。

「阻む因子？」

「デュエルの猛者じゃよ。そしてお主ら、白い紙の束を持っておらんか？」

白い紙……。今朝のアレかな？

「それこそが首領が最も危惧する危険因子。そして無理矢理召喚された我らの希望なり」

「……事情を話してくれないか？」

ルシファーさんは少し思案顔になったけど、ゆっくり頷いた。

「よかるう。排除せよとは言われたが、事情を話すとは言われていない」

腹を割って話そう、とルシファーさんはその場に座り込んだ。私

達も釣られて座った。

SIDE：暗黒の眠りを誘うルシファー

「我は察しの通り、カードの精霊。暫く前までは平和に精霊界で占い師をやっておった」

そう、ある日の事じゃった。

人間界に召喚されるのは間々（まま）ある。だが、あんな邪惡な力を以て召喚されたのは初めてじゃった。

「首領は“ブラーマ”という組織を立ち上げ、我らを召喚した。この世界で丁度2年前に同じ力を使って精霊と人間の殲滅を図った者がいたという。首領はその者の下につき、組織が巨大化した時を狙って統率者の座を奪うつもりだったらしい」

しかし、自分も仲間も敗れ、拳句の果てにはボスも敗れた。即ち組織は崩壊。首領の計画はそこで頓挫した、筈だったのじゃ。

「首領は密かに行っていた、組織が使用していたエネルギーの培養に成功。今度は自らが組織を立ち上げた次第じゃ」

強大な力を前に、我ら精霊は彼奴の命令に従う以外無かった。

「白い紙が希望ってのは？」

「かの紙は古来よりの力が宿るカードの元。“ブラーマ”を滅ぼす

為には、奴らを倒せる強さが必要じゃ」

我が知っているのは、これで全てじゃ。

「お主らを巻き込んだ事は済まぬとは思っておる。できるのならばこのまま見逃し、帰りたいが……」

「できない、か？」

「うむ。例え我が見逃しても他の誰かがまたすぐにやって来る」

1つ信じて欲しいのは、我も、他の殆どの精霊も決して自ら好んで狩りを行っている訳では無い事じゃ。ただただ、力に圧され、脅されているだけなのじゃ。

「重ね重ねも済まぬ」

「別にアンタの所為じゃ無いさ、ルシファー」

「悪いのはその首領だよ！」

少年、そして少女よ。なんと優しい心の持ち主よ。
いや、少年少女では無いか。

「お主ら、名は？」

「らいじょう雷条 じゅん淳だ」

「みたね美種 あやめ菖蒲です」

淳に菖蒲か、良き名である。

「このまま帰りたい。しかし、先刻申した通りそれは出来ぬ」

構えよ、と静かに言う。

「1度だけ、手合わせ願おう。その後、本気で主らを狩りに行く！」

これは嘘偽り無き本音。

伝わらぬ程、彼は抜けてはおるまいて？

SIDE：淳

いつの間にかルシファアの腕にはデュエルディスクが装着されていた。

突如、ぶわっ！ と気迫が膨れ上がったのが分かった。はつきり言う。こいつは俺よりも強い。

「戦わなくちゃ、いけないんだな……」

とても悲しい。恐らく手合わせだから命は取らない。でも、狩りに来た時は命を狙いに来る。出会ってからほんの少ししか経ってないけれど、このヒトは良いヒトだったのが良く分かる。

だったら、どっちも手を抜いちゃいけない！ それが礼儀だ！

「デッキはセットした。何時でもいいぜ」

「然らば、参るぞ？」

『デュエル？』

ル シ 淳
シ : LP
フ : 4
ア : 0
ー : 0
: LP 0
4
0
0
0
0

S I D E : 菖蒲

今、私の目の前で、信じられない事が起きている。
淳とルシファーさんのデュエル。それが終盤になって来ている。

淳 : L P 2 0 0

手札 : 1 枚

フィールド

: 救世の美神ノースウェムコ (A T K 2 7 0 0) 、
偉大魔獣ガグレートー

ゼット (A T K 3 1 0 0)

マジック
トラップ
: 魔法・畏無し

ルシファール：LP 3800

手札：5枚

フィールド

：霊滅術師 カイクウ（ATK 1800）、

：伏せカード3枚、闇の呪縛（永続罨・偉大魔獣ガーゼットに対して発動中）

「はあ……、はあ……、はあ……。俺のターン、ドロー！」

「罨カード発動『はたき落とし』。ドローフェイズにドローしたカードを墓地に送ってもらう」

「くっ！」

淳が圧倒的に押されている。せっかく『サファイアドラゴン』を生け贄に召喚された『偉大魔獣ガーゼット』も『闇の呪縛』で動きを封じられて戦えない。

ライフもハンドアドバンテージも相手が上……。強すぎる！

闇の呪縛

【永続罨】

相手フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して

発動する。

そのモンスターの攻撃力は700ポイントダウンし、攻撃と表示形式の変更ができない。

そのモンスターがフィールド上から離れた時このカードを破壊する。

「うう……」

「どうした、淳よ。まだ終わってないぞ？」

「分かってる！ 来い『ジエネティク・ワーウルフ』！」

ディスクに半ば叩きつけるようにモンスターを攻撃表示で置く淳。相当焦ってるね。

ジエネティク・ワーウルフ：ATK 2000

「悪いが罨カード『奈落の落とし穴』を発動する。攻撃力1500以上のモンスターが召喚された時、そのモンスターを除外する」
「くそっ！」

奈落の落とし穴

【通常罨】

相手が攻撃力1500以上のモンスターを召喚・反転召喚・特殊召喚した時に発動する事ができる。

その攻撃力1500以上のモンスターを破壊しゲームから除外する。

また消された。ルシファーさんのデッキは多分ロックとパーミッシヨン、ビートの混成デッキ。淳のデッキ、純正ビートダウンには相性が悪すぎる。

反面火力が薄いけれど、それを補って余りあるのがルシファーさんの実力。上級者では無い私が見ても、そのシナジীর具合が分かる。

「ぐ…… 『ノースウエムコ』で『カイクウ』を攻撃！ “セイヴァー・ランス”？」

『ノースウエムコ』が杖の先端から光の槍を生み出し、それを坊さんみたいなモンスター『カイクウ』へ向けて撃ち出す。

でも……………

「畏カード『プライドの咆哮』を発動。攻撃力差分のライフポイントを支払い、バトルを行うモンスターの攻撃力は相手モンスターより300ポイント高くなる」

プライドの咆哮

【通常畏】

戦闘ダメージ計算時、自分のモンスターの攻撃力が相手モンスターより低い場合、その攻撃力の差分のライフポイントを払って発動す

る。

ダメージ計算時のみ、自分のモンスターの攻撃力は相手モンスターとの攻撃力の差の数値 + 300 ポイントアップする。

ルシファー：LP	3800	↓2900
カイクウ：ATK	1800	↓3000

「なあっ!？」

「終わりだな」

『カイクウ』が左手を突き出して衝撃波を生み出すと『ノースウエムコ』の光の槍を破壊し、そのまま『ノースウエムコ』を破壊した。

淳：LP 200 ↓ 0

淳：LOSE

ルシファー：WIN

「く、そおっ！」

「淳が……、負けた……」

しかもアレは多分本気じゃ無い。じゃあ、本気を出されたらもっ

と勝てないって事!?

「ダメじゃな。やはり伝説のカードで無いと、太刀打ちは出来ぬ。首領は我よりも強いぞ?」

悔しいけれど、ルシファーさんの言う通りだった。淳より弱い私じゃルシファーさんには勿論、首領にも尚更敵いつこ無い。あの白いカードを使わないと、勝てない……。

「今晚0時、お主らを狩りに再び参る。では、な」

それだけ言うと、ルシファーさんは姿を消した。いつの間にか、周囲に人が戻り始めていた。

t o b e c o n t i n u e d

4 話：刺客（後書き）

淳「ルシファーに完敗を喫した俺」

菖蒲「もう、生きられないんだね……」

淳「俺が、弱い所為、だよな……。ルシファー！俺一人の命でどうにかならないか！？ 菖蒲だけでも逃がしてやってくれ！」

菖蒲「淳、止めて！ 次回、遊戯王 伝説の刃 『自己犠牲は悪い事』！ お楽しみに！」

戎鷲様、ご感想ありがとうございます。

陽弘「今日の最強カードは『プライドの咆哮』だ」

孝輔「ライフを攻撃力の差分だけ払ってパワーアップだぜい！ 『ニードルバンカー』に使うて敵に大ダメージを狙うと、相手は大慌て間違い無し！」

陽弘「迎撃用に伏せるのもアリだ。ではまた次回」

5話：自己犠牲は悪い事（前書き）

淳「ルシファーに敗北した俺は、マンションの近くの公園で、最期の時を過ごしていた」

菖蒲「生き残る方法は、無いのかな……」

シリアスな第5話、スタート。

5話：自己犠牲は悪い事

SIDE：淳

現在時刻は23時30分。場所はマンションの傍の公園のベンチ。何をしているのかと聞かれたら、簡単に言えば送別会だ。ただし、この世界へ向けて、の。

飲み終わった缶ジュースをカゴに投げ入れ、隣に座っている菖蒲を見た。他人には分からないだろうが、沈んだ表情をしている。きつと俺もこんな感じなんだろう。だからお互い殆ど喋れない、喋らない。

「後、30分で死んじゃうんだね」

菖蒲がポツリと呟く。0時きっかりにルシファーは俺達を殺しにやって来る。

「ああ」

否定しても仕方ない事。明るくしようと努め、けれども暗い声で答えてしまう。

「死にたく、ないなあ……………」

「菖蒲……………」

それは俺も同じだよ。文化祭まで後3日で、それとは関係なく友達が学校にいて、菖蒲もいるし、こいつの義父と義母もいる。

もつとデュエルだってしたいし、新しいカードだってきつとまた出る。

意外と、この世界に未練有りまくりだな、俺。

「あのね、淳。私がお父さんとお母さんに拾われた経緯、覚えてる？」

「覚えてる」

義母は癌で、義父は遺伝子上の問題で、それぞれ子が産めなかった。

このマンションに越して来た日、二人が入居する部屋の前にバスケットに入った女の子の赤ちゃんがいた。それが菖蒲だった。

「アヤメの花が添えられていたから、私の名前は菖蒲。単純だよな」
くすつ、と笑う。きっと無理して明るくしようとしているのだろう。幼馴染の俺にはもろ分かりだ。

「1度で良いから、生みの親に会ってみたかった。そしてこう言うんだ。『こんな可愛く育つ女の子を何で捨てたの』ってね」

でも、それも叶わなくなっちゃった。そう言っただけで彼女は締め括った。

何処からとも無く罪悪感が湧き上がって来た。いや、違う。理由は分かっている。

俺が弱いから。弱いから菖蒲を守れない。バトルシティ準優勝程度の腕前ではこの少女を守る事叶わないという事か。

俺の所為

そう。たったその4文字が原因。
ならば、男として責任は取らなくちゃいけない。

例え俺が死んでも、菖蒲が死ぬのは、嫌だ。

「ルシファーに交渉してみる」

俺の所為で、死なせたくないから。

俺の所為で、おじさんとおばさんを泣かせたくないから。

「俺一人の命で、どうにか引き下がってくれないかって」

「淳!？」

驚いた顔をした。当然だ。要するに俺は「俺を犠牲にお前は生きる」と言っているんだから。

でも、俺はそれを強要する。菖蒲には生きていてほしいから。

「俺が弱い所為で、お前が死ぬのは間違っている。俺が死んだ後の世界でも、元気で幸せに生きろ」

精一杯の、けれど弱々しい笑顔を作る。

最期に、笑顔でも見せてもらえるようにお願いしてみようかな。

ルシファーもその位の猶予はくれるだろう。

「いい男見つけて、俺の分まで幸せになれ」

いきなり、パン! という音が響いた。

SIDE：菖蒲

「いい男見つけて、俺の分まで幸せになれ」

それを聞いた瞬間、頭の中が真っ白になり、気が付いたら淳を力いっぱい引っぱっていた。

頭の中がグチャグチャで良く分からないけど、言いたい事はスラスラ言える。

私は感情の丈を淳に叩き付けた。

「バカッ！ そんな事されても嬉しくない！」

分かる。私は今、すごく怒ってる。

「でも、お前には帰るべき家族がいるだろう！ 家族を悲しませるな！」

「淳だってもう家族だよ！」

家族が死のうとしている。私の為に命を投げ捨てようとしている。嫌だった。淳が死んだ世界でなんか、生きていたくなかった。

「自己犠牲がカッコいいとも思ってたの！？ そんな事無い！ 残された人は苦しむんだよ！？ 勝手に死んでいなくなって、拳句の果てに残すのは苦痛！？ 酷過ぎるよ？」

「菖蒲……」

「淳が自分の命を差し出して私を助けようとするなら、私は自分の命を差し出して淳を助けたい！　淳が勝手に死ぬんだったら、私はアンタが死んだ後で自害する？」

私だって同じなんだよ。淳には生きていてほしい。
淳が死んで悲しむ人達を見たくない。

私が弱いから、淳を守れない。それが悔しい。

「生きてよ、お願いだから……………」

自己犠牲は綺麗に映るかも知れない。けど、当事者にとってはそんな事無い。むしろきつと悪い事だろう。

「私を置いて逝かないで……………」

それが、私の本心。好きとか嫌いじゃなくて、家族だから、死んでほしくない。

偽らざる、真摯な思いだった。

SIDE：淳

家族、か。

正直、俺は家族という言葉に良い思い出は無い。

父さんは大酒飲みで、働きはすれど家で父親らしき事は一切してくれなかった。

母さんは浪費のクセがあり、散々浪費して散財した挙げ句、俺がアルバイトの出来ない年齢である事に当たった。

マンシヨンの副収入ですら、あの2人には足りなかった。

夜中に目を覚ました時は、俺の高校進学を適当な理由をでっち上げて取り消し、アルバイトでさせようという相談まで持ち上がった。恐らく収入は全て搾取するつもりだったのだろう。

だからあの2人が交通事故で3年前に死んだ時も、俺は全く悲しまなかった。何故ならあの2人は俺だけおいて遊びに行ったからだ。

そして、そんな俺は、普通の家庭が羨ましかった。

美種家の様な家庭に憧れ、よく遊びに行った。

そして、血が繋がって無いのに、家庭が成り立つ事を知った時、思わず美種家の子にして欲しいとまで思ったものだ。

生みの親じゃ無いのに、おじさんとおばさんを両親と呼べる菖蒲が、眩しかった。

ああ、そっか。

家族。それが欲しくてデュエルモンスターズを始めたんだ。先に始めた菖蒲の真似をして、少しでも近付きたかったから。

デュエルが強い事は1つのステータス。きっとどこかで自分た
いなひどい目に合わせたくないと思っていたのかも知れない。

だから強くなった。きっと、菖蒲を守るために。

だが、俺は本気でないルシファーに敗れた。まだ強さが足りない。
俺が負けるか何かで死ねば、漏れなく菖蒲も命を落とす。そんな
のは嫌だ。

だが、どれだけ足？いても今の俺の实力とデッキではルシファー
には勝てない。勝率0%だ。

そしてこの状況を打破できる可能性が1つだけ、ある。

「分かった。最後の、一縷の希望に賭けよう」

「うん。それしかないモンね……！」

す、と懷から封筒を取り出す。俺も、菖蒲も、同じ考えらしい。
目を閉じて、強く念じる。白い紙がカードになる方法は分からな
い。でも、何となくこうすれば良いような感じがした。

（頼む。俺じゃなく、菖蒲の為に。戦いを強制されている精霊達の
為に。俺にどうか、力を、貸して下さい）

自分の命を投げ捨てようとするれば、きっと菖蒲も投げ捨てる。
だったら結論はただ1つの単純な答えになる。

自分も、菖蒲も生き残る。

俺もこいつも死なない未来を……！

「（菖蒲を、死なせたくないんだ……）」

「（淳に、生きていてほしい……）」

ポウッ、と封筒が光を発した。

「！ 淳！」

「ああ！」

大急ぎで封筒の中身を出す。

「アレ？ 白いまんま……………」
「は？」

確かに、ワンテンポ早く取り出した菖蒲のカードは白いまま。あれ？ 菖蒲の封筒も俺の封筒も光ったのに……。

見間違い？ 勘違い？

と、俺は封筒の中身をばら撒いてしまった。菖蒲のカードばっかみていたから手元が疎かになってしまったらしい。

「!？」

「絵柄が!？」

ばら撒いたカードは、白……カードと絵柄のあるカードが混ざって
いた。なるほど、菖蒲が見たのは一番上のカード。それが白いまま

だったから分らなかったのか。

菖蒲も急いで残りのカードを見る。あいつのカードも絵柄がついていた。

俺のカードは……

「……………、『レジェンドLegend』」

そして菖蒲のカードが……

「『しきさいしよくはな四季彩色の花』……………」

これが、ルシファアの言っていた、希望。“ブラーマ”を崩せる望み！

「これで、戦うのか」

試しにディスクにセットすると、ちゃんと読み込み、ソリッドヴイジョンが映し出された。

行ける！ これで、守れる！

「それが、希望か？」

「「！？」」

いきなり後ろから声を掛けられた。

闇夜に浮き出るのは、夕方に出会った精霊『暗黒の眠りを誘うルシファア』だ。

「ルシファー……」

「我が約束した時間まで残り1分あまり。急いでデッキを組み立てよ。何方からでも、両方一遍でも相手をする」

自信？ 自殺志願？ それとも伝説のカードの実験台にでもなるつもりか？

なんにせよ、デッキに入れないと話にならない。絵柄が浮き上がったカードをすべてデッキに投入し、回りが悪くなりそうな奴を抜く。

隣では菖蒲も同じ作業をしている。急がないと……！

P i P i P i ! P i P i P i ! P i P i P i !

鳴ったのは菖蒲の腕時計。0時ジャストの合図。

「時間じゃ。準備は良いか？」

「ああ」

「いつでも」

「どちらから来る？」

少し考え、俺は菖蒲と相談する事にした。

「どうする？ 俺個人としては、俺を先に出し、相手の精神的疲労なんかを狙いたいが」

「それって結局、淳が囷になるって事でしょ？ 却下。私は2対1を提案するよ」

「……………、分かった」

ルシファーに向き直る。

きっとアイツは、犠牲者が0というのが望ましいと思っているの
だろう。

だが、できない。

『俺と菖蒲』か『ルシファー』。

どちらかが犠牲にならなくてはならない状況。これであいつがた
だの悪人だったら何の悩みも無く戦えたのにな。
犠牲を絶対に避けられない状況。それがこんなにも苦しい形で訪
れるとは思わなかった。

「2対1で頼む」

「……よからう。私のライフは8000もらう。ターンは我から反
時計回りじゃ」

つまり、ルシファー↓菖蒲↓俺、という事か。

「俺は構わない」

「私も大丈夫です」

「うむ、然らば構えよ」

本当はもつと楽しい状況でデュエルしたかった。そう言つとルシ
ファーは笑った。我もじゃよ。きっと皆、同じじゃ。そう言つてく
れた。

こいつは………、本ッ当に好い奴だよ。

「では、行くぞ！」

「ああ、来い！」

「全力で行きます！」

『デュエル?』

t
o
b
e
c
o
n
t
i
n
u
e
d

5話：自己犠牲は悪い事（後書き）

淳「2対1のデュエルがとうとう開始。命を賭けた全力の戦い！」

菖蒲「ギャグも冗談も無しに行くよ！ 次回、遊戯王 伝説の刃

『6話：伝説の力・封じられたチカラ』！ お楽しみに！」

6 話：伝説の力・禁じられたチカラ（前書き）

淳「伝説の力を信じて始まった俺達VSルシファアのデュエル！」

菖蒲「ルシファアの持つ禁じられた力とは！」

前後編に分かれてのデュエル！ スタートです！

6 話：伝説の力・禁じられたチカラ

『デュエル！』

淳：LP 4000

菖蒲：LP 4000

ルシファー：LP 8000

SIDE：淳

「私のターン、ドロー！」

ルシファーが最初のターンで始まったデュエル。正直言って勝てる保証は無い。でも、こいつは俺達の僅かな希望に賭けてくれた。それに応えなくちゃいけない。

「モンスターを1体セット！ リバースカードを2枚出して、ターンエンドじゃ」

ルシファー：LP 8000

手札：3枚

フィールド

：セットモンスター
：伏せカード2枚

反時計回りって言ってたから、次は菖蒲か。

「私のターン、ドロー！」

俺と菖蒲のデッキに入った新たなカード達。頼む、力を貸してくれ！

「『天使の施し』を発動！ カードを3枚ドローして、手札を2枚墓地へ送る！ 続いて私もモンスターをセット！ カードを1枚伏せて、ターンエンド！」

菖蒲：LP 4000

手札：4枚

フィールド

：セットモンスター

：伏せカード1枚

オツケ。ここまではアイツに動きは無い。対象を俺に絞ったのか、

それとも様子見か。
迷ってても仕方ねえ！

「ドロー！」

引いたカードは……『破滅の女神ルイン』か。
でも『マンジュゴッド』も儀式魔法も無い。まだ使えないか。
なら、来てもらうまで！

「モンスターを裏側表示で召喚！ リバーズカードを2枚伏せて、
ターンを終了する」

淳：LP 4000

手札：3枚

フィールド

：セットモンスター

：伏せカード2枚

「私のターンじゃ、ドロー」

引いたカードを見つめるルシファア。キーカードか、役に立たないカードか……。

「主ら、数年前にあった事件を知っておるか」

「事件？」

「何ですか？」

「……人の魂が抜き取られる事件じゃ」

アレか……。特殊なカードに人の意識、というか魂を封印するんだっただったな。

でもあれは結局皆意識が戻って来たんだっけ。

でも何でそんな話を……。まさか！？

「まさか、そんな話をいきなり切り出すって事は……」

「左様。お主ら、我が如何様にして主らの命を奪うつもりだったのか、考えなかったのか？」

正直言つと、考えていなかった。俺も菖蒲もさつきまで沈んでたし、そもそもコイツがどうやって俺達を殺すかなんて事、考えたくも無かったからな。

それよりも、俺の中では恐ろしい予想が生まれた。間違いであつて欲しいが……。

「おい、まさか“ブラーマ”の首領つてのは“ドーマ”の一員だったのか！？」

「どーま？」

「数年前にソリッドヴィジョンモンスターが大暴れしたつつう事件あつたろ」

「うん」

「あれの犯人、というか黒幕の組織が“ドーマ”だ」

ここに来て漸く菖蒲も驚いた表情を作った。元から大きめの目が更に大きく見開かれ、もう円になっている。

ドーマの名は、パラディウス社と海馬コーポレーションが発表し

た、パラディウス社の名を騙った組織の名。まだ世界中の人々の記憶に新しいだろう。

「てこたあ、首領が着手したエネルギーってのは……」
「当然、これだ。フィールド魔法発動！」

『オレイカルコスの結果』？」

緑色の魔法陣がルシファアの足元に出現すると、それは俺達3人を囲む程大きくなり、更に六芒の星を生み出した。そして、ルシファアの額にサークルに納まっている同じ六芒の星の紋章が浮き出た。

「やっぱりか……、ん？」

俺も1度、この結界の使い手と戦った事があった。結果は勝利。人間とは思えない奴は俺に負けた後に消滅したが、それは余談だ。つまり、この結界を俺は知っているのだが、俺の知っている結界とこの結界は異なる点が一ヶ所だけあった。

「文字が、紫色……？」

魔法陣の文字の色だ。俺が見たヤツは全てが緑色。だがこの結界は魔法陣の外周にある奇妙な文字が不気味な紫色だった。

「どうやら効果は知っているようじゃな」

「ああ。アンタが本気で俺達の命を狙ってる事もな」

隣で菖蒲が首を傾げた。コイツは知らないのか。

「『オレイカルコスの結界』は負けた方の魂をカードの内側に封印するんだ」

「って事は、皆が生き残る事は……」

「不可能だ。ルシファーが負けるか、俺と菖蒲が負けるまでデュエルは続く。そして、俺達が勝つても、俺か菖蒲、どちらかが負けていれば、そいつの魂は戻って来ない」

「そんな……」

「もう1つ言えば、こいつは破壊できない。他のフィールド魔法での上書きも、だ」

菖蒲は絶句した。元からコイツは人が好いから、誰かが死ななくちゃいけない、なんて酷な話はキツインだろう。

オレイカルコスの結界（アニメオリジナル）

【フィールド魔法】

このカードはいかなる魔法・罠・モンスターの効果によっても破壊されず、効果を無効にすることもできない。

自分フィールド上のモンスターの攻撃力を500ポイントアップさせ、さらに魔法・罠ゾーンにもモンスターを召喚できるようになる。魔法・罠ゾーン（後衛）のモンスターは、モンスターゾーン（前衛）にモンスターが存在する限り相手から攻撃されない（自分のターンには攻撃に参加できる）。

ルシファー。お前に無理強いさせてるヤツは、こんな良い子を悲しませてまで目的を達成したいのか……？
クズみてえな奴だ、虫唾が走るぜ！

「魔法カード『闇の誘惑』を発動。手札の『霊滅術師カイクウ』を除外する」

闇の誘惑

【通常魔法】

自分のデッキからカードを2枚ドロし、その後手札の闇属性モンスター1体を選択してゲームから除外する。

手札に闇属性モンスターがない場合、手札を全て墓地へ送る。

「更に我は伏せていたモンスター『ビッグ・シールド・ガードナー』を生け贄に、『ニードルバンカー』を攻撃表示で召喚！」

ニードルバンカー：ATK 1700

「『オレイカルコスの結界』の効果で攻撃力が500ポイントアップする」

ニードルバンカー：ATK 1700 ↓ 2200

『ビッグ・シールド・ガードナー』が光となって消えると、そこには巨大な金属装甲のサソリがいた。額らしき場所に結界と同じ紋様が浮かび上がる。

マズイ！ あのモンスターは……！

「『ニードルバンカー』で淳のモンスターを攻撃！」

巨大なハサミで俺のセットカードを切り刻むサソリ。セットされた三つ目のモンスターが破壊された。

「破壊された『クリッター』のモンスター効果で、デッキから攻撃力1500以下のモンスターを1体手札にリクルートする！」

「ならばこちら『ニードルバンカー』の効果を発動する！ モンスターを戦闘破壊した時、そのモンスターのレベル×500ポイントのダメージを与える！」

クリッター（効果モンスター）

星3

闇属性/悪魔族

ATK 1000 / DEF 600

このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、自分のデッキから攻撃力1500以下のモンスター1体を手札に加える。

ニードルバンカー（効果モンスター）

星5

闇属性/機械族

ATK 1700/DEF 1700

このカードが戦闘によってモンスターを破壊し墓地へ送った時、破壊したモンスターのレベル×500ポイントダメージを相手ライフに与える。

ぐおっ、と尻尾が俺に向かって突っ込んで来た。『ニードルバンカー』を相手にするのは初めてじゃない。なのに、振り下ろされた尻尾を見た瞬間、背筋に悪寒が走った。

ゾクッ！

咄嗟に身体を反らせてなかったら危なかったかも知れない。そう思ったのは、吹っ飛ばされた後だった。

口の中に、赤い鉄の味がする液体が広がった。

SIDE：菖蒲

「え？」

私は自分の見たものが信じられなかった。

淳：LP 4000 ↓ 2500

淳のライフが減った、それは問題無い。問題なのは……

「物理的なダメージを負った……」

どうやらこの結界は端の部分に見えない壁があるらしく、吹っ飛ばされた淳はそこに叩きつけられたらしい。

違う、問題はそこじゃない。淳が口の端から血を流している事が問題だ。

「これって、ソリットヴィジョンじゃないの!？」

「う、ぐ……、らしいな……」

「左様じゃよ、菖蒲殿」

ぐぐ、と起き上がった淳と、落着きを払っているルシファーさんが同時に答える。

「この感覚、思い出したぜ……! 闇のゲームか……!」
「闇のゲーム!？」

流石の私にもそれは聞き覚えがあつた。デュエルでの痛みが現実になったり、負ければ無限の苦痛に落とされたりと、正に闇の領域の現象。

ボソリ、と淳はさつき文字が違うと言っていた。

もしかして、文字が違う理由って……！

「そうじゃ。首領は既存の結界に改造を加え、ダメージが実際にフ
ィードバックする、闇のゲームの要素を加えたのじゃ……」

ルシファーさんが申し訳なさそうに、残念そうに言う。

ケガを負い、意識がなくなればデュエル続行不可能で負ける。自
陣の被害を無視してでも魂を集めたいとも言うの、首領さん。

だとしたら、貴方は外道という言葉すら生ヌルい。アンタは人間
じゃ無い！

「更に魔法カード『火炎地獄』を発動。我に500、淳殿に100
0ポイントのダメージじゃ。ぐっ！」

発動と同時に巨大な炎がようやく持ち直した淳に直撃した。
意外にも冷静に事を見ている自分にちよつとびっくり。

「ぐ、あああああああああつ！」

「淳！」

淳：LP 2500 ↓ 1500

ルシファー：LP 8000 ↓ 7500

所々から黒い煙を上げて倒れる淳。服も髪も焼けてる。やっぱり本

当に肉体的なダメージが通ってる！

「あ、ぐ……」

「1枚カードを伏せ、ターンを終了する」

ルシファア：LP 7500

手札：2枚

フィールド

：ニードルバンカー（ATK 2200）

：伏せカード3枚、オレイカルコスの結果（フィールド魔法）

「ルシファアさん！」

思わず私は叫んだ。叫ばずにはいられなかった。

淳が倒れた。致命傷かも知れない。

そして、それをやったのが、あの人の良いルシファアさん。私は、彼の意図を確かめたかった。

「何でこんな事を！」

「……我が生きるにはこうするしか無いのじゃ。“ブラーマ”に染められてしまった以上、我は主らを殺して生きるか、我自身が死んでお主らに次の刺客が向けられるかのどちらかなのじゃ」

「ルシファアさん。それは、建前ですか。それとも本音ですか」

あえて疑問口調にはしなかった。もう、それを知っても、自分も、デュエルも止まらなないと知っていたから……！

「両方じゃよ。そして、お主らを狩る。それが我の覚悟。」

「覚悟……」

「菖蒲……、ここはもう、戦いの場だ……！」

「淳！」

ガクガクの膝を支えながらなんとか立ち上がってきた淳。でも、このままじゃ淳が……！

どうにかして彼だけでも逃がせないだろうか。そんな甘い考えは、彼自身の言葉で崩れた。

「覚悟が、無い、なら……、死ぬぞ……」

覚悟。

私の心にそれは重く圧し掛かった。

きつと淳もルシファーさんもそれを決めた。

倒す覚悟を。生きる覚悟を。戦う覚悟を。

なら、私も決めなくてどうする！

足手まといはイヤ！

ルシファーさんが勝っても、私達が勝っても、ルシファーさんに悔いを残しちゃいけない！

「生き残る、それが貴方の覚悟ですか」

「その通りじゃ」

それなら、私は…！

「なら、私は、このデュエルに全力で勝ちに行く！それが私の覚悟だっ」

伝説の力よ、私に力を貸して！

「私のターン、ドロー！」

引いたカードは『ギガプラント』、『四季彩色の花』じゃなかった。

でも、これで行く！

「裏側表示モンスターオープン！『イービル・ソーン』！この

カードを生け贄に捧げ、モンスター効果で、300ダメージを受けろお！」

必殺の“イービル・バースト”。威力は高くない。でも、この後の展開には必要な物。

「ぬぐあっ！」

ルシファー：LP 7500 ↓ 7200

「更に、『イービル・ソーン』を2体、特殊召喚！」

イービル・ソーン：ATK 100

「まだまだあ！『イービル・ソーン』の片方を生け贄に『ギガプラント』を召喚！」

ギガプラント：ATK 2400

「永続魔法カード『超栄養太陽』を発動！『イービル・ソーン』に適応し、手札の『ローン・ファイアブロッサム』を特殊召喚！」

ローン・ファイアブロッサム：ATK 500

ローン・ファイアブロッサム（効果モンスター）
星3

炎属性/植物族

ATK 500 / DEF 1400

自分フィールド上に表側表示で存在する植物族モンスター1体をリリースして発動する。

自分のデッキから植物族モンスター1体を特殊召喚する。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

行くよ、必殺コンボ！

「『ローン・ファイアブロッサム』のモンスター効果発動！ 1ターンに1度、場の植物族モンスター1体を生け贄に、デッキから植物族モンスターを1体特殊召喚！ 『ファイアブロッサム』自身を生け贄にして、カモン！ 『ボタニティ・ガール』？」

ボタニティ・ガール：ATK 1300

ボタニティ・ガール（効果モンスター）

星3

水属性/植物族

ATK 1300 / DEF 1100

このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、自分のデッキから守備力1000以下の植物族モンスター1体を手札に加える事ができる。

ウツボカズラを背中に生やした様なモンスターを場に出す。レベル3でそこそこ強い能力を持つ。しかもこの子はまだデッキに眠っている“あるモンスター”とのシナジーがなかなか強い。

「バトル！ 『ギガプラント』で『ニードルバンカー』を攻撃！」
『グジャアアアアアアッ！』

『ニードルバンカー』は厄介なモンスター。ここで倒さないと！
これ以上淳にダメージを通したら、淳の命がデュエル終了まで持たない！

「焦りすぎじゃぞ。速攻魔法『収縮』を発動！ 『ギガプラント』の攻撃力を半減させる！」

「させない！ カウンター罠『ポリノシス』発動！ 『ボタニティ・ガール』をコストに、『収縮』の発動を無効にする！」

ポリノシス

【カウンター罠】

自分フィールド上に存在する植物族モンスター1体をリリースして発動する。

魔法・罠カードの発動、モンスターの召喚・特殊召喚のどれか1つを無効にし破壊する。

これを喰らえば戦闘ダメージ1000+効果ダメージ3000で不注意による1キル。負けられない！ そんな下らない方法で負けてはいけない！

「攻撃再開！ “ギガ・クラッシュ・ウィップ”？」

『グジャアアアアア！』

『ギギギギギギッ！』

『ギガプラント』がツタの1本を伸ばして『ニードルバンカー』を吹き飛ばした。

「『ニードルバンカー』を撃破！」

「ぬあっ！」

ルシファー：LP 7200↓7000

撃破して、気がついた。ライフが多い分、ルシファーさんの方が苦しみが多い！？

「ルシファーさん！」

「情けをかけるな！」

発した声を、ルシファーさんは否定した。

「主の覚悟は、その程度で揺らぐのか！ 違うだろう！ 覚悟を決めたならば、最後まで我を敵と見定め、掛かって来い？」

ルシファーさん……………。

ブンブンと頭を振って思考を追い出す。あの人に失礼の無いデュエルをしなくちゃいけない！ 最後まで信念を貫き通す！

「リバーズカードをセットし、ターンエンド！」

菖蒲：LP 4000

手札：1枚

フィールド

：ギガプラント（ATK 2400）

：伏せカード1枚

「俺の…、ターン……！」

SIDE：淳

カードを弱々しく引く。口の中は不快な鉄の味で満ちているし、身体中が痛い。

体力の消費が、大きい。身体が休息を求めている。

だが、それが何だ。2人が2人共、覚悟を決めて戦っている。俺が退いちゃ、笑い草にもならんわあ！

「来い！ 『マンジュ・ゴッド』……！ 効果、で『エンド・オブ・ザ・ワールド』、をサーチして、発、動？」

マンジュ・ゴッド：DEF 1000

青色の炎が辺りを取り囲む。きっとこれは世界を滅びへと導く炎。でも、今はその力を借りるぞ。

「手札、の、レベル、4の、『翻弄するエルフの剣士』、と『巨大ネズミ』を生け贄に、現れる！ 『破滅の女神ルイン』？」

『はああああ、はあっ！』

破滅の女神ルイン：ATK 2300

「行け、ルイン！ ダイレクト、アタックだあっ！」

杖の先に収束したエネルギーを撃ち出したルイン。それはそのままルシファーに直撃した。

ルシファー：LP 7000↓4700

「ぬううう……。リバースカード発動『ダメージ・コンデンサー』？ 手札を1枚捨て、このターン我が受けたダメージ以下の攻撃力のモンスターを1体、特殊召喚する！ いでよ『プロミネンス・ドラゴン』？」

げっ！ バーン効果を持つモンスター！？

プロミネンス・ドラゴン：ATK 1500↓2000

プロミネンス・ドラゴン（効果モンスター）

星4

炎属性/炎族

ATK 1500/DEF 1000

自分フィールド上にこのカード以外の炎族モンスターが存在する場合、このカードを攻撃する事はできない。

自分のターンのエンドフェイズ時、このカードは相手ライフに500ポイントダメージを与える。

ルインのモンスター効果は、「モンスターを戦闘破壊した時」にしか通用しない。つまり、『プロミネンス・ドラゴン』をこのターンで片付けるのは不可能、という事だ。

破滅の女神ルイン（儀式・効果モンスター）
星8

光属性/天使族

ATK 2300 / DEF 2000

「エンド・オブ・ザ・ワールド」により降臨。

フィールドか手札から、レベルの合計が8になるようカードを生け贄に捧げなければならない。

このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊した場合、もう1度だけ続けて攻撃を行う事ができる。

「カード、を1枚、セットし、ターンエンド……!!」

渾：LP 1500

手札：2枚

フィールド

：マジュ・ゴッド（DEF 1000）、破滅の女神ルイン（ATK 2300）

：伏せカード3枚

「私のターンである。ドロー。魔法カード『強欲で謙虚な壺』を発動。カードを3枚捲って1枚手札に加え、その後シャッフルじゃ」

強欲で謙虚な壺

【通常魔法】

自分のデッキの上からカードを3枚めくり、その中から1枚を選択して手札に加え、残りのカードをデッキに戻す。

「強欲で謙虚な壺」は1ターンに1枚しか発動できず、このカードを発動するターン自分は特殊召喚する事ができない。

あの優しいあいつは心を鬼にして戦っている。その裏には何かあるはずなんだ。

「連続ドロー、行くぞ！ 『天使の施し』でカードを3枚引き、2枚捨てる！ 更に捨てた『暗黒界の狩人ブラウ』の効果でカードを1枚ドロー！

続いて『貪欲な壺』を発動！ 墓地の『ビッグ・シールド・ガー

ドナー』『ニードルバンカー』『闇より出でし絶望』『暗黒界の狩人ブラウ』『D・D・クロウ』をデッキに戻してシャッフルし、2枚ドローじゃ!」

『ダメージ・コンデンサー』と『天使の施し』の時に捨てていたのか!

天使の施し

【通常魔法】

デッキからカードを3枚ドローし、その後手札からカードを2枚捨てる。

貪欲な壺

【通常魔法】

自分の墓地に存在するモンスター5体を選択し、デッキに加えてシャッフルする。

その後、自分のデッキからカードを2枚ドローする。

暗黒界の狩人ブラウ（効果モンスター）

星3

闇属性/悪魔族

ATK 1400 / DEF 800

このカードがカードの効果によって手札から墓地へ捨てられた場合、自分のデッキからカードを1枚ドロースする。

相手のカードの効果によって捨てられた場合、さらにもう1枚ドロースする。

闇より出でし絶望（効果モンスター）

星8

闇属性/アンデット族

ATK 2800 / DEF 3000

このカードが相手のカードの効果によって手札またはデッキから墓地に送られた時、このカードをフィールド上に特殊召喚する。

D・D・クロウ（効果モンスター）

星1

闇属性/鳥獣族

ATK 100 / DEF 100

このカードを手札から墓地へ捨てて発動する。

相手の墓地に存在するカード1枚を選択し、ゲームから除外する。

この効果は相手ターンでも発動することができる。

ルシファアの意図。それはきっと……

「我は『可変機獣ガンナードラゴン』を妥協召喚？ このカードを生け贄無しで召喚した時、攻撃力と守備力は半分になる」

可変機獣ガンナードラゴン：ATK 2800 ↓ 1400 ↓ 1700 / DEF 2000 ↓ 1000

可変機獣ガンナードラゴン（効果モンスター）

星7

闇属性 / 機械族

ATK 2800 / DEF 2000

このカードは生け贄なしで通常召喚する事ができる。

その場合、このカードの元々の攻撃力・守備力は半分になる。

キヤタピラに搭載されたのは機械の龍。召喚と同時に大きさが半分になる。

ルシファア、鍛えてくれている事に、感謝する！

「続いて装備魔法『愚鈍の斧』を発動。モンスター効果を無効にし、攻撃力を1000ポイントアップさせる。

ただし、装備モンスターのコントローラーは私のスタンバイフェイズ毎に500ポイントのダメージを受ける」

可変機獣ガンナードラゴン：ATK 1900 ↓ 4300 / DEF
1000 ↓ 2000

巧い、妥協召喚の影響で下がった数値を元に戻したか！

「『ガンナードラゴン』で『ルイン』を攻撃！」

「罨、発動『くず鉄のかかし』？ 1ターンに1度、相手、モンスターの、攻撃を、無効化する……！」

『ガンナードラゴン』の振り下ろした間抜けなデザインの斧を、ヘルメットや捨てられた金属で構成された案山子が受け止めた。凹みすら出来ないのだから、もしかしたらこの金属はまだ十分使えるのでは無いのだろうか。

「そして、墓地に、は、行かず、再セットされ、る……！」

案山子がカードの中に戻ると、オープンしていた罨は再び倒れてセット状態になった。

「どう、だ……！ アンタ、の、手札は、0……。打つ手は、無エ、ハズだ……！」

「確かにのう。しかし、それを言うのはこの伏せたカードを見てからにしてもらおうか」

！ しまった、まだ1枚伏せカードが……！

「伏せカードオープン。『強欲な壺』じゃ。デッキからカードを2枚ドロースる」

スチャツ、と2枚のカードが引かれる。ちいっ！ これを見越してドローソースを伏せていたのか……！

「永続魔法『悪夢の蜃気楼』を発動。相手のスタンバイフェイズに手札が4枚になるようにデッキからカードをドローする。

カードを1枚伏せて、ターンを終了する

そしてエンドフェイズに500ダメージじゃ」

「ぐ、おがぁぁあ……！」

淳：LP 1500↓1000

ルシファー：LP 4700

手札：1枚

フィールド

：可変機獣ガンナー・ドラゴン（ATK 2900）

：伏せカード1枚、悪夢の蜃気楼（永続魔法）、オレイカルコスの結界（フィールド魔法）

ぎりっ、と奥歯が鳴った。『悪夢の蜃気楼』はドローソースだが、自分のスタンバイフェイズに引いた枚数分、手札を捨てる必要がある。

あのカードは、自陣のカードを破壊するカードとセットで使われる事が殆どだ。多分伏せたカードは『サイクロン』系か、それとも

……。

「私のターン！」

「主のスタンバイフェイズに我は手札を補充する。この場合は4枚ドローじゃ。更に『非常食』を発動し、デメリットを消させて頂く」

非常食

【速攻魔法】

このカード以外の自分フィールド上に存在する

魔法・罠カードを任意の枚数墓地へ送って発動する。

墓地へ送ったカード1枚につき、自分は1000ライフポイント回復する。

ルシファー：LP 4700↓5700

くっ、と唸る。与えたダメージの一部が回復された。

バーン、ロック、ビートダウン、キュアと、あのデッキは本当によくできている。

「リバースカードを1枚セット！そして『ギガプラント』を守備表示に変更して再度召喚！これでデュアルモンスターは効果が使える！」

巨大な植物がグググ、と蹲る。俺達から見れば隙があるようにも

見えるが本人（本植物？）にとってはあれが守備の体勢なのだろう。

ギガプラント：DEF 1200

菖蒲はまだ心が折れてない。ダメージ分を取り返そうというのだらう。

なら俺も諦めちゃいけないな。

「モンスター効果で、『ローン・ファイアブロッサム』を蘇生！そして『ファイアブロッサム』の効果でこのカード自身を生け贄に『フェニキアン・シード』を特殊召喚！」

フェニキアン・シード：ATK 800

ツタに覆われた種？が現れる。種を出したって事は、あの“花”を出す気が……。

「『フェニキアン・シード』を墓地に送り、手札から『フェニキアン・クラスター・アマリリス』を特殊召喚！」

フェニキアン・クラスター・アマリリス：ATK 2200

咲いた花は、鳥の顔の様に細かった。自壊と蘇生効果がある特殊なモンスターだ。

花は種以外の方法で特殊召喚出来ないが、種の方は特殊召喚が可能なので、一連のステップを邪魔されなければ、容易に出せる。ちなみに、クラストアマリリス、というのは彼岸花の事だそう
だ。

「『フェニキシアン・クラスト・アマリリス』で『プロミネンス・ドラゴン』を攻撃！
フレイム・ペタル “炎の花弁”？」
「むぐっ！」

ルシファー：LP 5700 ↓ 5500

「更に『フェニキシアン・クラスト・アマリリス』はバトルを行った時に自壊し、相手プレイヤーに800ポイントのダメージを与える！
スキャッター・フレイム “飛び散る火炎”？」

ルシファー：LP 5500 ↓ 4700

よし、回復分が戻った！

フェニキシアン・シード（効果モンスター）
星2

炎属性 / 植物族

ATK 800 / DEF 0

自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードを墓地へ送って発動する。

自分の手札から「フェニキシアン・クラスター・アマリリス」1体を特殊召喚する。

フェニキシアン・クラスター・アマリリス（効果モンスター）
星8

炎属性/植物族

ATK 2200/DEF 0

このカードは「フェニキシアン・シード」またはこのカードの効果でしか特殊召喚できない。

このカードは攻撃した場合、ダメージ計算後に破壊される。

自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードが破壊され墓地へ送られた時、800ポイントダメージを相手ライフに与える。

自分のエンドフェイズ時にこのカードが墓地に存在する場合、自分の墓地に存在する植物族モンスター1体をゲームから除外する事で、このカードを墓地から守備表示で特殊召喚する事ができる。

「エンドフェイズに墓地の植物族モンスター『フェニキシアン・シード』を除外して、『アマリリス』を特殊召喚し、ターンエンド」

フェニキシアン・クラスター・アマリリス：DEF 0

菖蒲：LP 4000

手札：2枚

フィールド

：ギガプラント（DEF 1200）、フェニキシアン・クラスタ
I・アマリリス（DEF 0）

：伏せカー1枚

「俺のターン…！ ドロー……！」

少し、痛みが楽になった。慣れたのか、それとも感覚が怪しくな
ったのか……。

「『ルイン』を守備表示に変更……」

破滅の女神ルイン：DEF 2000

「カードを1枚伏せて、ターンエンド……！」

淳：LP 1000

手札：2枚

フィールド

：マンジュ・ゴッド（DEF 1000）、破滅の女神ルイン（D
EF 2000）

：伏せカード4枚（内1枚は『くず鉄のかかし』）

「我のターン！」

ぜえ、ぜえ……。

マジイな。これでルシファアの手札は5枚。加えて、感覚薄くな
つてきてるから分らないけど、俺の体力もヤバイらしいな。

「『愚鈍の斧』の効果で500ダメージを受ける、ぐううつ！」

ルシファア：LP 4700↓4200

「ゆくぞ！ 速攻魔法『リミッター解除』を発動！ エンドフエイ
ズまで我が場の機械族モンスターの攻撃力は倍になる！」

可変機獣ガンナードラゴン：ATK 4300↓8600

「『攻撃力8600！？』」

「『ガンナードラゴン』に装備魔法『メテオ・ストライク』を装備
！そして『マッド・デーモン』を召喚！」

マッド・デーモン（効果モンスター）

星4

闇属性/悪魔族

ATK 1800 / DEF 0

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

フィールド上に表側攻撃表示で存在するこのカードが攻撃対象に選択された時、このカードの表示形式を守備表示にする。

マッド・デーモン：ATK 1800 ↓ 2300

「貫通持ちが、2体並んだか……っ！」

「ケリをつけるぞ！」 『マッド・デーモン』に『デーモンの斧』を装備し、バトル！ 『ガンナードラゴン』で『フェニキアン・クラストー・アマリス』を、『マッド・デーモン』で『マンジュ・ゴッド』を攻撃い！」

『ガオオオオオオオオオオオ！』

『ゴガアアアアアアアッ！』

デーモンの斧

【装備魔法】

装備モンスターの攻撃力は1000ポイントアップする。

このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、自分フィールド上に存在するモンスター1体をリリースする事でこのカードをデッキの一番上に戻す。

マッド・デーモン：ATK 2300 ↓ 3300

これは、マズイかな……？

t o b e c o n t i n u e d

6話：伝説の力・禁じられたチカラ（後書き）

淳「今回の最強モンスターは『ニードルバンカー』と『ギガプラント』！『ニードルバンカー』はその能力こそ低いけど、それを補えば凄まじい戦力になるぞ！」

菖蒲「『ギガプラント』はデュアルモンスター！再度召喚すれば植物でも昆虫でもドンと来い！帝モンスターと互角の攻撃力も魅力的だね」

次回、遊戯王 伝説の刃 7話：遺志を受け継ぐ意思！ 決着は如何に！？そして伝説のカードの能力とは！

7話：遺志を受け継ぐ意思（前書き）

淳「V S ルシファー、決着編！」

菖蒲「あの希望のカードが登場！ 戦局がどう動くか！」

では、スタート！

7話：遺志を受け継ぐ意思

SIDE：淳

俺と菖蒲のタッグVSルシファーは俺達が大ピンチを迎えていた。雄叫びをあげる『マッド・デーモン』と『可変機獣ガンナードラゴン』が迫ってくる。喰らえば二人ともアウト。だが、俺の伏せカードを、ここで使つていいのか！？

……チツ、止むを得ねえ！　せめて『クラスター・アマリリス』を狙う『ガンナードラゴン』だけでも止めねえと、菖蒲が死ぬ！

マッド・デーモン（効果モンスター）

星4

闇属性/悪魔族

ATK 1800/DEF 0

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

フィールド上に表側攻撃表示で存在するこのカードが攻撃対象に選択された時、このカードの表示形式を守備表示にする。

「罨カー「ストップ！」菖蒲！？」

「ここは私がやる！」ソーン・ウォール『棘の壁』を発動！ 攻撃を受ける時、相手

の攻撃表示モンスターを全て破壊！」

「ぬっ！」

突如現れたイバラの壁に、勢い付いたモンスター達が泊まれる筈も無く、そのまま突っ込んで爆発を起こした。

つか爆発も機械の突進も防ぐって、随分頑丈だな、コレ。

「ふむ、巧いな菖蒲殿。挫けずにここまでやったとは、感心じゃよ」

ルシファアはマントの間から覗く瞳を細めた。それはどこか嬉しがつているようにも見えた。

「それでは、我は全力を超えた力を出そう。魔法カード『命削りの宝札』を発動」

「『命削りの宝札』？」

首を傾げる菖蒲に俺は説明する。センスはあるんだが、知識が少々足りないのが短所だ。

「5ターン、後に、手札を、全て捨てる、代わりに、手札が5枚に、なるようにデッキ、から、カードを、補充する、魔法、だ」マジック

「！？ ここで手札補充！？」

「まずいな……、来る、ぞ」

そして俺は気になっていた事が1つあった。

「そつえば、ここまで殆どビートダウン系のカードばかり……」

その通りだ、菖蒲。

夕方使った『はたき落とし』、『闇の呪縛』、『プライドの咆哮』、どれもまだ使われていない。

あれがまだデッキに眠っているのなら、ここからが本番だ。

「続けて『天使の施し』を発動。ふむ、カードを3枚伏せて、ターン終了じゃ」

天使の施し

【通常魔法】

デッキからカードを3枚ドロし、その後手札からカードを2枚捨てる。

ルシファー：LP 4200

手札：2枚

フィールド

：モンスター無し

：伏せカード3枚、オレイカルコスの結界（フィールド魔法）

「私のターン、ドロー！」

はあ、はあ……、頑張ってくれ、菖蒲……。そろそろ俺の、体力が尽きかけて来ている。

「『ギガプラント』の効果で墓地の『ローン・ファイアブロッサム』を復活！そして『ファイアブロッサム』を自身の効果で墓地に送り、デッキから私のエースモンスターを召喚する！」

来る！ あのモンスターが！

「カモン！ 『椿姫^{きばし}ティタニアル』？」
『ハアアアアア、ハアッ！』

椿姫ティタニアル：ATK 2800

来たか、菖蒲のデッキの最強カード！

椿姫ティタニアル（効果モンスター）

星8

風属性/植物族

ATK 2800 / DEF 2600

自分フィールド上に表側表示で存在する植物族モンスター1体をリリースして発動する。

フィールド上に存在するカードを対象にする魔法・罠・効果モンスターの発動を無効にし破壊する。

フィールドのあらゆる対象を取るカード効果の発動を無効にし、しかも並の上級モンスターじゃ対処出来ない。おまけに蘇生の制限が無いから様々な行動の中で蘇生が得意分野の1つである植物族には最高の戦力と言える。

「そして『ギガント・セファロタス』を通常召喚！

このまま押し切るよ！ 『ギガプラント』と『フェニキシアン・クラスター・アマリリス』を攻撃表示にする。そして、一斉攻撃！」

ギガント・セファロタス：ATK 1850

ギガント・セファロタス（効果モンスター）

星4

地属性/植物族

ATK 1850 / DEF 700

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、フィールド上に存在する植物族モンスターが墓地へ送られる度に、このカードの攻撃力は200ポイントアップする。

ゴウ！ と唸るツタ、炎の弾、イバラの鞭、そしてエネルギー弾

が射出される。攻撃力の合計は9250。どこまで通るか……！

「『マジック・シリンダー
魔法の筒』を発動じゃ」

「させない！ 『ティタニアル』の効果で『ギガント・セファロタス』をコストに無効化する！」

「ならばそれにチェーンをしよう。『聖なるバリア - ミラーフォース -』を発動！」

「あ！」

「そっちは、俺が防ぐ……！ 『魔宮の賄賂』を、発動……！ 魔法・罾の発動を、無効化し、相手はカードを、1枚、ドロ……！」

魔法の筒

【通常罾】

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

相手モンスター1体の攻撃を無効にし、そのモンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

魔宮の賄賂

【カウンター罾】

相手の魔法・罾カードの発動を無効にし破壊する。

相手はデッキからカードを1枚ドロする。

赤い筒を『ティタニアル』が手にした鞭で『ギガント・セファロタス』を投げて破壊し、続けて出て来たシールドは、突如降って来た小判が砕いた。

いやいやいや、あの小判、そういう風に使うの！？

「では、我は墓地の『ネクロ・ガードナー』2体を除外し、『椿姫ティタニアル』と『フェニキシアン・クラスター・アマリリス』の攻撃を無効にさせてもらおう」

ネクロ・ガードナー（効果モンスター）

星3

闇属性/戦士族

ATK 600 / DEF 1300

自分の墓地に存在するこのカードをゲームから除外して発動する。
相手モンスターの攻撃を1度だけ無効にする。

ルシファアの墓地から光が放たれたと思うと、黒い鎧武者が現れ、『ティタニアル』と『クラスター・アマリリス』の攻撃を受け止めた。

しかし、『ギガプラント』のツタは受け止める者が居らず、ルシファアに直撃した。

「ぬおおおっ！」

ルシファー：LP 4200 ↓ 1800

「『天使の施し』の、時に、捨てたのか……！」
「くっ、ターンエンド！」

菖蒲：LP 4000

手札：2枚

フィールド

：ギガプラント（ATK 2400）、フェニキシアン・クラスタ
ー・アマリス（ATK 2200）、椿姫ティタニアル（ATK
2800）

：伏せカード無し

「俺の、ターン！」

ルシファーのライフは後3分の1を切っている！ もう少しだ！

「伏せカードオープン」

「え？」

驚いて表側表示となったカードを見る。

何だアレ！？ 見た事ないぞ、あんなカード！

「罨カード『儀式魔人ダメージジャー（オリジナル）』。手札に儀式魔法と儀式モンスターが存在する時、前のターン受けたダメージ500ポイントまでにつきレベル1として扱う『儀式魔人トークン』を特殊召喚し、相手ターンでも儀式召喚を行える！」

「な、相手ターンで……、儀式魔法だと……！？」

前、つまり菖蒲のターンで受けたダメージは2400、つまりレベル5までのモンスターを呼び出せる事になる！

儀式魔人トークン： 5 ATK・DEF 0

儀式魔人ダメージジャー

【通常罨】（オリジナル）

自分フィールド上に「儀式魔人トークン（魔法使い族・闇・星？・攻/守0）」を1体特殊召喚する。

この時トークンのレベルはこのカードを発動した前のターンに受けたダメージ500ポイントにつきレベル1とし、500ポイント以内のダメージも500ポイントとして換算する。

また、このカードを発動したターン、手札に儀式魔法と儀式モンスターが存在するならば相手ターンであっても儀式召喚を行う事ができる。

「儀式魔法『オレイカルコス・永眠の儀』を発動。我は場の儀式魔人トークン、そしてデツキの我自身をコストに、出でよ、『久遠の永眠術師 ルシファー』？」

ルシファーは自分の場の丸い魔人と、デツキから彼自身を呼び出して儀式の魔法陣に置き、生け贄に捧げた。
光が2体を呑み込み、やがて一回りも二回りも大きな、そしてダークブルーのマントを羽織ったルシファーが現れた。

オレイカルコス・永眠の儀

【儀式魔法】（オリジナル）

「オレイカルコスの結界」が発動している時のみ発動可能。

「久遠の永眠術師 ルシファー」の降臨に必要。

場か手札からレベルの合計が5になるように生け贄を捧げ、デツキか手札から「暗黒の眠りを誘うルシファー」を墓地に送らなければ、
「久遠の永眠術師 ルシファー」は召喚できない。

久遠の永眠術師 ルシファー（儀式・効果モンスター）（オリジナル）

星10

ATK 2800 / DEF 2300

「オレイカルコス・永眠の儀」の効果でのみ降臨する。

このカードが場に存在する限り、相手の場のモンスターは攻撃できず、守備表示にもなれない。ただしこのカードが儀式召喚以外の方法で場に特殊召喚された時、この効果は無効化される。

このカードは1ターンに2回まで、相手の発動した魔法・罠・効果モンスターの効果を無効にできる。

このモンスターが破壊された時、このカードを破壊したプレイヤーは2000ポイントのダメージを受ける。

このカードが墓地に存在する時、1度だけデッキの1番上のカードを墓地に送る事で、プレイヤーが受けるダメージを半分にできる。

久遠の永眠術師 ルシファー：ATK 2800 ↓ 3300

「くっ、なんだありやあ……」

効果は分からない。だが、これだけは分かる。

あれは、ヤバイ……！

「効果を発動。このカードが場にある限り、相手モンスターは攻撃表示となり、攻撃できない」

く、『ルイン』と『マンジュ・ゴッド』が攻撃表示に……！

「場に、残しちゃ、いけない！ 罠カード発動……、『奈落の落とし穴』……！ モンスターの、召喚を、トリガーに、そのモンスター

ーを、除外、する……！」

奈落の落とし穴

【通常罠】

相手が攻撃力1500以上のモンスターを召喚・反転召喚・特殊召喚した時に発動する事ができる。

その攻撃力1500以上のモンスターを破壊しゲームから除外する。

どうだ、夕方のお返しだ！

苦勞して召喚したモンスターですら再利用が難しくなるカードだ。キーカードが来るまで取って置いたのは正解だった。

「2つ目の効果を発動じゃ。1ターンに2回まで魔法・罠・モンスター効果を無効にする」

なんだって！？

「『マンジュ・ゴッド』を生け贄に、『デーモンの召喚』を召喚…

…！」

まさか、数合わせて入れたコイツを使う事になるとは、ね。

まあ、気休めぐらいにはなるでしょ。『ルイン』がやられれば1000ポイント、『デーモンの召喚』がやられれば800ポイントのダメージ。『マンジュ・ゴッド』の1900ダメージよりはマシ

のハズだ。

『ルイン』がやられたらアウトだが、最低限、人間の姿は残して死にたいからさ。葬式くらい挙げられる身体で死にたいって思うのは間違ってるか？

デーモンの召喚：ATK 2500

「ターン、エンド……！」

淳：LP 1000

手札：2枚

フィールド

：破滅の女神ルイン（ATK 2300）、デーモンの召喚（ATK 2500）

：伏せカード3枚（内1枚は『くず鉄のかかし』）

1ターンに2回、という事はつまり、俺の場の伏せカードはほぼ全て防がれるという事だ。どれか1枚を破壊されればそこでアウトだ。

「我のターン、ドロー！」

くっ、そろそろ身体もキツイ、か……！

「じゅ。淳、大丈夫！？ 死相が出てるよ！？」

「な、なんとか、ね」

嘘だ。

正直言つて、すぐにでも倒れそうだ。

それでも倒れないのは、きっとルシファーに後悔させたくないから。

そして、俺の「家族」を心配させたくないからなんだろう。

「では参る。『久遠の永眠術師 ルシファー』よ、『ギガプラント』を攻撃じゃ！ “サスピシャス・イリユージョン（疑惑の幻想）”」

『ルシファー』の手の内に黒いエネルギーが集まる。やがてそれは球状に固まり、同心円のエネルギー波となって発射された。

ルシファー、アンタとしては優しさで俺を後回しにしたんだろう。でも、それは菖蒲に危害を加えるのと俺を殺すのは、今の場合同義なんだよ。

そして菖蒲！ 俺が生きている限り、お前を、傷つけさせはしない！

「『攻撃の無力化』を、発動……！」

「む、カウンター罠か！」

そう、カウンター罠はスペルスピード3。これにチェインできるのは同じカウンター罠だけだ。あのモンスターの効果では防げない！

攻撃の無力化

【カウンター罠】

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

相手モンスター1体の攻撃を無効にし、バトルフェイズを終了する。

予想通り時空の渦が攻撃を呑み込み、バトルフェイズは強制終了となった。

「リバーiscardを1枚出し、ターンエンドじゃ」

ルシファー：LP 3800

手札：0枚

フィールド

：久遠の永眠術師 ルシファー（ATK 3300）

：伏せカード1枚、オレイカルコスの結果（フィールド魔法）

「あ、ありがとう、淳！」

「ああ、だが、もう攻撃を、防ぐ、手立ては無い……。『攻撃の無力化』、は、1枚、しか、入って、ないんだ……！」

「あ、そつか……」

そう、もう使えそうなカウンター罠はデッキに残ってない。元々俺のデッキに入っているカウンター罠は『攻撃の無力化』の他には精々『魔宮の賄賂』や『地獄の扉越し銃』、後は『キックバック』といった所。

「もう、ダメなのかな……」

「あ、や、め……」

ぐっ、頭がグラつく……。かける言葉が、分からねえ……！

「諦めるでない」

ルシファア……！？

「まだ希望はあるはずじゃ。お主らには、あのカードがある！」

……、そうか。そうだったな。

あの白紙から姿を変えたカード達。あれなら行けるかも知れない。

「ルシファア、アンタの、言う、通りだな……。デュエリストなら、最後まで、諦めちゃ、いけねえ……！ デッキに、まだカードが、眠って、いるんだから！」

「淳……！」

は、敵からそんな事言われるたあな。

暗くなってた菖蒲も、あいつの言葉で元気を取り戻した。デッキトップに手をかけ、眼には強い光が差し込んでいる。

俺も、血が足りなくてどうかしてたな。

諦めたらそこでゲームセット。それが俺の持論だったろうが！

「ありがとう、ルシファーさん」

「希望よ、我に打ち勝って見せよ！」

「うん！ 行くよ、私のターン！」

シャツ！

引かれたカードは、どこか輝いて見えた。

「来た！」

(BGM: PHANTOM MINDS)

ここで引くとは、ディステイニードローやるな菖蒲……！

「『ギガプラント』のモンスター効果で、『ローン・ファイアブロッサム』を蘇生する！ “リヴァイヴ・グロウ”？」

「させぬ！ それを無効にさせてもらうぞ！」

『ギガプラント』が吼え、地面にツタを突っ込んで何かを引っ張り出そうとするが、『久遠の永眠術師 ルシファー』の赤い目が強烈に光ると、その行動を途中で止めてしまった。催眠術の類だろうか。

「読んでましたよ！ 1回空撃ちさせれば後はこっちのモノです！ 私は『ギガプラント』と『フェニキアン・クラスト・アマリス』、『椿姫ティタニアル』を生け贄に捧げる！」

「菖蒲の三大エースを……！？」

巨大な植物の塊である『ギガプラント』、赤く燃える彼岸花『フェニキアン・クラスト・アマリス』、椿の花の下半身を持つ美しき姫『椿姫ティタニアル』。その3体が光となって天空へと消えて行く。

「大地に咲き乱れし初夏の花、今その力を振るわんが為に出でよ！」

『四季彩色の花 ハッピーアイリス』？」

フィールドに現れたのは、紫色の、アヤメの花が刺繍されたドレスを纏う女性。左手には何かの法典のような分厚い本が抱えられている。

……ん？　なんか、菖蒲に似ているような……？　気のせいかな。

四季彩色の花　ハッピーアイリス（効果モンスター）（オリジナル）

星10

ATK 3200 / DEF 2400

風属性/魔法使い族

このカードは自分の場の攻撃力2000以上の植物族モンスターを3体リリースしなければ召喚できない。

1ターンに1度、コイントスを2回行う。表が出た回数で以下の効果を得る。この効果が無効化された時、もう1度だけこのカードの効果を使用する事ができる。

- 0回：自分の手札1枚につき、ライフを500ポイント回復する。
- 1回：エンドフェイズまで相手の場の効果モンスターの効果を無効にし、このカードの攻撃力と守備力を500ポイントアップさせる。この効果は対象墓地に送られた時に発動する効果に対してもする。

- 2回：相手の場のカードを2枚までゲームから除外する。

「行きます！ 『ハッピーアイリス』は1ターンに1度、コイントスを2回行い、表の出た回数でそのターンの効果が変化します！」「ならば、それを無効にする！ キーカードも効果を抑えられてしまえば終いじゃ！」

「いいえ、このモンスターの効果は無効にされた時、もう1度コイントスを行う事ができます！」

「なんじゃと!?!」

なるほどな。だから1回空撃ちさせる必要があつたのか。2回とも無効にされたら、もう効果は使えないからな。

「コイントス！」

チン、チン！ とコインが2回、宙へ舞う。結果は……。

「表が出た回数は1回！ よってエンドフェイズまで『久遠の永眠術師 ルシファー』の効果は無効となり、『四季彩色の花 ハッピーアイリス』の攻撃力と守備力は500ポイントアップする！」

四季彩色の花 ハッピーアイリス：ATK 3200 ↓ 3700 /
DEF 2400 ↓ 2900

菖蒲のタクティスで怖いポイントはここだ。土壇場で実力を大きく上回る力を発揮する。デイスティニードローやこういうギャンプル効果で、予想出来ない展開へ引っ張って行く。それがアイツの運なのかどうかは知らない。でも、これに俺は何度も苦しめられた。

「装備魔法『ジャンク・アタック』を『ハッピーアイリス』に装備
！」

ジャンク・アタック

【装備魔法】

装備モンスターが戦闘によってモンスターを破壊し墓地へ送った時、破壊したモンスターの攻撃力の半分のダメージを相手ライフに与える。

「『四季彩色の花 ハッピーアイリス』で『久遠の永眠術師 ルシファー』を攻撃！ 必殺、 “ミラクル・フォーチューン・サンシャイン” ？」

『ハッピーアイリス』が本を開くと、ページが優しい緑色に光り、前に突き出した手にその光が集まって行く。そしてやがてそれは闇すら昼の如く照らす輝きとなり、1つの太陽を作り上げた。

完成した太陽を放つと、『ルシファー』が受け止めようとする暇も無く、成す術無く焼き払われた。

……、ちよつとエグイ。

「ぬおおあああああああああああああつ！」

焼き払った炎の弾は強い熱風を巻き起こし、後ろで控えていたプレイヤー、つまりルシファーをも吹き飛ばした。

「る、ルシ、ファー……………ッ！」

「ルシファーさん！」

ルシファー：LP 1800 ↓ 1400

結界に叩き付けられ、ルシファーは地面にずり落ちた。ロープの端からは流血が滴っており、黒い煙が上がっている。

ライフの減りは大した事無いのに、ここまでの大ダメージを与えたというのか。

ぐぐ、と起き上ったルシファー。息も絶え絶えなのに、その眼は

未だに光を失っていないかった。

「まだ、じゃ！ まだ我がライフは……、尽きておらん！」

「菖蒲……、決着を……、着けよう……！」

その瞳は語る。最後まで戦い、我を倒せ、と。

「……はいっ！ 『ジャンク・アタック』の効果で、攻撃力の半分の数値をダメージとして受けてもらいます！」

「うむ、我も『永眠術師ルシファー』の効果で、そのダメージをデスキトップの、カードを墓地に送って、半分にする。

ぐっ……、おおっ……！」

ルシファー：LP 1400↓700

緑色の破片が無数に飛び散り、ルシファーに次々と命中する。

実際いくつかの破片がローブを裂き、血がビシャツ、と飛び散った

「カードを1枚伏せ、ターン終了……！」

四季彩色の花 ハッピーアイリス：ATK 3700↓3200/

DEF 2900↓2400

菖蒲：LP 4000

手札：0枚

フィールド

・四季彩色の花　ハッピーアイリス（ATK　3200）
：伏せカード1枚、ジャンク・アタック（装備魔法・『四季彩色の花　ハッピーアイリス』に装備）

「菖蒲殿のエンドフェイズに、永続罫『リビングデッドの呼び声』を発動し、『久遠の永眠術師　ルシファー』を、蘇らせる！」
「くっ、復活、カード、か！」

カードが地面に水平に現れ、そこから光が溢れ出ると、倒したハズの『ルシファー』が再び姿を現した。

「ただし、儀式召喚、以外で、場に特殊召喚、した為、相手モンスターは、守備表示に、する事が可能であり、また、こ奴を攻撃する、事も、できる」

久遠の永眠術師　ルシファー：ATK　2800↓3300

「お、れも、賭ける、かな……、次のドロー、につ！」
「淳、もうちょっと頑張つて！　後ちよつとだよ！」

ああ、解つてるよ、菖蒲。

口の中に血の味が満ちているし、片方の目も血でよく見えない。
でも、まだ戦える！

神様。もしいるんだったら、俺にも、ディステイニードロー奇跡の1枚を！

菖蒲を泣かせない為にも、この誇り高き戦士の為にも、ここで無様な姿を晒す訳には、いかないんだ！

「俺の、ターン……！ ドロー！」

ピッ、とカードを確認する。

……、は。俺も引けたぜ、菖蒲？

「俺は、速攻魔法『収縮』を、発動！ これで『ルシファー』の、元々の攻撃力を、半分にする！」

「無効にさせて、もらおう……」

「まだ、だ……！ 俺は『サイクロン』を、『リビングデッドの呼び声』を対象、に、発、動……！」

「無効にする……、ぐっ！」

ルシファーがグラつく。頑張ってくれ。俺もお前も、身体がガタガタなのは、お互い様なんだ！

「これで、無効は、使い切った……！」

「うむ、さあ、止めを刺せい……！」
「おうっ！ ^{レシエント}『L・ソードマン』を召喚……！ 攻撃表示……っ！
『ハアッ！』」

L・ソードマン：ATK 1900

剣を手に持った二刀流の鎧姿の男が現れる。 ^{フルプレート・アーマー}全身装甲では無く『ジャックス・ナイト』の様な軽装の方が近いだろう。

「そして、これが対『オレイカルコス^{の結界}』用の、メタカードの内^{の1つ}……っ！ 畏カード、オープン……！ 『あまのじゃくの呪い』……？」

これはエンドフェイズまで数値のアップとダウンを逆にするカードだ。【装備ビート】のデッキなんかに天敵とも言えるだろう。

「これで、攻撃力は、下がる……！ ぐ、う……！」

久遠の永眠術師 ルシファー：ATK 3300 ↓ 2300

くっ、もうちよつと頑張ってくれ、俺の身体！

「装備魔法『^{ブラック・ペンダント}黒いペンダント』を、『永眠術師ルシファー』に、装備して、攻、撃……！ 『あまのじゃくの呪い』、の効果、で、攻撃力が、逆に下がるっ！」
『てええええい、やあっ！』

久遠の永眠術師 ルシファー：ATK 2300↓1800

「ぐおおおおおおっ！」

ルシファー：LP 700↓600

「そして、『黒いペンダント』が、墓地に、送られた事で、500ダメージ、だっ！」

ルシファー：LP 600↓100

「こちら也使わせて、もらうつ！ 『久遠の永眠術師 ルシファー』を、破壊した、プレイヤー、は、2000ポイント、の、ダメージ、を受ける……！」

ルシファーは幽霊の様に半透明となって三度現れ、こちらに向けてエネルギー波を放って来た。

くっ、さっきは効果を無効にされていたせいで発動しなかったのか……！」

だが、『ソードマン』が通常モンスターだなんて、誰が言った！？

「なら、こっち、は『L・ソードマン』の効果を、発動……！ 相手モンスターを、戦闘、破壊、した時、その、攻撃力か、守備力のどちらかを、選択し、その、元々の、数値分、ライフを、回復、する……！ 俺が選ぶ、のは、も、ち、ろん、攻、撃力……！」

ソードマンが剣を高く掲げると、光を発し、その光は粒子となっ

て俺の身体に入り込んで来た。

体力は回復しないが、ライフは持ち堪えられるくらいにはなる！

L・ソードマン（効果モンスター）（オリジナル）

星4

地属性/戦士族

ATK 1900 / DEF 1300

このカードは攻撃力が同じモンスターとのバトルでは破壊されない。
このカードが相手モンスターを戦闘によって破壊した時、破壊した
相手モンスターの元々の攻撃力または守備力分、ライフを回復できる。

淳：LP 1000 ↓ 3800

光がライフを回復したのに一瞬遅れて攻撃の波が到着した。

「ぐっ、がああああああああああああああ……」

「……………っ！」

淳：LP 3800 ↓ 1800

強力な一撃で吹き飛ばされ、また壁に叩きつけられる。意識がモ
ロに一瞬ぶっ飛び、地面に叩き付けられたショックで覚醒した。闇
のデュエルではライフが回復しても傷や体力が癒えないという点が

強く出た。

う、あぐ……。身体中が、砕け散りそうだ……！

「淳！ 頑張れ！ 頑張つてえ！」

どこか遠くで菖蒲の声が聞こえた。

いや、俺の耳がイカれただけか。あの気の強い菖蒲が、こんな泣きそうな声、出す筈無いもんな……。

でも、頑張るよ、菖蒲。お前の応援は、ちゃんと届いたからな……！

「『デーモンの召喚』で、ダ、イ、レクト、アタック……！ “魔光雷”……？」

「ぬおおおおおおおっ！」

ズガーン！

轟音と共に放たれた雷がルシファーを直撃し

ルシファー：LP 100↓0

ライフを、削り切った。

「ぐお……。見事、だ……！ 希望の戦士よ……！」

暗黒の眠りを誘うルシファー：LOSE
淳&菖蒲：WIN

(BGM 終了)

SIDE：菖蒲

グオン、とデュエル終了と共に結界が収縮を始めた。それはルシファーさんを囲う牢獄のような形で収まる。

「ル、シファー……！」

血ダルマ、と表現できそうな淳が必死に手を伸ばす。決着がつくのと同時に彼は倒れてしまい、動けない。

……結界が消えない？

「気にするな……。こうなる、事は、分かり、きっていた……」

???
— こうなる事……？

『「オレイカルコスの結果」は負けた方の魂をカードの内側に封印するんだ』

「！まさか、ルシファーさん！」

結界の中のルシファーさんは姿が次第に薄くなっていった。

イヤだ。逝かないで！

イヤだよお！

でも……………、私には助ける事は、できない。

だから受け入れるしか、無い。いつか助ける事を胸に誓いながら。

「ブラーマ”の、兵士となった時から、こうなる運命じゃった…

…！ 我の思いを、受け継いで、くれるか…………？

“ブラーマ”を倒し、必ずや、精霊と人間の世界に、平和、を…

…！」

「ああ、約束、しよう…………っ！俺も菖蒲、も、その為に、全力で、戦う…………！」

「絶対助けるからっ！全部、全部！必ずっ、貴方も、精霊も、世界もっ？」

その言葉を聞いたルシファーさんは、頭巾を取った。中から出て来たのは、壮年の男性。優しい笑顔で、私達を見ていた。

「後は、頼むぞ…………、奇跡よ、いや、淳、そして菖蒲殿！」

その声は私達にしっかりと届き、ルシファーさんは光の中に消えた。

後には、あの人の頭巾と、一枚のカードが残っていた。

『オレイカルコスの結界』

ルシファーさんを内側に閉じ込めたそのカードは、場にポツンと残っていた。

私は淳に肩を貸し、頭巾と『結界』を回収して帰る事にした。時刻は夜中の0時半。明日は、というか今日は金曜日だから学校がある。

衣装だってもっと技巧や創意工夫を施さないと。いつそメイド服を元に大胆な改造を施してみるのも面白いかも知れない。

お弁当に冷凍食品を入れるのも良いかも。最近は自然解凍で食べられるようになるのもあるし。

それから……、それ、か、ら……。

「淳……………」

やっぱり、誤魔化せないよ……………。

「辛いよ……………。悲しいよ……………。なんでルシブアーさんが消えちゃうの…………？　なんでわだじだぢなの…………？　なんで淳が、こんなボロボロに…………、な…………、らなきゃいけないの…………？　ねえ…………？」
「辛い、よなあ…………。ゴ、メンな、あや、め…………。こんな、時、なんて言えば、いいのか、俺に、は、分から、ねえ…………。ゴメンな…………」

なんで…………？　なんで淳が謝るの？　私が理不尽な質問ぶつけてるだけなのに。

ぎゅっと抱き締めてくれた淳は、とても温かった。

「うあ……………あ……………」

「泣い、て、いい。悲しい、と、きは、泣い、て、強く、なれ…………！　そう、教えて、くれたのは、お前、だ……………」

血を流し、ボロボロで、それでも傷を負ってない私に優しく淳は微笑んでくれた。

なんでそんなに優しく笑うの？　もう、耐えられないじゃん…………！
涙の堤防が、壊れた。

「う、わああああああああああああああん！　うわああああん、ああああああああああああああああっ！」

真夜中の公園に、私の泣き声が響き渡った。
抱き締めてくれていた淳は、ただただ、それを聞いているだけだった。

t
o

b
e

c
o
n
t
i
n
u
e
d

7話：遺志を受け継ぐ意思（後書き）

淳「今回の最強カードは『攻撃の無力化』！」

菖蒲「スペルスピード3だからカウンター罠でしか対処できないから強力だよ」

淳「対象を取る効果だという事に注意してくれ。さあ、相手の攻撃を止めて反撃の狼煙を上げよう！」

菖蒲「ルシファーさんとのデュエルを終えた私達。でも淳は重傷を負ってしまっ」

淳「病院で立つ新たな伏線。そして……。次回、遊戯王 伝説の刃
『8話：「お前ら何しに来た」「見舞い」！ ああ、病み上がり
なんだけど、俺」

菖蒲「えと、次回もお楽しみにっ！」

戎鷲先生、色々ありがとうございます。

8話：「お前ら何しに来た」『見舞い』（前書き）

今回はちよつと短め。デュエルも無いに等しいです。

淳「病院だからね。騒ぐ訳にもいかないだろ」

新キャラも登場。では、スタート！

8話：「お前ら何しに来た」『見舞い』

S I D E：菖蒲

ルシファーさんとの戦いから一夜明けた日の学校。放課後になつて私達は再び文化祭の準備に精を出していた。
ウェイトレスにしようかと思つたけど、折角なので少しメイド服を参照にしてみる事にした。

「あやポーン？ できたあ？」

衣装の案を頭を捻つて考えていると、視界の端っから友達がつて来た。相変わらず独特のセンスのあだ名を使う。

ポニテの私と違って彼女の髪の毛はショートカット。色も黒じゃなくて明るい茶色。眼鏡をかけていて、見た目は小柄な文化系。しかし実際はバリバリのアウトドア派。

「もう少しかな、友里^{ゆうり}」

井岡^{いおか} 友里^{ゆうり}。私の中学以来の親友だ。

「友里は何にするの？」
「全裸^{マッパ}「ハアッ！」げふあっ!？」

力一杯ぶん殴った。細腕に見えても喧嘩の腕前はそこらのチンピラよりは上です。

表情だけ笑って悪友に言う。

「ギャグになってないからね？」

ディアフレンド

「うっ、ツツコミがハードだよ親友……」

さらりと無視して彼女が手にした紙を見る。どうやらミニスカ和服みたい。

和服はツルペタ寸胴が似合うつて聞いた事あるけど、成程、スレNDER体型な彼女には和装はよく似合うかも。足も細いし。

「あやポン、何か褒めたように見せかけてアタシの事貶さなかった？」

「ん？ うっん」

相変わらず勘が鋭いね。

「そうだ、それはそうと。淳くんが休みなんて珍しいね」
「そう？」

「うんうん。殺しても死なないつてのが共通認識だよ？」

「……、死ぬからね？ 殺したら」

「いや、言葉のアヤなんだけど」

まあ確かに。淳は健康体そのものだから病気を患う事は無い。行動が真面目だからヘタな怪我を負う事も無いし、喧嘩も私より強いから滅多な事じゃ負傷しない。

そう考えればまあ、彼が休むのが珍しいというのも頷ける。

「にひひ、心配？」

「半分は私の所為だしね」

言ってからしまった、と思って口を押さえたが、もう遅い。
友里は悪そうな笑みを浮かべていた。

「くひひひひっ！ それは、どういう事かなあ？」

「な、何でも無いよっ」

「うふふ、アレですか？ 腎虚「決り込むように打つべしっ！」
おごぶっ！」

都合の悪い状況になったら殴って止める。いやー、ケン力が強い
って便利だね。

腎虚の意味、調べたいなら自分でね！ 人に聞くと赤っ恥掻くか
らねっ！

「女の子の、お腹は、殴っちゃ、ダメよ、アヤぽん……」

「アンタが悪い」

まあ少しやり過ぎた感はあるけど、友里は某G並に生命力が強い
ので大丈夫だと思う。

「G！？ ヒドッ！？」

虫、じゃなかった。無視無視。

SIDE：淳

グッ、と腕を頭上に伸ばす。ギシッ、と肋骨が軋んで痛みが走ったが、もう慣れたので気にしない。

昨晚、泣き疲れて眠った菖蒲を部屋に連れていく為に彼女を背負って階段を上がった。夜にはエレベーターが止まってしまふ為だ。

8階まで背負って昇り、家の扉を開けると共に俺は倒れた。その衝撃で菖蒲は目を覚ましたらしく、記憶が途切れる寸前アイツの悲痛そうな声が聞こえたのをハッキリと覚えている。

『お父さん、お母さん！ 淳を、淳を助けてえ！』

涙ぐんだあの声を忘れられない。はは、泣かせたくないなんて言っておきながら teme で泣かせちゃうとはな。ザマねえぜ。

んで真夜中に病院に運ばれて今はこの真っ白なベッドの上で安静と来た。完全な道化だっつーの。

ま、上半身が起こせるだけでも幸運、かな？

「ふう……『^レ』か……」

封筒の中に眠るカード達。未だ殆どが表も裏も白いまま。でもこのカードの内の1枚が、昨日俺を助けてくれた。このカード達は一体、何故俺達を頼り、何を思って俺達と共に戦ってくれるのだろう。

「ふう」

「溜め息を吐くと幸せが逃げるわよお？ 悩み事お？」

間延びした喋り方で俺に話しかけて来たのは同室の早乙女^{やまめ}さん。
大学生で、足を骨折した為に入院しているらしい。

「別に……、ちょっと考える事がありましたね」

「そーゆーのを悩み事って言うんじゃない？」

まあそうかもだけど、人に話したってどうにかなるモンじゃない。
し。俺と菖蒲の問題だから、余りバラしたくない。

「ん、もう。お姉さんスネちゃうぞお」

「ワケ分からん脅迫は止めて下さい」

頭のネジが緩いというのか、この人は天然系の人だ。
ちなみにデュエルは強かった。

と、ガラガラ、と古いスライド式の扉を開けて誰かが入って来た。
古い市立の病院なので、扉が軋んでいる。

「こんにちは。淳、起きてるかな——？ ……、起きてるね」

「邪魔するぞ」

「やつほーい！ 淳くんコンチャー！」

「元気かい？ それと静かにしろい、井岡」

そうか、もう放課後か。菖蒲、陽弘、友里、孝輔の順に賑やかしく病室に入って来た。4人部屋なのだが、この部屋には俺と早乙女さん以外いない。そういう意味では早乙女さんと早く打ち解けられたのは僥倖だ。険悪な雰囲気での入院生活はお断りだよ。

と、思ったのだが。

「！？ 茜姉ちゃん！？」
「孝ちゃん！？」

ぎよつ、と孝輔が目を開く。茜とは早乙女さんの下の名前だ。

「……、孝輔、知り合いか？」
「……………」

陽弘の問いかけにも答えない。
俺よりもずっと付き合いが長いハズなんだが……、それでも答えないって事はよっぽどプライバシーに関わる事なんだろうか？

「……、傷を舐め合う、関係だい」

たった一言、孝輔が重く呟く。早乙女さんは何も言わずに立て掛けてあった松葉杖について扉に手を掛ける。

「ここにいたら邪魔みたい。それじゃあねえ……………」

やはり、彼女も重々しい雰囲気醸し出しながら、病室を去って行った。

「『デビルドーザー』でダイレクトアタック！ “キャピテル・インパクト”？」
「ぐあああつ！」

陽弘：LP 1700↓0

デビルドーザー（効果モンスター）

星8

地属性/昆虫族

ATK 2800/DEF 2600

このカードは通常召喚できない。

自分の墓地の昆虫族モンスター2体をゲームから除外した場合のみ特殊召喚する事ができる。

このカードが相手ライフに戦闘ダメージを与えた時、相手のデッキの上からカードを1枚墓地へ送る。

「『L・ソードマン』で『ロードポイズン』を攻撃！ “ヒール・スラッシュ”？」
「きゃあああっ！」

菖蒲：LP 400↓0

ロードポイズン（効果モンスター）

星4

水属性/植物族

ATK 1500/DEF 1000

このカードが戦闘によって破壊され墓地に送られた時、自分の墓地に存在する「ロードポイズン」以外の植物族モンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚する。

「『破滅の女神ルイン』で『サファイアドラゴン』と『ランサー・ドラゴニート』を攻撃！ “浸食の吹雪”、“灼熱の崩壊”？」
「のあああっ！」

孝輔：LP 1000↓0

サファイアドラゴン（通常モンスター）

星4

風属性/ドラゴン族

ATK 1900 / DEF 1600

全身がサファイアに覆われた、非常に美しい姿をしたドラゴン。争いは好まないが、とても高い攻撃力を備えている。

ランサー・ドラゴニート（効果モンスター）

星4

闇属性/ドラゴン族

ATK 1500 / DEF 1800

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

「『マジカル・コンダクター』で『酒吞童子』を攻撃！」
「みぎゃあああっ！」

酒吞童子（効果モンスター）

星4

地属性／アンデット族

ATK 1500 / DEF 800

1ターンに1度、次の効果から1つを選択して発動する事ができる。

- 自分の墓地に存在するアンデット族モンスター2体をゲームから除外する事で、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

- ゲームから除外されている自分のアンデット族モンスター1体をデッキの一番上に戻す。

友里：LP 100↓0

陰鬱な気分を晴らす為に、皆対俺のデュエルを始めたんだが……。

【戦績】

雷条 淳：4勝

美種 菖蒲：1敗

菊池 孝輔：1敗

田中 陽弘：1敗

井岡 友里：1敗

全戦全勝。ちょっと悪い気がする……。

「腕を、上げすぎだろう……」

「ここまで敵わないとはいへい……」

「参りました……」

「しゅ、修行の成果が……」

上から順に陽弘、孝輔、友里、菖蒲。

むう、真面目にやり過ぎた。ディスプレイードローまで来ちまったからなあ。

どよ〜ん、とした雰囲気は辺りに蔓延して、

「ククク、カ〜ハツハツハ！ オレ達もまだまだつつー事かい！」
「違うない」

いなかったか。

菖蒲も友里もクスクス笑っている。ほつ。

「ところで淳。いつ頃退院？」

「土曜の夜には、だそうだ」

出血が多すぎたのが逆にラッキーだったらしい。多量出血で血圧が下がり、失血死ラインを超えず、一命を取り留めたとか。

内臓も破裂してなく、内側が傷ついたのが吐血の原因。若く身体も頑丈な方だったので、その治癒力がモノを言ったようだ。

ついでに言うとお骨も1、2本の肋骨にヒビが入っただけで済んだらしい。

「そう、良かった……」

「心配かけたな」

「うっん、淳が無事なら何より。半分私の所為だしね」

半分？ 違うぜ、菖蒲。

ワシャワシャと頭を撫でてやる。

「お前の所為でもルシファアの所為でも無い。悪いのは連中の首領だ」

「淳……………」

「だから気に病むな。お前は悪くない」

「…………、ありがとう、淳」

キユ、と菖蒲は頭に乗っていた俺の手を自分の胸の前に持っていて、両手で握った。

菖蒲の手の平の温かさが、心地好い。

「もしもし、ラブラブしたいんなら誰もいない時にしてくんない？」

「うむ」

「正論だない……………」

『あ！？』

こいつらの事、忘れてた！

「『首領』とか『ルシファア』」とか気になる単語が出て来たけど、それはさて置き」

コホン、と友里が間を置く。

「キミ達はいつから付き合ってたの!？」

「付き合ってた無え!」「付き合ってた無い!」

「息ピッタリじゃねえかよい」

「幼馴染だからだ!」「幼馴染だからね!」

「それで片付くのか？」

「つーか、世の中の全ての幼馴染が付き合っている訳じゃ無いんだけど？」

「「ぐう……………」!」

だ、だって仕方無いじゃんか! 付き合いが長いから菖蒲が何考えているのか大体分かつちまうんだよ!

「吐けえ! いつ頃から付き合ってたんだ、このケダモノ! 娼婦!」

「ぐえ!」「うげ!」

友里が腕を俺と菖蒲の首に回して絞める。く、苦しい……!

つーかケダモノは兎に角、娼婦は無エだろ!?

「オレ達に秘密にしくなくても良かったんじゃない? この薄情者!」

「おぐつ!」

ドスン! と結構痛い孝輔の拳が俺の腹に刺さる。

止めてくれえ! 内臓と肋骨のダメージは完治して無いんだよ!

「友では、無かったのか！」

ゴギツ、と声を荒げる事の少ない陽弘が腕を締める。
痛い！ 何、何なのさ！？ 俺が何をした！？

あの、ちょ、マジで苦しいんだけど！？ 痛いし！
え、が、ぐ……………。

……………。

……………。

……………。

「ご、ごめんね、淳。私がしっかり止めておけば良かった」

「何でもかんでも自分の所為にするのは止めな。本当に悪くないから、お前は」

深々と謝罪する菖蒲の頭を撫でてやる。

今気付いたんだが、コイツの髪の毛って触り心地が好いな。クセになりそうだ。

「で、どうしてくれんのかな？ 入院が日曜の夕方まで延びたんだけど？」

菖蒲以外の3人、孝輔、陽弘、友里を睨む。3人は居心地悪そうに視線を逸らしている。

「悪いとは…、思ってるぜい」

「ムウ、済まん」

「チョーシ乗ってました」

頭下げなくてもいいから謝罪する時は目を見て言えよ。

「んで、結局お前ら何しに来た」

俺の問いに3人が視線を合わせて、そしてこちらを向いて答えた。

『見舞い』

嘘吐け。

t o b e c o n t i n u e d

8話：「お前ら何しに来た」『見舞い』（後書き）

淳「病院から退院した俺は、週末の文化祭に向けての準備を着々と進めていた」

菖蒲「戻って来た筈の一時の安息。でも……」

孝輔「そこに新たな敵が！」

友里「次回、遊戯王 伝説の刃『9話：次なる敵』！ 次回のキーカードは『スキルドレイン』だよ！」

陽弘「バラすな」

淳「今回の最強カードは『デビルドザー』！」

菖蒲「昆虫族2体を除外しないといけないけど、『高等儀式術』なんかを使うと意外と早くオチるよ！」

孝輔「デッキ破壊も使えるぜい！『月の書』『ミスティック・ソードマンLv6』とのコンボも意外と強力！」

陽弘「それは、素直に破壊した方が良いのではないか？」

友里「また次回！」

陽弘「いや、だから……」

9 話：次なる敵（前書き）

孝輔「公園で平和にダべっていたハズのオレ達！」

友里「でもそこに新しい敵が！」

それでは、スタート！　今回は若干長めです。

9 話：次なる敵

SIDE：無し

「ほう、ルシファーが……」

どこかの会議室のような所で、半ば禿頭の男が重々しげに言った。部屋は蝋燭が灯っているような如何にも悪の軍団、といった感じでは無く、LED使用という地球に優しい設計の部屋だ。窓の外にはビルの群れが見える所を見ると、都心なのかも知れない。

「ええ。仮にも奴は相当の実力者、しかしそれが返り討ちに会ったのです」

片膝をつきながら報告をしているのはデュエルモンスターの精霊、『秒殺の暗殺者』だ。眼帯で隠れていない右目が椅子に座り手を組んでいる半禿頭の男、そしてその左右に位置する数人の人物を捉えている。

秒殺の暗殺者（効果モンスター）

星 4

闇属性 / 悪魔族

ATK 2000 / DEF 2000

このカードの攻撃力・守備力は、自分の手札の枚数×400ポイントダウンする。

「奴が向かったのはどこだ？」

「確か……、綿倉市にございます、首領」

むう、と禿頭の男——首領——が顎を押さえる。そしてすぐにニヤ、と笑った。

「下がれ。ついでに『バーサーク・デッド・ドラゴン』を呼べ」

「はっ」

『無用だぜ？』

『暗殺者』が立ち上がって部屋を去ろうとした時、どこからか声が聞こえた。

「『バーサーク・デッド・ドラゴン』か？」

『おう』

全員がキョロキョロと周囲を見回す中、首領だけがただ一点を見ていた。

「そこにいるのは分かっている。早く出て来い」

『ギャハハハッ！なるほど小細工は通じ無え力！』

ブウン、と虚空から黒い龍が現れる。ギョロリ、と赤い瞳を首領

達に向けるが、そこにいた5人は眉一つ動かさない。

バーサーク・デッド・ドラゴン（効果モンスター）

星8

闇属性/アンデット族

ATK 3500/DEF 0

このカードは「デーモンとの駆け引き」の効果でのみ特殊召喚が可能。

相手フィールド上の全てのモンスターに1回ずつ攻撃が可能。

自分のターンのエンドフェイズ毎にこのカードの攻撃力は500ポイントダウンする。

「いつからいたかは聞かん。『バーサーク・デッド・ドラゴン』よ、貴様の配下の者の中で腕の立つ者を何人が動かせるか？」

『ゲヒヤハハハハ！ 何だよ、オデが言っても良いんだぜ？』

ゲラゲラと高笑いするその音量は室内にビリビリと響く。首領達は思わず耳を塞いだ。

「……馬鹿を言うな。貴様は数少ない戦闘狂、裏切る事無き逸材。目的達成の瞬間まで失うにしている惜しいのだ」

『ホウ、高く買ってくれるじゃねえノ。良いぜ、腕の立つ奴を送るんだナ？ どこに送れば良い？』

「県内の綿倉市の綿倉高校、という場所で近い内に大きな行事があ

る。そこで可能な限り猛者の魂を狩れ」

『ギハハハハッ！ 了解！』

了承の意を示した『バーサーク・デッド・ドラゴン』は、現れた時と同じ様に虚空へと溶けるように消えて行った。

「さて、どう出るかな、希望とされし哀れな者共よ」

片目に装着したモノクルがキラリと怪しげに光った。

SIDE：淳

—— 火曜日・放課後・2年2組の教室

「リリースにアドバンス召喚、と」

「用語が変わる節目って面倒だね？」

現在放課後で、文化祭の準備中。袴から何故か新撰組に衣装が変えられたが、意外と気に入ったので文句は無い。

隣の菖蒲は既に手製のメイド服もどきのウェイトレスのコスの微調整に入っている。というか、その2つの境界線が俺には判らない。

「でも淳、大変じゃ無い？ 淳の出番が多くなりそうで」

「全くだよ。藤木の奴、俺達に恨みでも……………、ありそうだなあ

……………」

俺達のクラスの文化祭の出し物、以前はただの『コスプレ喫茶』だった。が、今日の放課後のホームルーム、藤木が何を考えたのか、

『折角淳がいるんだから、デュエルも取り込んでみようぜ！』

などとほざき、『コスプレ・デュエル喫茶』となったのだ。

ちなみに何故こうなったのかは、僅か20秒後に案が決定された時に本人が追加で出した提案で明らかになった。

『そしてデュエルをするのは女子だけ！ ダメージを受けていく度に服が少しずつ破れていつて『死ねえ！』『砕け散れえ！』おぎゃばっ！』

もちろん殴られ蹴られた。

「藤木ってエロキャラだったんだな（つーか俺関係ねえし）」

「私も初めて知った（淳は男子だもんね）」

服が破れる案はボツにされたが、デュエルを取り入れる事は決定。急遽配置を変更し、デュエル専用の台が作られた。

生徒数があまり多くないこの田舎の高校、以前は生徒が多くいた大きな進学校だったらしいが、郊外に出来た大きな進学校に生徒を取られ、あれよあれよと生徒数は半分以下に落ち込んだ（それでも

500人ぐらいの生徒数はある)。

廃校になる程では無いが、教室に空きが在りまくりでしかも広いモンだから大きな出し物もできる。

「机、1つ減っちゃったね」

「椅子を1つずつ他の机に回したが……、狭いという感じは否めないな」

『ヂグジヨオ……。このリア充どもがあ……。』

遠くで藤木のボヤキが聞こえたきがしたが、無視しておこう。株が急速に下がっているし、元々アイツの事を気にするつもりは無い。

ああ、そうそう。俺達のコスは今、こんな感じに纏まった。

俺(雷条 淳)：新撰組

美種

菖蒲

美種 菖蒲：メイド服風ウェイトレス

菊池

孝輔

菊池 孝輔：イギリス近衛兵の服

田中

陽弘

田中 陽弘：甚平と下駄

井岡

友里

井岡 友里：ミニス力和服

藤木：ライオンの着ぐるみ(演劇部からの借り物)

『雷条くうくん、どうしておれのだけ1行分離れてるのお』……

…？』

はて、空耳かな？

SIDE：バーサーク・デッド・ドラゴン

ギヤハハハ！ まあ、こんだけ集まりや充分力！ オデは行かネエが、こいつらだったらオデ無しでも学校の1つや2つ、廃墟にできるだ口。

「で、『秒殺の暗殺者』、おメエまず先に行ケ。行って偵察して来イ」
「はっ！」

ビュン、と一瞬で消えル。甘いナ。オデなら音1つ出さずに消えられるつてのにヨオ。

「さあて、ルシファーを倒したんだ。あいつに勝てなかったこいつらに負けたら、勝ったのはただの偶然つて事だナア」
ルシファー

見せてみるよ、その実力ヲ。

オデが相手するに相応しいのなら、オデが直々に出向いてやるからヨオ。

SIDE：淳

今俺達は学校の近くの公園にいる。メンバーは俺、菖蒲、孝輔、陽弘、友里の5人。

何をしているのかって？ 別に。ただダベってるだけ。

「つまりだない、おれの新しいエースモンスターは苦しい戦況をも引つ繰り返せる可能性を秘めた、凄エモンスターだって事だい！」

「ほう。是非、実戦で試してみたいものだな。オレのデッキも強化がそろそろ必要だしな、修行には丁度良い」

「にひひ、饒舌だね、アキくん」

「む、そうか？」

因みに菖蒲は今いない。公園のトイレに行っているからだ（デリカシー無い？ それは失礼しました）。

「ふふっ」

「んー？ 淳くん、どしたの突然笑って。誰かのパンチラでも見えた？ わーヤラシー。あ、アタシは一回二千元で見せてあげるよ？」
「全然違うから」

それと金取んのかい。しかも高っ！

「こうして皆と何気無い平和な生活をしているのが、何よりの幸せなんだなって、思ったただだよ」

「おーおー、達観してますなあ！ アレ、ひよっとして異世界にでも行って来た？ そんでそこで戦争を止めた英雄として祭り上げられたとか！？ わー、英雄が友達だったんだ！ アタシすっげえー

「！」

「落ち着け」

相変わらず変な方向に勝手に暴走するやつだな。

「ま、平和が1番という事は、アタシも分かる」
「へえ」

ルシファーとの約束がある以上、死ぬまでこの安寧に身を委ねる訳にはいかないが、それでも束の間の休息ぐらいは良いよな？

「だって、平和じゃなくなったらマンガ読めないしアニメも見られないじゃん！」

「……………」

……………こいつに期待した俺がバカだったのか？ いやまあ確かにそうなるけどよお。

「……………」
「はあ」
「溜め息吐かれた!？」

突然、辺りに黒いモヤが発生した。

「!? 何これ!? 光化学スモッグ!?」

「! 孝輔、陽弘! そこにいるか!?」

この感覚、この前スーパーで感じたのと同じ……。
こいつは、まさか……!?

「お、おう!」

「ここに、いる」

モヤで半分姿が隠れているが、二人もそこにいた。となると、後は席を外している菖蒲か……。

くっ、どっちだ!? どうか標的が俺であってくれ!

「雷条 淳だな?」

「! 誰だ!」

良し! 標的は俺だ!

「オレの真名は『秒殺の暗殺者』。貴様を、狩りに来た」

「ほお、面白え。やれるモンならやってみろ!」

ガシャン! とディスクを展開する。デュエルに持ち込めばコイツは俺の相手をする以外でなくなる。菖蒲の安全も図れる!

「じゅ、淳くん?」

「お前ら、少し離れてろ。それと菖蒲の安全を確認してくれ!」

「え、わ、分かった」

タタタツ、と菖蒲の元へ友里が走る。

「淳、これは一体何事なのだ!？」

「ソイツの事やこのモヤの事、説明しろい!」

「説明は後だ! お前らも菖蒲の元に!」

チツ、と孝輔が舌打ちを打つ。

「後でしっかり説明してもらうからない!」

陽弘のムスツ、とした顔が一層険しくなる。

「……、約束だからな」

二人も友里に続いて菖蒲が使っていた公衆トイレの方へ走る。

さて、人払いもできた。

「ふっふっふ、優しいな。友を逃がしたか」

「……、なんじゃ無えよ。ただ、あいつ等の性格考えたら一緒に戦うって言い出しそうだったからな。

だが、デュエルが始まれば介入はできない。つまり少なくともここにいないあいつ等は安全だって事になる。

さあ、俺とお前の一対一^{サン}の戦いだ、構えな」

「良かろう! 貴様の魂、頂くぞ!」

「返り討ちだ!」

『デュエル!』

秒殺の暗殺者：LP 4000

「先攻はオレが貰う！ ドロー！
カードを1枚伏せ、『メルキド四面獣^{しめんじゅう}』を
守備表示で召喚！
インエンド！」

メルキド四面獣：DEF 1200

メルキド四面獣（通常モンスター）

星4

闇属性/悪魔族

ATK 1500 / DEF 1200

4つの仮面を切り替えながら、4種類の攻撃をしてくる化け物。

秒殺の暗殺者：LP 4000

手札：4枚

フィールド

：メルキド四面獣（DEF 1200）

：伏せカード1枚

「俺のターン！」

メルキド四面獣？ あいつは効果を持たないバニラモンスターだった筈だ。となると、伏せカードに何かあるのか？

だが、今の俺の手札には除去系のカードは無い。なら、パワーで押し切るまで。

「……1つ聞きたい」

「何だ？」

「アンタは何故戦う？ ルシファーみたく脅されていたのか？」

そう言つと『暗殺者』はハッ、と鼻で笑った。

「バア力言つてんじゃ無えぞ、ボケが。オレは殺しが専門職だぜ？ 面倒クセエ入念な下調べがいらねえデュエルで人が殺せるなんざ最高じゃねえか！」

なるほど……、コイツはルシファーの言っていた『殆ど』の範疇から外れているヤツか。

「第一あんな腰抜けジジイと一緒にすんじゃねえよ、反吐が出らあ！」

「んだとお……！ テメエ、あの人の強さも何も分かつて無えクセに、随分と見下してんじゃねえか！」

「ハッ！ 腰抜けは腰抜けだろ！ あんなヤツあざコだよ、ザコ！」

その一言で、俺はこいつに情けを掛けるのを止めた。さあ、俺のデッキ【レジェンダチュアボードL・R・B】よ、頼むぞ！ あのクス野郎をぶっ潰してくれ！

「手札から魔法カード『古のルール』^{いにしえ}を発動！ このカードは手札のレベル5以上の通常モンスター1体を特殊召喚できる。俺は『鋼^{メダ}鉄装甲虫』^{ルアーマードバグ}を選択！」
『ギジョオオオオオッ！』

鋼鉄装甲虫：ATK 2800

文字通り、全身を鋼鉄の装甲で覆った甲虫が現れる。カナブンが巨大化して鎧を装着したら、こんな感じだろうか？

古のルール

【通常魔法】

自分の手札からレベル5以上の通常モンスター1体を特殊召喚する。

鋼鉄装甲虫（通常モンスター）

星8

地属性/昆虫族

ATK 2800 / DEF 1500

全身が分厚い装甲で覆われている巨大な昆虫型生物。
行く手を妨げるものは容赦なく破壊する。

「そして『L・ソードマン』を通常召喚！」
『てえい、やあ！』

L・ソードマン：ATK 1900

お次は2本のサーベルを持った鎧騎士。前はコイツにお世話になったな。

「行くぞ、バトルだ！ 『L・ソードマン』で『メルキド四面獣』を攻撃！ “ヒール・スラッシュ”？」
「ぬうっ！」

『L・ソードマン』が双剣を手に走り、『メルキド四面獣』をX字型に斬り裂く。

そして、その剣から光が流れ始め、俺の体に纏わりつく。

「更に『L・ソードマン』のモンスター効果発動。戦闘で相手モンスターを破壊した時、その元々の攻撃力が守備力の数値分ライフを回復できる。俺は攻撃力を選択！」

「おお、面白い効果だな」

淳：LP 4000 ↓ 5500

「そして『鋼鉄装甲虫』でダイレクトアタック！」
「の、ぐあああああつ！」

秒殺の暗殺者：LP 4000 ↓ 1200

「大した事無エな『暗殺者』。ライフが後3分の1切ったぜ？」
「フン、ならば次のターンに挽回すれば良いだけだ！」
「やってみな！ ターンエンド！」

淳：LP 5500

手札：4枚

フィールド

：鋼鉄装甲虫（ATK 2800）、L・ソードマン（ATK 1900）

：魔法・畏無し

「オレのターン！ ククク……、フィールド魔法『オレイカルコスの結界』を発動！」

「もう来たのか……………！」

あの気味の悪い光を発する六芒星がフィールドの端のリングと共に現れ、文字通り結界を生み出す。同時に『秒殺の暗殺者』の額に

も同じ魔法陣が描かれる。

「ようやく、本領発揮か」

「そしてオレ自身を召喚！」

空間に穴が開き、眼帯をした半裸の男がアサルトナイフを構えて飛び出す。

秒殺の暗殺者：ATK 2000 ↓ 2500

「だが、『秒殺の暗殺者』はお前の手札の数だけ弱体化するぞ！」

「心配無用！ 永続罠『スキルドレイン』を発動！」

スキルドレイン

【永続罠】

1000ライフポイントを払って発動する。

このカードがフィールド上に存在する限り、フィールド上に表側表示で存在する効果モンスターの効果は無効化される。

う、やるな！ デメリット効果を打ち消した！

「淳！」

いきなり名前を呼ばれる。そちらを向けば、結界の外に菖蒲達がいた。菖蒲は結界をガンガン叩いている。

「こらー！ 何一人で勝手に命懸けてるのおっ！ アンタが死んだら私も死ぬってこの間言っただでしょーがあ！ 私を殺す気かあああっ！」

……結界越しだっつーのに、良く通る声だこっとな。
心配すんな、と手を振ってやる。

「負けやしないよ。コイツから感じる覇気はルシファーを遥かに下回る。」

それに、お前を殺す様な真似を俺がすると思うか？ お前は俺の家族だぜ？ 殺させやしねえし、俺も死ぬつもりは無い」
「っ、だったら、きっかり勝ってよね！」

モチ。人差し指と中指を揃えて額に添え、軽く振る。その動作を見た菖蒲は不承不承といった感じだが、結界から一步下がってくれた。

「余興は終わったか？ オレ自身で『L・ソードマン』を攻撃！」
「くっ！」

『暗殺者』は素早く『ソードマン』の背後に回り込み、手にしたナイフを一閃し、『ソードマン』を斬り倒した。

強い衝撃は伝わって来ない。モンスター破壊の超過ダメージだからプレイヤーに対するダメージが薄いのだろう。

淳：LP 5500 ↓ 4900

「カードを1枚セエツト！ ターン終了だ！」

秒殺の暗殺者：LP 200

手札：4枚

フィールド

：秒殺の暗殺者（ATK 2500）

：伏せカード1枚、スキルドレイン（永続罠）、オレイカルコスの結果（フィールド魔法）

「俺のターン、ドロー！」

……、俺の予想が正しければ、奴のデッキのコンセプトは「スキルドレバルバ」の様な『スキルドレイン』を利用してデメリットを打ち消したりするタイプの筈だ。

今、俺の手札に反撃を担える奴はいない。『鋼鉄装甲虫』の攻撃力は2800、『秒殺の暗殺者』に攻撃すれば奴を倒せる。だが、それを奴が理解していないとは思えない。残りライフは『スキルド

レイン』のコストの影響で僅か200だからだ。超過ダメージの300ポイントを耐えきれぬ数値じゃない。

となると、鍵を握るのはあの伏せカード。手札に伏せ除去のカードが無い以上、ここは召喚権を使わずに叩くのが利口だな。

「バトル！ 『鋼鉄装甲虫』で『秒殺の暗殺者』を攻撃！」

「甘いわあつ！ 罠カード『炸裂装甲』^{リアクティブアーマー}！ 攻撃宣言をトリガーに

攻撃モンスターを破壊する！」

炸裂装甲

【通常罠】

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

その攻撃モンスター1体を破壊する。

つと、危ない。『ミラーフォース』の辺りかと思っただが、ハズレか。

ちなみに『炸裂装甲』の元ネタは戦車に取り付ける爆発反応装甲。外からの砲撃の威力を、装甲の内側からの爆発で相殺するものらしい。

突進を仕掛けた『鋼鉄装甲虫』は突如現れたシールドに弾き返され、爆発した。

「俺は『トライクラー』を守備表示で召喚！」

『ぎいつ!』

トライクラー（効果モンスター）

星3

地属性/機械族

ATK 300 / DEF 300

このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、自分の手札またはデッキから「ヴィークラー」1体を自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

ちよいと守りに入らせてもらうぜ？ 3連続の壁、少なくとも次のターンでの突破は無理のはずだ！

トライクラー：DEF 300

「カードを2枚伏せて、ターンエンド!」

渾：LP 5500

手札：2枚

フィールド

・トライクラー（DEF 300）

・伏せカード2枚

さあ、どう攻略する！

SIDE：菖蒲

まったく、淳の奴……。

「あやポン、この見えない壁は何なのサ？」

「フィールド魔法『オレイカルコスの結果』だよ。デュエルが終わるまで出る事も入る事もできない悪夢の檻」

「？ ソリッドヴィジョンじゃ無いの？」

……、私も、そうであつたら良かったと思つてるよ。

「嘘だと思つたら一生そう思つてなさい。でも、この間私達はこれと同じモノの中で文字通り命を懸けたデュエルをやった。

敗者は魂を封印される。ライフは文字通り命であり、ダメージは身を削る」

この言葉に、孝輔くんがピンと来たようだ。

「じゃあまさか、アイツが入院した理由はこの結界が原因なのかい！？」

「うん」

3人が息を呑むのが聞こえた。きっと私だって初めてこんなのに会ったら受け入れ難いだろうし、衝撃だろう。

「淳くん、頑張れえっ！」

「勝て！ 勝つのだ、淳！」

「負けたら承知しねえぞい！」

淳、私も応援するよ。頑張つて！

SIDE：淳

「オレのターンだ！ 手札から魔法カード『壺の中の魔術書』を発動！ 互いのプレイヤーはデッキから3枚ドロー！」

壺の中の魔術書（マンガオリジナル）

【通常魔法】

お互いのプレイヤーはデッキからカードを3枚ドローする。

皆の声援を受け、体の内側からファイトが湧いて来るのを感じる。
ドローソースか……。キーカードを引き当てられると、ツライものがあるな。

引いたカードは『インターセプト・デーモン』 『翻弄するエルフの剣士』ドクロがんだいバグ 『髑髏顔天道虫』だ。

『スキルドレイン』の影響下じゃなければ『インターセプト・デーモン』の効果を使って勝利できたんだがな。

『翻弄するエルフの剣士』も『スキルドレイン』の影響下じゃあ
ザコ同然に成り下がってしまう。

……………、ひょっとして俺のデッキって、『スキルドレイン』系
にすごく弱い？

インターセプト・デーモン（効果モンスター）

星4

闇属性/悪魔族

ATK 1400/DEF 1600

このカードが自分フィールド上に表側攻撃表示で存在する限り、相手モンスターの攻撃宣言時、相手ライフに500ポイントダメージを与える。

翻弄するエルフの剣士（効果モンスター）

星4

地属性/戦士族

ATK 1400 / DEF 1200

このカードは攻撃力1900以上のモンスターとの戦闘では破壊されない。

(ダメージ計算は適用する)

「『神獣王バルバロス』を妥協召喚！ この時攻撃力は1900に下がるが、『スキドレイン』の効果で元に戻る！」
『グオオオオオオオオオオオオオオオオッ！』

やはり【スキドレバルバ】か！

神獣王バルバロス(効果モンスター)

星8

地属性/獣戦士族

ATK 3000 / DEF 1200

このカードはリリースなしで通常召喚する事ができる。

この方法で通常召喚したこのカードの元々の攻撃力は1900になる。

また、このカードはモンスター3体をリリースして召喚する事ができる。

この方法で召喚に成功した時、相手フィールド上に存在するカードを全て破壊する。

神獣王バルバロス：ATK 3000 ↓ 1900 ↓ 3000 ↓ 3500

「そして手札の獣戦士族と機械族モンスターをゲームから除外し、
『^{ウル}神獣王バルバロスU r』を特殊召喚！」
『ゴガアアアアアアアアアアアアアッ！』

神獣王バルバロスU r（効果モンスター）
星8

地属性/獣戦士族

ATK 3800 / DEF 1200

このカードは、自分の手札・フィールド・墓地から獣戦士族モンスター1体と機械族モンスター1体をゲームから除外し、手札から特殊召喚する事ができる。

このカードが戦闘を行う場合、相手プレイヤーが受ける戦闘ダメージは0になる。

神獣王バルバロスU r：ATK 3800 ↓ 4300

「——っ、『スキルドレイン』に頼り過ぎだぜ、アンタ。そいつが潰れちまったらそのデッキは回らなくなる！」
「心配無用。キツチリ3枚積んであるからな！ バトル！ 『バルバロス』で『トライクラー』を攻撃！ “トルネード・シェイパー”？」

空気の渦を纏い、獅子の頭を持つ戦士は青い三輪車型の機械を貫いた。

悪いが、コイツはリクルーターでね！

「『トライクラー』のモンスター効果！ 出でよ、『ヴィークラー』」
「！」
『ぐびゅっ！』

ヴィークラー（効果モンスター）

星2

地属性/機械族

ATK 2000 / DEF 2000

このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、自分の手札またはデッキから「アンサイクラー」1体を自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

ヴィークラー：DEF 2000

「次は俺自身で攻撃だぁ！」

黄色い車型の機械が一閃されたナイフで破壊される。

まだまだ、コイツもリクルーターなんでね！

「まだまだぁ！ モンスター効果で『アンサイクラー』を特殊召喚
！」

『ヴィヤーッ！』

アンサイクラー（通常モンスター）

星1

地属性/機械族

ATK 100/DEF 100

トライクラー、ヴィークラーを兄に持つ三男坊のアンサイクラー。

アンサイクラー：DEF 100

「しぶといな！ 『バルバロスU_r』で攻撃！ “閃光烈破弾”^{クラッグ・ショット}？」
「壁は残させてもらう！ 罠カード^{トラップ}発動！ 『くず鉄のかかし』！
1度だけ相手モンスターの攻撃を無効化する！」

お決まりの金属製の力カシが出現。頭部のヘルメットとゴーグルがアクセント。グレー一色だがそれが逆に味がある。

グレーの力カシがバリアを生み出し、無数の光の弾丸を弾く。というか、これ凄くないか！？ 何やつても凹まないし、バリアも張れる。立派な文化遺産とかになりそうなんだが。

「発動後、このカードはフィールドに再セットされる」

うーん、一部の間で『くず鉄先生』とか呼ばれているだけあるね。自分のカードながら惚れ惚れする。

「ターンエンドだ！」

秒殺の暗殺者：LP 200

手札：3枚

フィールド

：秒殺の暗殺者（ATK 2500）、神獣王バルバロス（ATK 3500）、獣神機王バルバロスU（ATK 4300）

：伏せカード1枚、スキルドレイン（永続罫）、オレイカルコスの結果（フィールド魔法）

「俺のターン、ドロ！ 魔法カード『天使の施し』を発動！ プレイヤーはカードを3枚ドロし、手札2枚を墓地に送る！」

今回捨てるのは活躍が見込めない『翻弄するエルフの剣士』と、
もう1枚のモンスターカード。

淳：LP 5500↓6500

「ライフが増えただとお!？」
「今の効果で手札の『ドクロがん 骸體顔天道虫_{レイバグ}』を墓地に送った。その効果は、
いかなる場合でも墓地に送られればライフポイントを回復する、と
いうものだ」

骸體顔天道虫（効果モンスター）

星4

地属性/昆虫族

ATK 500/DEF 1500

このカードが墓地に送られた時、自分は1000ライフポイント回復する。

コイツの効果は実質、『治療の神 デイアン・ケト』内蔵型の回復カード。

壁、コスト、何でも良いという強制発動型の効果だ。効果を楽しむ事にならない様に注意する必要があるが、使い勝手は良い。

治療の神 デイアン・ケト

【通常魔法】

自分は1000ライフポイント回復する。

「更に『ネクロ・ガードナー』を守備表示で召喚！」
「むん！」

除外を条件に1度だけ戦闘を無効化してくれる優秀なモンスター。
場に出せば2回分の壁になってくれる。

ネクロ・ガードナー：DEF 1300

「リバースカードを1枚出し、ターンエンド！」

渾：LP 6500

手札：4枚

フィールド

：アンサイクラー（DEF 100）、ネクロ・ガードナー（DEF 1300）

：伏せカード3枚（内1枚は『くず鉄のかかし』）

「オレのターン！ ククク、貴様も終わりだな！」

「何だと……！ 俺の場のモンスター『アンサイクラ』、『くず鉄のかかし』に『ネクロ・ガードナー』の防御を突破するには、4回分の攻撃が必要だぞ。このターンの召喚に成功しても、お前の場のモンスターは4体。突破は出来ない」

「ソイツはどうか？ 手札から速効魔法『青銅騎士団』、発動！ 手札を任意の枚数だけ墓地に送り、その数だけ自分フィールド上に『青銅騎士トークン』を特殊召喚できる！」

青銅騎士団（アニメオリジナル）

【速攻魔法】

自分の手札を任意の枚数だけ捨てる。

捨てた手札1枚につき「青銅騎士トークン」（地属性/戦士族/星2/攻500/守500）を1体自分のフィールド上に特殊召喚する。

「オレは手札を2枚墓地に送り、魔法・罠ゾーンに2体、特殊召喚する！」

「チッ、『オレイカルコスの結果』の後衛効果か！」

オレイカルコスの面倒な点の1つは、前衛モンスターを倒さない
と後衛モンスターを倒せない事だ。

低攻撃力のトークンも、前衛を倒さないと、攻撃は届かない。

青銅騎士トークン：ATK 500 ↓ 1000

「き、汚えぞい！ 魔法・罾ゾーンにモンスターなんてい！」

「淳くんが不利すぎるよ！」

「うるさい！ 更に『邪神機 - 獄炎^{ダイクネスギア ごくえん}』を妥協召喚！」

邪神機 - 獄炎（効果モンスター）

星6

光属性 / アンデット族

ATK 2400 / DEF 1400

このカードはリリースなしで召喚する事ができる。

この方法で召喚したこのカードは、エンドフェイズ時にフィールド
上にこのカード以外の

アンデット族モンスターが存在しない場合、墓地へ送られる。

この効果によって墓地へ送られた時、自分はこのカードの攻撃力分
のダメージを受ける。

邪神機 - 獄炎：ATK 2400 ↓ 2900

「モンスターが、5体を超えただど!?」

「クハハハッ! 行くぞ! まずは『青銅騎士トークン』で『アンサイクラー』を攻撃イ!」

「……、その攻撃は通す!」

斬! 青くくすんだ剣が赤い一輪車型モンスターを破壊する。

「続いてオレ自身で『ネクロ・ガードナー』を攻撃!」
「ぐっ!」

アサルトナイフを一閃。黒い鎧武者が真っ二つにされる。

これでガラ空きか……!

「止めだあ! 『神獣王バルバロス』と『獣神機王バルバロスU』でダイレクトアタック!」

「『くず鉄のかかし』と『ネクロ・ガードナー』で受け止める!」

これを通す訳にはいかない。バルバロスの槍を通せば串刺しになるだろうし、Uの砲撃を通せば消し炭にされる。死ぬつもりは、無いんでね。

黒い鎧武者が『バルバロス』の渦巻くエネルギーを持つ槍を、金属製の力カシが無数の光の弾をバリアを張って防ぐ。

「ならば残った『獄炎』とトークンで攻撃イ!」

鎧の騎士の振り上げた剣は一直線に俺の肩口に吸い込まれ、赤黒い焰に包まれた堕天使のレーザー光線が俺の前の地面を抉りながら

俺を狙い撃つ。

「ぐ、オオオオオオオッ！」

淳：LP 6500↓2900

ピシャッ、と血が飛び散り、脇腹が軽く焼ける。幸い、咄嗟に後ろに下がった為に傷口は深くない。ガーゼを当てていれば塞がる程度だ。

「オレに手札は無い為、これ以上行動はできん。ターンエンドだ」

秒殺の暗殺者：LP 200

手札：0枚

フィールド

：秒殺の暗殺者（ATK 2500）、神獣王バルバロス（ATK 3500）、獣神機王バルバロスU（ATK 4300）、邪神機 - 獄炎（ATK 2900）

：伏せカード1枚、スキルドレイン（永続罨）、青銅騎士トークン（ATK 1000）、×2、オレイカルコスの結界（フィールド魔法）

「おいおいおいおい！ マジで血が飛び散ってやがるぜい！？」

慌てたような声を上げる孝輔。このどこか飄々としている男には珍しい事だ。

俺は不安を与えないように、努めて冷静に言う。

「……、菖蒲が言っていた筈だぞ。命を懸けた戦いだ、って」

「という事は、お前は死ぬのか？」

「ちょ、アキくん、そんなストレートに！」

焦ったように友里が叫ぶ。だが、隠していても仕方ない事だ。

或いは皆が戦いに参加した時、この事実を知らなければどうなるか、想像に難くない。

「このままダメージを受け続ければな」

「淳くん！」

「どの道、お前達が巻き込まれる可能性は考えていたんだ。知ってるらうにゃあ、良い機会だよ」

敵の数はきつと俺と菖蒲だけでは捌き切れない。多分皆に協力を要請すると思う。

その時に『こんなの聞いてない』なんて事になったら協力を取り付けられない。そうしたらきつと俺達は“ブラーマ”に負ける。

そしたらルシファーとの約束は果たせない上に、菖蒲を、皆を守る事はできない。

ここは、皆の友情が痛みの恐怖に打ち勝つ事を期待するしかない。

「俺のターン、ドロー！」

来た、『サイクロン』！

これこそ俺の望んでいたカード！

「このデュエル、俺が貰った！」

「んだとお！？」

「速攻魔法『サイクロン』を発動！ お前の場の『スキルドレイン』を破壊する！」

ゴウ、と雷を纏った旋風が巻き起こり、『スキルドレイン』目掛けて突き進む。行けるか！？

「させん！ 永続罠カード『宮廷のしきたり』、発動！」

『秒殺の暗殺者』が表側にした罠カードにはどこかの宮廷が描かれていた。カードが赤く発行すると、『スキルドレイン』を包み、『サイクロン』の風を防いだ。

「！」

「この永続罠『宮廷のしきたり』は、こいつが場に存在する限りこのカード以外の永続罠の破壊を封じる。当然、コイツもデッキに3枚入っている」

宮廷のしきたり

【永続罠】

フィールド上に表側表示で存在する「宮廷のしきたり」以外の永続罠カードを破壊する事はできない。

「宮廷のしきたり」は、自分フィールド上に1枚しか表側表示で存

在できない。

「淳！ もう1枚何か無い！？」

「無い。今の1枚だけだ」

「そ、そんな……」

ガツクリ、と膝を落とす菖蒲。俺のデッキの特性を知っている身としては、『スキルドレイン』がどれほどの威力を発揮するのか分かっているのだろう。

「ククク……。どうやらルシファーを倒したのはマグレか！ このオレの手で死ねえ！」

嘲笑の声を荒げる『暗殺者』。

はっ、バカ言ってるじゃねえよ！

「お前よお、誰が『サイクロン』がこの状況を打破するカードだなんて言った？」

「へ？」

「確かに『貰った』とは言ったが、『サイクロン』がキーカードと一言も言っていないぜ？ こいつは飽くまで保険だ。そのリバーズカードを探る為のな。」

もし『王宮のお触れ』みたいなヤツだったら、この前のターンに伏せていた逆転のカードを潰されていたからな！」

そう、2枚目の『スキルドレイン』なら平気だったが、チェーンしてこのカードを破壊されたら勝機が薄くなるところだった。

王宮のお触れ

【永続罨】

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、このカード以外のフィールド上の罨カードの効果が無効にする。

さあ、行くぜ！

「これが大逆転の一手だ！ 罨カード『トラップ・スタン』を発動
！」

「何だとお！？」

トラップ・スタン

【通常罨】

このターンこのカード以外のフィールド上の罨カードの効果は無効にする。

ビキビキビキビキ！ と音を立てて、フィールド上の全ての罨力

ードが石化し効力を失っていく。

「これで、このターンのみモンスター効果は有効だ」

「くっ、だが、『バルバロス』は『スキルドレイン』で1度効果を無効化された！ 攻撃力は下がらない！」

コイツはバカじゃないだろうか？ そんな事、表示される数値が変動しない事からバカでも分かるし、そもそもあの能力は『妥協召喚』時にしか効果が無い。今更それが有効になるとは思って無えよ、素人じゃ無いんだから。

「俺は手札から魔法カード『早すぎた埋葬』を発動。ライフポイント800をコストに、墓地の『鋼鉄装甲虫』をフィールド上に特殊召喚する！」

『グジョオオオオオオオオオッ！』

早すぎた埋葬

【装備魔法】

800ライフポイントを払い、自分の墓地に存在するモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターを表側攻撃表示で特殊召喚し、このカードを装備する。

このカードが破壊された時、装備モンスターを破壊する。

鋼鉄装甲虫：ATK 2800

「グッ……ッ！」

淳：LP 2900 ↓ 2100

「淳！」

「、大丈夫だ！」

体中から力が抜けて行く……！ 成程な、ライフコストは肉体的損傷じゃ無いから、疲労という形で負担をかけるってワケか……！

「そして、儀式魔法『エンド・オブ・ザ・ワールド』を、発動！

場の『鋼鉄装甲虫』をリリース！ 出でよ、『終焉の王デミス』！」

『ボウワアアアアアッ！』

終焉の王デミス（儀式・効果モンスター）

星8

闇属性/悪魔族

ATK 2400 / DEF 2000

「エンド・オブ・ザ・ワールド」により降臨。

フィールドか手札から、レベルの合計が8になるようカードを生け贄に捧げなければならない。

2000ライフポイントを払う事で、このカードを除くフィールド

上のカードを全て破壊する。

終焉の王デミス：ATK 2400

出現するのは白と灰色の鎧を着た、斧を持った大男。頭には角のようなものが生えている。

「そ、そのカードは！」

「ああ、ご察しの通りさ！ 『デミス』のモンスター効果を発動！ ライフを2000支払って、こいつ以外のフィールドのカードを一掃する！ “終焉の嘆き”？」

淳：LP 2100↓100

ぐつ、重てえ！ 流石に800の比じゃ無えな！

『デミス』が斧を掲げると、フィールドに黒い強風が巻き起こった。フィールドの全てを吹き飛ばす暗黒の波動は、自身と『オレイカルコスの結界』以外の全ての場のカードを黒い塵に変え、破壊した。

「ぜえ……………、ぜえ……………、ッ！ これで終わりだ！ 『終焉の王デミス』でダイレクトアタック！」

『デミス』が再び斧を構え、振り下ろすと黒い斬撃が衝撃波とな

って生まれ、『暗殺者』を直撃した。

「ぐああああああああああっ！」

秒殺の暗殺者：LP 200↓0

淳：WIN

秒殺の暗殺者：LOSE

悪いな、俺の勝ちだ！

「さて、事情を説明してもらいぜい？」

「ああ……」

『秒殺の暗殺者』の敗北後、結界がアイツの魂を封じたのを見届けて回収すると、俺は自宅で菖蒲から手当てを受けながら3人に事情を話す事にした。

菖蒲はいつ“ブラーマ”が襲って来ても良いように救急の医療セツトを持ち歩くようにしたらしい。いやはや、何もしていない俺とは大違いだ。

「数年前のドーマが黒幕の事件が事の発端らしい。先週末に、俺達のところに一人の刺客が来て……」

【事情説明中】

「成程、お前らが狙いかい。ったく、何て事してくれたんだよい」

「スマン。俺達が近くにいたら、お前達まで狙われちゃうよな」

「違う！」

「ああ。だからすぐにでもこの町を離れ……、え？」

？ 違うのか？

てつきり俺はこれが縁の切れ目かと思っていたんだが……。

「ドアホウ！ オレ達の友情はそんなモンかって聞いてるんだい！」

「その、通りだ。おれ達は友だろう。何故相談の一つもしなかったのだ！！？」

「二人の言う通りだよ、あやポン、淳くん」

井岡まで？

「あのね、アタシ達は友達じゃなかったの？ それとも友達だけど、命の危険があれば縁を切られる程度の浅い仲だった？ そんなのは友情じゃ無い。薄情だよ。」

アタシ達は違うよ。アタシ達はそのぐらいじゃキミ達を見捨てたりしない。本当の友情は例えば命に関わるぐらいの危険ぐらいじゃ切れたりしないモンだよ！」

本当の、友情……。

「お前らが戦うつっーんなら、オレ達も戦う！ 友達^{ダチ}だろがい！」

「違うない。それとも、おれ達では、戦力にならないと？」

「っーか、断つても勝手に戦っちゃうもんね！」

こいつら……。ったく、本当にバカだなあ……。

「淳」

ポン、と菖蒲が肩を叩く。

その目は語る。こちらの負けだ、と。

「分かった。それなら改めて正式にお願いする」

居住まいを直して3人に向き合う。

ス、と頭を下げて彼らに願う。断る事はきつと無いけれど、それでも礼儀を弁えるのは、これから一緒に戦う仲間として大切だから。

「3人共、どうか、俺達と一緒に戦ってくれ！」

そしてそれを彼らが断る筈も無く。

「おうよ！」

「無論だ！」

「勿論さ！」

しっかりと快諾してくれた。

こうして俺達の戦いは更に大きく変わっていく。やがては世界を巻き込む程に。

t o b e c o n t i n u e d

9 話：次なる敵（後書き）

急激に加速する戦いと間に挟まる日常の安らぎ。

淳「カフェ前での戦いを制した俺。その勝利は菖蒲の声援あってこそだった」

菖蒲「違つよ、淳の実力だよ」

孝輔「次回、遊戯王 伝説の刃 10 話：忍び寄る敵と文化祭準備」
！」

友里「次回もお楽しみに！」

陽弘「おれの、出番が……」

菖蒲「今日の最強カードは『トラップ・スタン』と『スキルドレイン』」

淳「『トラップ・スタン』はこいつ以外の罠を全て封じる！ 自分のカードも無効化しないように注意だ！」

孝輔「『スキルドレイン』はフィールドで“発動”する効果は無効化するぜい。墓地や手札の効果、更にはパワーアップみたいな永続効果には効かないぜい？」

陽弘「ライフコストにも注意だ。1000は、意外とデカイ」

友里「今日からキミも最強だ！」

淳「微妙に矛盾してるからな？ “も”って……、最強は1人だろ
う」

10話・忍び寄る敵と文化祭準備（前書き）

今回はデュエルは（中途半端に）ありますが、短めです。

淳「うん？ 粗筋みてえなのはやらのか？」

ま、ね。読んでみれば分かるんじゃないよ。

菖蒲「そっか。そうじゃ、スタート！」

10話：忍び寄る敵と文化祭準備

SIDE：淳

速攻の黒い（ブラック）忍者：LP 2900

手札：1枚

フィールド

：切り込み隊長（ATK 2900）×2、コマンド・ナイト（ATK 2900）、戦士ライズ（ATK 3300）

：連合軍（永続魔法）、神の恵み（永続罫）、オレイカルコスの結界（フィールド魔法）

淳：LP 1000

手札：5枚

フィールド

：シールド・ウィング（DEF 900）、マッシュ・ウォリアー（DEF 1200）、L・ソードマン（DEF 1300）

：伏せカード1枚

切り込み隊長（効果モンスター）

星3

地属性/戦士族

ATK 1200 / DEF 400

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、相手は表側表示で存在する他の戦士族モンスターを攻撃対象に選択する事はできない。

このカードが召喚に成功した時、手札からレベル4以下のモンスター1体を特殊召喚する事ができる。

コマンド・ナイト（効果モンスター）

星4

炎属性/戦士族

ATK 1200 / DEF 1900

自分のフィールド上に他のモンスターが存在する限り、相手はこのカードを攻撃対象に選択できない。

また、このカードがフィールド上に存在する限り、自分の戦士族モンスターの攻撃力は400ポイントアップする。

戦士ラージ（効果モンスター）

星4

地属性/戦士族

ATK 1600 / DEF 1200

このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、自分のデッキから「戦士ラズ」以外のレベル4以下の戦士族モンスター1体を選択し、デッキの一番上に置く。

連合軍

【永続魔法】

自分フィールド上に表側表示で存在する戦士族・魔法使い族モンスター1体につき、自分フィールド上の全ての戦士族モンスターの攻撃力は200ポイントアップする。

神の恵み

【永続罫】

自分がカードをドローする度に、自分は500ライフポイント回復する。

シールド・ウイング（効果モンスター）
星2

風属性/鳥獣族

ATK 0 / DEF 900

このカードは1ターンに2度まで、戦闘では破壊されない。

マッシブ・ウォリアー（効果モンスター）

星2

地属性/戦士族

ATK 600 / DEF 1200

このカードの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは0になる。

このカードは1ターンに1度だけ、戦闘では破壊されない。

「はあ……はあ……」

現在交戦中。場所は学校の近くの学生御用達のカフェの裏手。孝輔・陽弘と共に来た時に、名指しで指名されてデュエルを行っている次第だ。

日時は土曜日の午後3時13分。出し物の『コスプレ喫茶』の為にカフェではどのようなものが出されているのか調べに来たのだが……。菖蒲と井岡から遅れる連絡を受けた直後に物陰から飛び出したこいつに勝負を挑まれたのだ。

敵は『切り込み隊長』のロック効果を使った【切り込みロック】による戦士族デッキ。

あの2体の攻撃力の低さを『オレイカルコスの結界』、『コマンド・ナイト』、『連合軍』の3枚で補う作戦だ。

これまで受けたダメージは全て戦闘破壊による超過ダメージだから体の怪我は大した事はない。重めのボディブローを2、3発喰らった程度だ（充分大した事あるだろい by孝輔）。

「『切り込み隊長』2体と『コマンド・ナイト』で『シールド・ウイング』を攻撃い！ “切り込み交差剣”2連撃プラス“フレアオーディー・ソード”オ？」

「はあああつ！」

「てえいやあつ！」

「たあああつ！」

繰り出された2連続の斬撃を『シールド・ウイング』は翼を盾にガードするが、空いた胴体目掛けて炎を纏った剣が突き込まれる。防御する事敵わず、全身を炎上させて緑の盾の翼をもつ鳥は破壊された。

「ギャオオオオオオオオオオオン！」

「『シールド・ウイング』！」

「更に『戦士ラース』で『L・ソードマン』を攻撃い！」

続いて放たれた斬撃波を剣の腹で防御する『ソードマン』。しかし、すぐに剣はヘシ折れ、正中線で真つ二つにされてしまった。

「済まん、『ソードマン』！」

「そして永続魔法『波動キャノン』を発動う！ これはオラのスタンバイフェイズが経過した数×1000のダメージを墓地に送った時に与えるカードだあ！ 次のターンでオラの勝ちだあ！ ターンエンド！」

速攻の黒い忍者：LP 2900

手札：0枚

フィールド

：切り込み隊長（ATK 2900）×2、コマンド・ナイト（ATK 2900）、戦士ライズ（ATK 3300）

：連合軍（永続魔法）、神の恵み（永続罫）、波動キャノン（永続魔法・0ターン目）、オレイカルコスの結果（フィールド魔法）

くつ、こいつも“ブラーマ”からの刺客か……。どうも連中は戦い好きの奴をこっちに送りたがるらしいな。こいつもこの命を賭けたデュエルを楽しんでやがる。

ルシファアの言っていた通り、菖蒲がこの間襲われた時の敵『ケルドウ』は戦いを無理強いさせられていた。でも、俺の所にこれまで来た奴は（といっても今の奴を含めて3人だけだが）ルシファア以外、戦闘狂。実力も有る奴を送り込み、長期戦でこちらを疲れさせる戦法か？

ケルドウ（効果モンスター）

星4

地属性/天使族

ATK 1200/DEF 1600

このカードが戦闘によって破壊され墓地に送られた時、相手の墓地からカードを2枚選択して相手のデッキに加えてシャッフルする。

それより今はこいつを倒す事が先決だ。『波動キャノン』が発動した以上、次のターンを明け渡す訳にはいかない。

(このターンが勝負だな……)

このドローで、全てが決まる！

「俺のターン、ドロー！」

手札はこれで6枚と、ハンドアドバンテージは上。だが、ライフも場も奴が上。どうする……。どうすれば良い？

今の手札は……。

『絶対服従魔人』

『ダブル・プロテクター』

『ピケルの魔法陣』

『地獄の扉越し銃』

『奈落の落とし穴』

『死者蘇生』

『波動キャノン』に『扉越し銃』は使えない。これは“発動↓効果ダメージ”というカードに対応しているのであって、“墓地に送る↓効果ダメージ”という仕組みには対応していないからだ。つまり発動とダメージの間のタイムラグが邪魔なのだ。

かと言って今の手札のモンスターじゃ逆転はできない。『絶対服従魔人』は場と手札が0じゃないと攻撃できないし、攻撃したところでダメージは小さい。『ダブル・プロテクター』じゃあ攻撃力が

低すぎる。

『ピケルの魔法陣』もその場凌ぎだ。『マツシブ・ウォリアー』は1回しか攻撃を防いでくれないから『ダブル・プロテクター』を場に出しても直接攻撃で負ける。『死者蘇生』で『シールド・ウィング』を蘇生したところであいつがもう1体モンスターを出せばそこで全滅。次のターンの総攻撃でジ・エンド。

『奈落の落とし穴』で召喚したモンスターを除外できるかも怪しい所だ。

そして、俺の墓地にいるのは、後はさっきやられた『L・ソードマン』の他に『ジエネティック・ワウルフ』や『マンジュゴッド』、後は『トライクラー』や『デミス』程度。『デミス』を呼び出して一掃しようにもライフコストの数値が足りない。

万事休す、か？

「淳！」「淳くん！」

その時、こちらに駆けて来たのは井岡を引き連れた菖蒲だった。

「わ、ヤバ！ 淳くん圧されてるじゃん！」

「淳、しっかりい！ まだ負けてないよ、諦めるなあ！」

ありふれたアイツの言葉。でも、その言葉を聞いた時、俺の心の

中から何かが湧き上がって来た。

「勝って、淳！ 絶対に諦めちゃダメ！ ルシファーさんと約束したの忘れた！？ こんなトコロで膝折ってちゃ笑われるよ！」

「っ！ ああ、もちろんだ！」

腹の底からファイトが湧き上がる。負けない、負けたくないという思いが全身に満ち、諦めの心がどこかへ吹き飛ぶ。

そうだ、まだ負けていない！ 手札にも場にも逆転のカードは無い。でも、何かある筈だ！

（そうか！ この手があった！）

最初のターンから場に伏せていた1枚の罠カードトラップを思い出す。これとこれを組み合わせれば……！

「リバーズカードを2枚セット！ 更に魔法カード『死者蘇生』を発動！ 蘇れ、『シールド・ウイング』！」
『ギイイイイッ！』

シールド・ウイング：DEF 900

死者蘇生

【通常魔法】

自分または相手の墓地に存在するモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。

再び鋼の翼を織り成し舞い降りる鳥獣。悪いけど……。

「そして『マツシブ・ウォリアー』と『シールド・ウィング』をリリース！ 手札の『絶対服従魔人』をアドバンス召喚！」
『グイヤアアアアアアアアアアアアアアアッ！』

絶対服従魔人（効果モンスター）

星10

炎属性/悪魔族

ATK 3500 / DEF 3000

自分フィールド上にこのカードだけしかなく、手札が0枚でなければこのカードは攻撃できない。

このカードが破壊した効果モンスターの効果は無効化される。

絶対服従魔神：ATK 3500

これは賭けだ。次のターン、あいつが攻撃力1500未満の戦士族か魔法使い族、或いは新しい『コマンド・ナイト』を出したら俺

の負け。『戦士ラース』の攻撃で『絶対服従魔神』は倒れ、残った攻撃でライフはゼロだ。

対し、1500以上のモンスターを出したら俺の勝ち。1ターン目から伏せていた罠^{トラップ}を使って奴を倒せる。

「ターンエンド！」

淳：LP 1000

手札：2枚

フィールド

：絶対服従魔神：ATK 3500

：伏せカード3枚

「ふはははは、オラのターン、ドロー！ これでオラのライフが『神の恵み』の効果で500回復だあ！」

速攻の黒い忍者：LP 2900↓3400

これで、奴の引いたカードで、決まる！ 頼むぞ！

「罠カード発動！ 『バトルマニア』！」

「そんなモン関係無い！ 『波動キャノン』を墓地に送って、1

000ポイントのダメージを喰らええ！」

キュイイイン、と光をずっと吸収し続けていたキャノン砲が吸収を止める。砲口から強い光が発せられたかと思うと、太いビームが照射された。悪いがそいつは通さねえ！

「リバースカードオープン、『ピケルの魔法陣』！ このターンの俺への効果ダメージは全て0となる！」

俺の足元に幾何学的な魔法陣の出現と同時に透明な円柱のバリアが張られ、砲撃をブロックする。

バトルマニア

【通常罫】

相手ターンのスタンバイフェイズ時に発動する事ができる。

相手フィールド上に表側表示で存在するモンスターは全て攻撃表示になり、このターン表示形式を変更する事はできない。

また、このターン攻撃可能な相手モンスターは攻撃しなければならぬ。

波動キャノン

【永續魔法】

自分のメインフェイズ時、フィールド上に表側表示で存在するこのカードを墓地へ送る事で、このカードの発動後に経過した自分のス

タンバイフェイズの数×1000ポイントダメージを相手ライフに与える。

ピケルの魔法陣

【通常罠】

このターンのエンドフェイズまで、このカードのコントローラーへのカードの効果によるダメージは0になる。

「防いだかぁ。だが、それも時間稼ぎい！　オラは『鉄の騎士ギア・フリード』を攻撃表示で召喚ん！」

277

鉄の騎士ギア・フリード（効果モンスター）

星4

地属性/戦士族

ATK 1800/DEF 1600

このカードに装備カードが装備された時、その装備カードを破壊する。

鉄の騎士ギア・フリード：ATK 1800 ↓ 2300 ↓ 3700

勝った！

「『奈落の落とし穴』を発動！ 攻撃力1500以上のモンスターが現れた時、そのモンスターをゲームから除外する！」
「んだとお！？」

ガゴン、といきなり地面が消失し、『ギア・フリード』が落ちて行く。無限の深さを持つ落とし穴が一度落ちた者を世界から排除する。

奈落の落とし穴

【通常罠】

相手が攻撃力1500以上のモンスターを召喚・反転召喚・特殊召喚した時に発動する事ができる。

その攻撃力1500以上のモンスターを破壊しゲームから除外する。

「くっ、オラの場のモンスターじゃあ勝てない。ターン終了う「待ちな」ああ？」

「忘れてないか？ お前の場のモンスターは俺の『バトルマニア』の影響を受け、必ず攻撃しなくてはいけないという事を！」

「しまっ！？」

「『絶対服従魔人』は自分から攻撃する分には面倒な制約がつく。

でも、そっちから突っ込んで来るのなら、何の条件も無く戦える！」
『うおおおおっ！』

「ま、待て、モンスター達い！」

『黒い忍者』の制止も聞かず、4体の戦士族モンスターは次々と突っ込んで行く。

正面から剣を振り上げた『戦士ラース』を殴り倒し、

「『戦士ラース』、粉碎！」

真後ろから斬りかかった『コマンド・ナイト』を炎を吐いて焼き払い、

「『コマンド・ナイト』、撃破！」

左右から順に剣を突き込んだ『切り込み隊長』を、両掌から発した衝撃波で撃墜する。

「『切り込み隊長』、玉砕！」

そして、総じて発生するダメージ量は……。

「合計ダメージ4200がお前のライフポイントを襲う！　したがって、お前のライフは0となり、俺の勝ちだ！」

「まさか、『絶対服従魔人』にこんな活用法があああああっ！」

速攻の黒い忍者：LP　3400↓3200↓2400↓500↓0

まだ、負けられないんだ！
“ブラーマ”を壊滅させる、その日
まで！

「ふう、何とかなったか……。ありがとうな、菖蒲」
「私は何もしてないよ、全部淳の功績」

まだズキズキと痛む腹を押さえて服に付いた埃を払う。そうは言ってもな、お前の声援が無かったら、多分俺は諦めていた。敗北を認め、今頃は魂抜かれていた。

でも菖蒲が来てくれたから『バトルマニア』の存在を思い出し、一発逆転の可能性を見出せた。紛れもなく菖蒲のお陰だ。

「ちょいと時間喰い過ぎたな。ここまで梃子摺っちまうたあ、情けねえ」

「んー、でも淳くんが苦戦してくれたお陰で遅刻したアタシ達と合流できたんだし。それでオツケイって事で！」

「井岡……（汗）」

まったく、チャッカリしているというか、図々しいというか……。

「ほ、ほらほら！ アタシ達はここのカフェに調査に来たんでしょ？ 早くしないと日が暮れちゃうよー！」

「友里……、はあ、しょうがない。行こっか！」
「ああ」「おう」「うむ」

S I D E : バ ー サ ー ク ・ デ ッ ド ・ ド ラ ゴ ン

―― 物陰

んーむ、思ったよりやるな、あいつら。いや、あいつカ。

女の方より男の方（名前は忘れタ）が腕が立つってのは本当だつたみてえだナ。

やっぱ潰すなら女の方からダ。弱い方から消して強い奴を精神的に追い詰めル。そうすりゃ倒すのは楽だからナア。

オデは別に友情だの絆だのは否定しネエ。実際、結束した奴に手痛くやられた事があつたし、その強さを認めないのはただの負けず

嫌いのバカか能無しダ。手を繋げば自分に足りねえトコを補える上に、大勢が相手でも心強イ。

だが、その強さにも弱点がある。

「ギヒヒヒ、やり易いからな、仲間がいる奴ハ」

仲間がやられると、その絆が強ければ強いほど脆さが露呈すル。怒り狂うか、悲しむかは分からねえが、とにかくそうなりや隙だらけダ。楽に潰セル。

「さて、本腰上げる力」

流石に3人も偵察にやって返り討ちにあっちゃあボスも怒るだろウ。好い加減消しにかからねえと、オデモ“神”とかいうヤツの生け贄（今はリリースだった力？）の素材にされちまウ。

ま、進んでなるような死にたがりじゃねえんです。狩らせてもらうぜ？

SIDE：無し

物陰でそんな剣呑な事が進行しているとは露知らず。淳、菖蒲、孝輔、陽弘、友里の5人はカフェで飲み物片手にメニューと格闘していた。

「このクリームの乗ったヤツなら意外といけると思うんだ」

「女の子の観点から言わせてもらつと、やっぱり苦くなくてローカロ

リーなのが良いな」

「何か食えるモンを出すべきだい。サンドウィッチやおにぎりが定番かい？」

「クッキーやアイスクリームも、要るだろう」

「んー、接客のマニュアルも必要だよな」

ツラツラと案件を消しては書いていく。文化祭までそこまでの余裕は無い。焦る必要は無いが、急ぐ必要は有る。

だが、彼らは知らない。“ブラーマ”の猛者が本格的に動き出した事に。そして文化祭が思いもよらない程に混沌に満ちる事になる事も。全ては今が幸せだと思える程に、世界は熾烈な戦いの日へと歩を誰もが知らない内に進めているのだ。

t o b e c o n t i n u e d

10話：忍び寄る敵と文化祭準備（後書き）

淳「とうとう文化祭の当日！ 俺達はカフェを運営しながら楽しい一時を過ごしていた。そして、俺はとある少女と出会った」

友里「口説いちゃダメだよ？」

淳「お前は俺を何だと思ってるんだ！」

菖蒲「はいはいそこまで。彼女との出会いを聞いた私達は、一緒に回る事を考え始め……」

陽弘「次回、遊戯王 伝説の刃『11話：カフェと病院回想録』」

孝輔「次回も楽しみに待ってるよい！」

淳「今日のキーカードは『バトルマニア』！」

菖蒲「攻撃を必ず起こさせる罠カード」

孝輔「ハイパワーなモンスターと戦わせようぜい！」

陽弘「力の低い相手モンスターの、殲滅もできるぞ」

友里「『立ちはだかる強敵』を使い分けよう！ それじゃまた次回
！」

11話：カフェと病院回想録（前書き）

学園祭を回る5人。だが、そこにとある少女が現れて……。

友里「ま、ガンバ！」

淳「人事だと思いやがって……！」

11話：カフェと病院回想録

——文化祭当日・AM 8:59

SIDE：菖蒲

はいどうも、美種^{みたね} 菖蒲^{あやめ}です。外で花火（夜のヤツじゃ無くてポンポンという煙だけのアレ）が鳴る音を聞きながら開店準備を丁度終えた所です。

正直な話、藤木のヤツの提案に乗るのは不承不承といった感じだったんだけど、エロを抜けばナイスなアイデアばかりだったんで仕方なしに呑み込んだ次第。お店の名前だって悪くないし、カフス（手首のあれ）の作り方が載っている本をくれたのも藤木。でもでも、素直に感謝の心を表す事は私を含めた女子は絶対にしない！

（美種 菖蒲の写真。五枚で四千円）↑藤木

（高すぎだろ！）↑男子A

（嫌なら辞めろ。値下げは一切しねえ）↑藤木

（くっ！ 足元見やがって……）↑男子B

「くおらあっ！ 本人の許可無く盗撮写真を売買するなあ！」

陰でコソコソと人気のある人のコスプレ写真を高値で売りさばく奴にくれてやる感謝の言葉なんざ無い！

おっと、そんな事言ってる間にお客さん第一号だ。それでは早速……。

「いらっしやいませ、カフェ春爛漫にようこそ！」

……恥ずかしい。何なのさ、春爛漫って！

—— A M 10:24

「はい、ミルクコーヒーとカップケーキです」

意外と楽しい配膳作業。片手のお盆の上に乗せた飲食物をどれだけ綺麗に運べるかが私自身にかかっているという軽めのプレッシャーが逆に心地良い。
そして何より……。

「これでラスト！ 『インターセプト・デモン』でダイレクトアタック！」

「うわぁっ！」

お客さん：LP 150↓0

「俺の勝ちだ！」

『ヒューヒューッ！』

淳のデュエルを間近で見られる。何となくだけど、それが嬉しい。

以前は隣でデュエルしたけれど、あの時はそんな事感じる余裕は無かったからね。

胸元にバッジをつけた人のみを相手にデュエルを申し込み、勝てば賞品を貰う事ができるという特典はどうも予想以上の反響を呼んでいるみたいだ。

腕に覚えがあれば挑戦できる。そしてそれを易々とさせないのが、クラスの中でも上位の実力を持つ私達だ。ランクによって貰える賞品が変わり、淳や私クラスになると中々豪華。

そして挑まなくてもデュエルは頻繁に行われているからそれを見ながらカフェで寛げる。一回につきかかる時間はざっと十分から十五分。そのくらいで次のお客さんに入れ替わればお店の回り方としては十分らしい。

かくして、私達のカフェは順風満帆の営業なのです。

「あやポン。次はあやポンだよー」

「あ、オツケー！」

さて、賞品欲しさに挑んで来た挑戦者はどこのどなたかな？

チャレンジャー

――校舎裏・同時刻

SIDE：無し

「何しに来たい」

「そ、それはこの文化祭を……」
「お題目は必要無エよい。第一、あんたはここのOGじゃ無え筈だ
い」

校舎裏、打って変わって静寂が場を支配するここで、孝輔と茜が
話し合っていた。というより、孝輔が茜を咎めているといった方が
良いのかも知れない。

「前にも言ったハズだい。オレ達は互いを慰め合う関係、絶対にオ
レと茜姉ちゃんとは結ばれない、結ばれてはいけない、ってない」
「それは、解っているわよお……」

「だったら、何故オレを探したんだい？ オレだって茜姉ちゃんの
事を思っている、いや、思っている。だが、あの日、その全て
は無効と化した。

それが解らない程、茜姉ちゃんはバカじゃ無い、違つかよい」
「ッ！」

凶星を指摘され、言葉に詰まる茜。この二人の背後にはとある日
の夜の出来事があった。あの時まで孝輔は彼女の事を好いていた。
飄々としてはいても、恋心は抱いていた。

だが、それはもう一年も前の話になる。その日から孝輔と茜の関
係は壊れた。木端微塵に砕け散り、ただの隣人から、片思いの相手
から特別な、本当はなりたくなかった関係になった。

茜は孝輔の思いを利用し、踏みにじったのだ。

「イヤだったら、もう会うのは辞めるしか無い。オレ達は別に付き
合っている訳でも、親族でも無い。縁を切ろうと思えば簡単に切れ
るハズだがない？」

「ワタシは、そんなの嫌だよお……」

辛辣な孝輔の言葉にか細い声で反対する茜。

無慈悲にも映るこの光景も、孝輔が被害者である事を鑑みれば、或いは当然なのかも知れない。

「オレはもう戻るぜい。ムリ言っただけ出して来たんだからない」

少年の思いを踏みにじった茜。

今もその傷を背負う孝輔。

一体全体、彼らの間に何があったのだろうか。

——上空・同時刻

遙か空高く、地上の肉眼では黒い点程度にしか認識されない程高くに彼らはいた。この高度なら飛行機よりも高いから視認される心配は無い。

「オデは待機するよう命令されタ。お前ら、地上には降ろしてやるが、その後は自分でやれる力？」

そう、『バーサーク・デッド・ドラゴン』率いる一味だ。

その巨体の背中には大小様々なモンスターがいた。

そしてその全員が肯定の言葉を述べると、満足そうに『デッド・ドラゴン』は笑った。

「ギャハハハハハッ！ 全く、おめえらも好きモンだナァ！ 負けたら結界ん中に封印されちまうんだぜ？」

オデ達精霊は肉体がネエ。だから魂の封印ってのは存在そのもの

を喰われちまうつてのにヨオ。こっちの陣営が勝つちまったら、絶対に命はねえんだぜ？」

その言葉に背中にいた『ヘル・ソルジャー地獄戦士』が答える。

「それは、重々承知しております。しかし、我らの生き甲斐は戦い殺める事。ならば、戦いの中で命を落とすのは本望であります」

「死に方がそれで良いってんなら止めねえけどよう。ま、今は人間が多すぎる。もう暫く様子見ダ」

そう言つて再び大声で笑う。地上には空耳程度にしか聞こえていないだろう。

「突撃は午後、いや夕方辺りカ。全員、デッキの調整やつとケ。今回の相手は手強いゾ？」

—— カフェ春爛漫・AM 11:49

SIDE：淳

「畏発動、『メテオレイン』！これでこのターンのみ俺の場のモンスターは貫通効果を得る！『ウジャト眼を持つ男』で守備表示の『辺境の大賢者』を攻撃！」

「うわあああああつ！」

お客さんB↘E:L O S E

菖蒲に友里（折角なのでこう呼んでほしいと言われた）、孝輔に陽弘も額の汗を拭う。俺より相手にした人数は格段に少ないが、一息入りたいのも心情だろう。

「つ、疲れたあ……」

「もう限界……」

「ぬう……」

「きゅ、休憩が欲しいぜい……」

ペタン、と座り込む菖蒲＆友里。膝に手をつく陽弘に、壁に寄り掛かる孝輔と、何時間も連戦（そして連勝）しているのだから疲れも溜まるだろう。

「少し早いが、シフト終わらせるか？」

『さ、賛成……』

クラスメイトの提案に、乗らない道理は無かった。いや、マジで疲れたんです。勘弁して下さい……。

—— 別の教室・PM 12:25

ふう、と手にしたお茶の入ったコップから口を話して一息入れる。ここは俺達がやっているところとは別の、三年生のクラスがやっている食べ物屋だ。何やってるか？ 昼飯食ってるんだよ。

俺達のところはコスプレや装飾に力を入れ、かつ可能な限りメニューにも力を入れている。それに対してここは派手さこそ無いが、

コップは紙じゃ無い上に接客も行き届いている。メニューは俺達の浅く広くの逆に行く深く狭く、というものだ。

「うーん、強力なライバル店だねえ」
「違うない」

ちよつと苦々しい顔をする友里と陽弘。うん、同感だ。
その時だった。

「雷条さん！」
「ん？」

後ろから声をかけられた。振り返ると、そこには一人の少女がいた。

ウェーブのかかったショートカット、菖蒲と同じ円らな瞳、若干焼けた肌。この娘は……。

「えーと、阿野さん？」
「覚えていてくれましたか、阿野 名波です！」
「知り合い？」

隣に座った菖蒲が聞いてくる。

「俺がこないだ病院に入院した時に知り合った、一コ下の後輩だよ」

——先週末日曜日

「『ダーク・ヴァルキリア』で『ブラッド・ヴォルス』を攻撃！」
「させねえ！ 畏カード発動、『デモンズ・チェーン』！」

俺が入院していた病院でも、やはりデュエルは娯楽であり競技。ディスクを持つている人が貸し出し、皆でデュエルをやっていた。日曜の昼、病院の屋上で十数人の老若男女がデュエルをやっていると聞いて顔を出し、その時に知り合ったのが中々勝てないと悩んでいた少女、阿野 名波だった。

「そりゃ！ 『火炎草』と『ドレイク』でダイレクトアタック！」
「きゃあああつ！」

名波：LP 1000↓0

「うう、また負けた……」
「あっはははは、こいつ弱え！」

どうやらランク付けのようなものがあり、彼女はその最下層に位置する実力だったらしい。事実、年齢通り高校生の見た目の彼女は小学生ぐらいの男の子に負けていた。

「どうして勝てないの……？」

打ちひしがれているその姿は、デュエルを始めたばかりの俺の姿だった。あの時、菖蒲が俺に色々お手解きしてくれたんだっただな。

「君、貸してみな？」
「え？ あ」

後ろから近寄ってデッキを半ば奪うように手に取って見る。成程

……。

「このデッキの特徴と戦い方は分かった。少し借りるぞ?」

返事も聞かずにディスクに彼女のデッキをセットする。そのまま
その中で1番強そうな奴に勝負を持ちかけた。

今も壮年の男性に勝利したそいつは中学生ぐらいの坊主刈りで、
これでもかと自信に満ちていた。

「あんた、この中じゃかなり強そうだな」

「ああ、暫定だけど一位だぜ」

やっぱり。勘は鈍ってないな。

「このデッキ、その女の子のものなんだが、こいつを使う俺とデ
ュエルをしてくれねえか?」

「良いけど……。最弱のデッキを使うんざ、あんた、頭イかれて
るのか?」

「御託は良い。始めるぞ?」

「物好きだな、良いぜ!」

『デュエル!』

「俺の先攻で行かせてもらつ。ドロ―」

これなら……。

「『強欲な壺』を発動! デッキからカードを2枚ドロ―!」

『強欲な壺』はこのデッキの中の唯一のドロースースだ。早めに
来てくれて助かったぜ。

「俺は『ガーゴイル』を守備表示で召喚」

ガーゴイル：DEF 500

「ターンエンド」

このターンを凌げば、俺の勝ちだ。
後攻1ターンキルがなければ良いんだが……。

淳：LP 4000

手札：6枚

フィールド

：ガーゴイル（DEF 500）

：魔法・罫無し

「オレのターン、ドロー！ ふん、そんなザコを何匹並べても勝て
やしねえよ！」

言ってる。ザコだろうと何だろうと、人間の都合で捨てられるカードは無い！

「『天使の施し』を発動！ オレは手札の『ヒステリック・エンジェル』と『ツインバレル・ドラゴン』を墓地に送る！ 更にこいつらをゲームから除外し、『カオス・ソーサラー』を特殊召喚！」

カオス・ソーサラー（効果モンスター）

星6

闇属性/魔法使い族

ATK 2300 / DEF 2000

このカードは通常召喚できない。

自分の墓地の光属性と闇属性のモンスターを1体ずつゲームから除外した場合に特殊召喚できる。

1ターンに1度、フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択してゲームから除外できる。

この効果を発動するターン、このカードは攻撃できない。

カオス・ソーサラー：ATK 2300

白い光と黒い光を双方の手にそれぞれ宿した魔術師が次元の歪みから出現。なんとなく伝説のカード『ブラック・マジシャン』に似ているが、これは実はあのカードに憧れを持つ人が余りにも多すぎ

てそっくりさんのカードが多く出回るようになったからだとか。

「『ランプの魔精・ラ・ジーン』を召喚！」

ランプの魔精・ラ・ジーン：ATK 1800

続いて緑色の精霊がランプの中から飛び出す。

成程、恐らくこいつのデッキは闇属性と光属性の混合種。強力な効果を持つモンスターが多く、かつ墓地に行った時には『カオス・ソーサラー』の召喚コストになる。

無駄を省き、かつ力強い良いデッキだ。これなら生半可な実力で太刀打ちできない。

だがな……、『強いデッキ』や『弱いデッキ』はあっても、『最強のデッキ』や『最弱のデッキ』は無い！

「行くぞ！ 『ラ・ジーン』でそのザコモンスターに攻撃！」
「むっ！」

『ラ・ジーン』の吹いた青い炎で『ガーゴイル』が焼き払われる。
これで俺の場はガラ空きか。

「『カオス・ソーサラー』でダイレクトアタック！ “ツイン・マジック・モウ”！」

奈落のような光と闇が同時に放たれ、俺に直撃する。

う、治りかけの体には思った以上に負担だな、こりゃ……。

「ぐっ………！」

淳：LP 4000 ↓ 1700

「リバーズカードを3枚出し、ターン終了だ！」

暫定一位：LP 4000

手札：1枚

フィールド

：カオス・ソーサラー（ATK 2300）、ランプの魔精・ラ・

ジーン（ATK 1800）

：伏せカード3枚

（こいつらは『はたき落とし』に『魔法の筒』、そして『デストラクション・ジャマー』だ。何が来ようと負けは無え！）

ニヤニヤと笑い、暫定一位は自分の場のリバーズカードを時々見る。

はーん、自分の伏せカードを頭ン中で説明してるんだろ。

「俺のターン！」

悪いがそれは、自己説明敗北フラグつつー……、負けの前兆だ！

「ドロー！」

「罨カード発動！ 『はたき落とし』！ それを捨てる！」

捨てたカードは『ツルプルン』。構わない。

俺の方程式に揺るぎは無い。

「もう、ムリですよ……」

後ろでか細い声が聞こえた。

声の持ち主はこのデッキの持ち主、阿野 名波だ。

「そのデッキには強いモンスターなんて入っていません……。この誰かは知りませんが、これ以上はもう良いです。負けて恥を掻く前に辞めて下さい！ ワタシの弱いデッキのせいで貴方に負けてほしくないんです！」

所詮、負け犬は死ぬまで負け犬なんですよ！」

「それは違う」

彼女の悲愴な叫びに、俺は信念を持って異を唱える。確かに、このデッキで猛者に勝つのは至難の業だ。だが、一生負け犬なんて事には、俺がさせない！

「確かに、このデッキをずっと見たが、攻撃力はあつて精々1500程度だった。普通なら投入されているドロースースも、ポピュラーな『ミラーフォース』や『和睦の使者』も無かった。コンセプトは【ローレベル】を名乗れる程でも無かったし、普通の相手に真正面からぶつかれば、負け続けるのも頷ける。

だが、このデッキには、確立の低い勝利への方程式が埋め込まれているんだ。それがあると知っているのに、諦める事はできない」

そして付け加える。

「そして、上手く行けばこのターン中に勝てるかも知れない」

『!!!!!!?』

皆が驚愕の表情を浮かべる。

当たり前か。このデッキは常人が見ても強い部類に入るものじゃ無い。

が、俺にこのデッキは味方してくれた。

「や、やれるモンならやってみろ！ 言っとくがニイチャン、そいつは一度だって勝った事はないんだぜ!？」

「それは俺が勝てないという理由にならない。魔法カード『ハリケーン』を発動。全フィールド上の魔法・罠を持ち主の手札に戻す」

ビュオオオオオオオオツ！ と突風が吹き荒れ、相手の場に残った裏側のカードが巻き上がる。両方とも罠カードか……。

「あ！（チクシヨウ、破壊じゃねーから『デストラクション・ジャマー』が使えない!）」

「更に俺は『スピード・ウォリアー』を召喚し、『進化する人類』を装備する!」

『はあああ、てやっ!』

スピード・ウォリアー：ATK 900

飛び出して来たのはクリーム色のアーマーを着てローラースケー

トを履いた戦士。ボンベとゴーグルを装着している事から、その最高速度はかなりのものだという事が覗える。

更に体の大きさが倍以上になった。

「『進化する人類』は俺と相手のどちらのライフが上かで効果が決まる。俺なら装備モンスターの元々の攻撃力は1000に、相手なら2400になる！」

進化する人類

【装備魔法】

自分のライフポイントが相手より下の場合、装備モンスターの元々の攻撃力は2400になる。

自分のライフポイントが相手より上の場合、装備モンスターの元々の攻撃力は1000になる。

スピード・ウォリアー：ATK 900 ↓ 2400

「か、『カオス・ソーサラー』を上回った!？」

そう、これが【ローレベル】の戦い方。魔法や罠で低い攻守を補い、ロックのよくあるボーダーラインである攻撃力1500やレベル4をすり抜ける。

一見するとザコ揃い。だが、それは相手の油断を誘う常套手段であり、その裏に隠れている真の姿を前に敗北を喫するものだ。

「更に手札から魔法カード『ダブルアタック』を発動！ 手札のモンスター1体を墓地へ送り、それよりもレベルの低いモンスター1体に2回攻撃の権限を与える！」

この効果で、手札のレベル3の『ハイ・プリーステス』を墓地へ送り、『スピード・ウォリアー』は2回の攻撃ができる！」
「なにぃ！？」

ダブルアタック

【通常魔法】

自分の手札からモンスターカード1枚を墓地に捨てる。

捨てたモンスターよりもレベルが低いモンスター1体を自分フィールド上から選択する。

選択したモンスター1体はこのターン2回攻撃をする事ができる。

ハイ・プリーステス（通常モンスター）

星3

光属性 / 魔法使い族

ATK 1100 / DEF 800

聞いたことのない呪文を唱え、あらぶる心をしずめてくれる。

「そして『スピード・ウォリアー』は召喚されたターンのバトルフェイズのみ元々の攻撃力は倍になる！ 行け、『スピード・ウォリアー』！ 『カオス・ソーサラー』を攻撃！ “ソニック・エッジ”！」

スピード・ウォリアー（効果モンスター）

星2

風属性/戦士族

ATK 900 / DEF 400

このカードの召喚に成功したターンのバトルフェイズ時にのみ発動する事ができる。

このカードの元々の攻撃力はバトルフェイズ終了時まで倍になる。

スピード・ウォリアー：ATK 2400 ↓ 4800

『攻撃力4800ツ！？』

『スピード・ウォリアー』がローラースケートで『カオス・ソーサラー』と『ラ・ジーン』に走り寄り、逆立ちをして回転キックをお見舞いする。カポエラという足技の格闘技だろうか。

回転キックが不気味な魔術師とジンというの首に命中し、凄まじい勢いで吹っ飛ばす。遙か上空まで蹴り飛ばされた『カオス・ソーサラー』と『ラ・ジーン』は目に見えない程のサイズになり、それ

きり戻って来なかった。

「のわああああああああっ！」

暫定一位：LP 4000↓0

淳：WIN

暫定一位：LOSE

デュエルが終わっても、誰もが無言だった。最弱のデッキで最強に勝利した。それがまだ受け止めきれて無いのだろう。

「ワンターンキル。俺の勝ち、で良いか？」

俺の言葉にハッとなって皆が騒めく。俺に近づくのはその十数人の中から二人。

「負けたよ、スッゲエなニイちゃん」

「ワタシのデッキに、こんな戦い方があったなんて、知りませんでした！」

暫定一位の少年とデッキの持ち主である阿野さんが話しかけて来る。

「でもよお、オレがあの時直接攻撃しなかったらまだ勝ち目はあったかもなあ」

「いや、除外されたら分からなかったが、破壊だったら俺の勝ちは

変わらなかったよ」

そう言って最後に1枚だけ残った手札を相手に見せる。

『早すぎた埋葬』

「あ、ワタシの嫌いなカード……」

じゃあ何で入れているんだと聞きたいだろうが、生憎とこのデッキは四十枚ジャスト。どんなカードでも入れないと間に合わないのだろう。

「これでライフを払えば『進化する人類』の2400に上昇する方の条件が整う」

『進化する人類』の1000にする方は一見するとデメリットだが、攻撃力が1000以下（未満が理想的）ならパワーアップに変わりはない。

如何にしてデメリットを抑え、利用し、消すか。それが決闘者^{デュエリスト}として問われる腕前的一种だろう。

この後、俺と阿野さんと仲良くなり、デッキ構築の指導をしたり、同じ高校という事に驚いたり、退院が近いという事を話し合ったりと、トントン拍子で仲良くなった。

「じゃ、出会ったら高校で」
「はい、それでは！」

——現在

「と言う訳なんだ」
「はー。よーするに淳くんは退院前に女の子クドいてました、と」
「全っ然違う！ 不名誉だ！」

何で相変わらずテメエはとんでもねえ方向に話を曲解するんだよ、
友里！ んな事一言たりとて言ってねえだろ！

「ま、冗談はさて置き」
「冗談に聞こえねえんだよ……！」
「アタシ達と一緒に文化祭を回りたいのかい、ナツチ？」
「ナツチ？」

また変なあだ名を……。俺の名前はイジれないからってそのまま
だが、基本的にこいつはあだ名つけて呼ぶからな、人の事。

「名波だからナツチ。どう？ 決定！」
「え、えと？ ワタシまだオーケーしてない……」

阿野さん、諦めてくれ。こうなりや付き合いの長い菖蒲でも止め
られないんだ。

「で、どうなのよ？ 一緒に回りたいの？」
「えーとまあ、そーいう、事、ですね……」

ナツチという奇妙なあだ名をつけられた阿野さんは、凄まじく落胆した。何だ？ あのあだ名がそんなにシヨックだったか？

「（うー、折角お近づきになれるチャンスだったのに……）」
「「「「「？」「」「」」」」」

モゴモゴと何かを言っていたが、よく聞き取れない。耳の良い菖蒲に視線をやっても首を振ったし、陽弘も孝輔も聞き取れなかったみたいだ。で、俺達に聞こえなかったって事は、1番離れていた友里にも聞こえなかっただろうと思って、でも一応目で聞いてみる。

「ん？ どつたの？」

だめだ、まずアイコンタクトが成立しない。

苦々しい表情になったのを自覚しながら、阿野さんと一緒に皆で校内を回るプランを考え始めた。

視界の端で、友里がニヤツ、と笑ったような気がした。

SIDE：友里

おっすー！ あれ、ウィーッス？ どっちだっけ？

まあ、それはさて置き。

うーん、淳くん狙いが増えたか。あやポンも無意識に淳くんの事を意識してるみたいだし、これは恋の三角関係の予感だねー。

無意識に意識、なんてね。面白くない？　こりやまた失礼致しました。

ま、淳くんは格好良いしね。アタシは興味無いけど。

さーで、アタシとしてはあやポンに勝ってほしいケド、あっさり勝利しちゃつまらないんだよねえ。やっぱここは二人を煽って煽って……。

あーでもなあ、それでナツチに軍配が上がったらシャレにならないんだよねえ。どーしよっかな。

……、にしてもこの感覚は何だろう？　ずっと上、まるで宇宙から監視されてるみたいな感覚は……。

自慢じゃ無いけど、アタシは視線や気配に敏感だし、五感は常人よりも鋭い。そういう生まれ育ちだから仕方ないけど、だからこういう人の集まっている所はちょっと落ち着きにくい。アタシが普段

からハイテンションなのもそういうのを気にしないようにする為なんだ（まあ半分は性分だけ）。

直感なんだけど、どうも一波乱来そうだね。アタシはあやポンよりも弱いけど、吹けば飛ぶような埃じゃ無い。

せめて友達ぐらいは守ってみせるよ。アタシの唯一の親友を、その思い人を、心安らぐ友達を。そのくらいはやってやるんだよ。

さて、何が来るかな。命を懸ける覚悟はできてるよ！

t o b e c o n t i n u e d

11話：カフェと病院回想録（後書き）

淳「皆で楽しく回っていた文化祭！　だが、帰る間際になってとうとう奴らがやって来た！」

菖蒲「上等だよ！　全力で迎え撃つ！」

陽弘「オレ達を、忘れてもらっては困るな」

孝輔「助太刀するぜい！」

友里「次回、遊戯王　伝説の刃『12話：宣戦布告』！　お楽しみに！」

淳「今日の最強カードは『進化する人類』！」

名波「数少ない、元々の攻撃力を変動させるカードです！」

菖蒲「攻撃力1000未満のモンスターに装備させればデメリットは無くなるよ！」

陽弘「『軍隊ピラニア』や『人造人間7号』に装備させれば、逆転を狙うのも容易いだろう」

孝輔「分かってるたあ思うが、ライフが並んでちゃ意味ねえから氣いつけない！」

友里「攻撃力をアップさせて、戦局を引っ繰り返そう！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1881t/>

遊戯王 伝説の刃

2011年10月31日16時08分発行